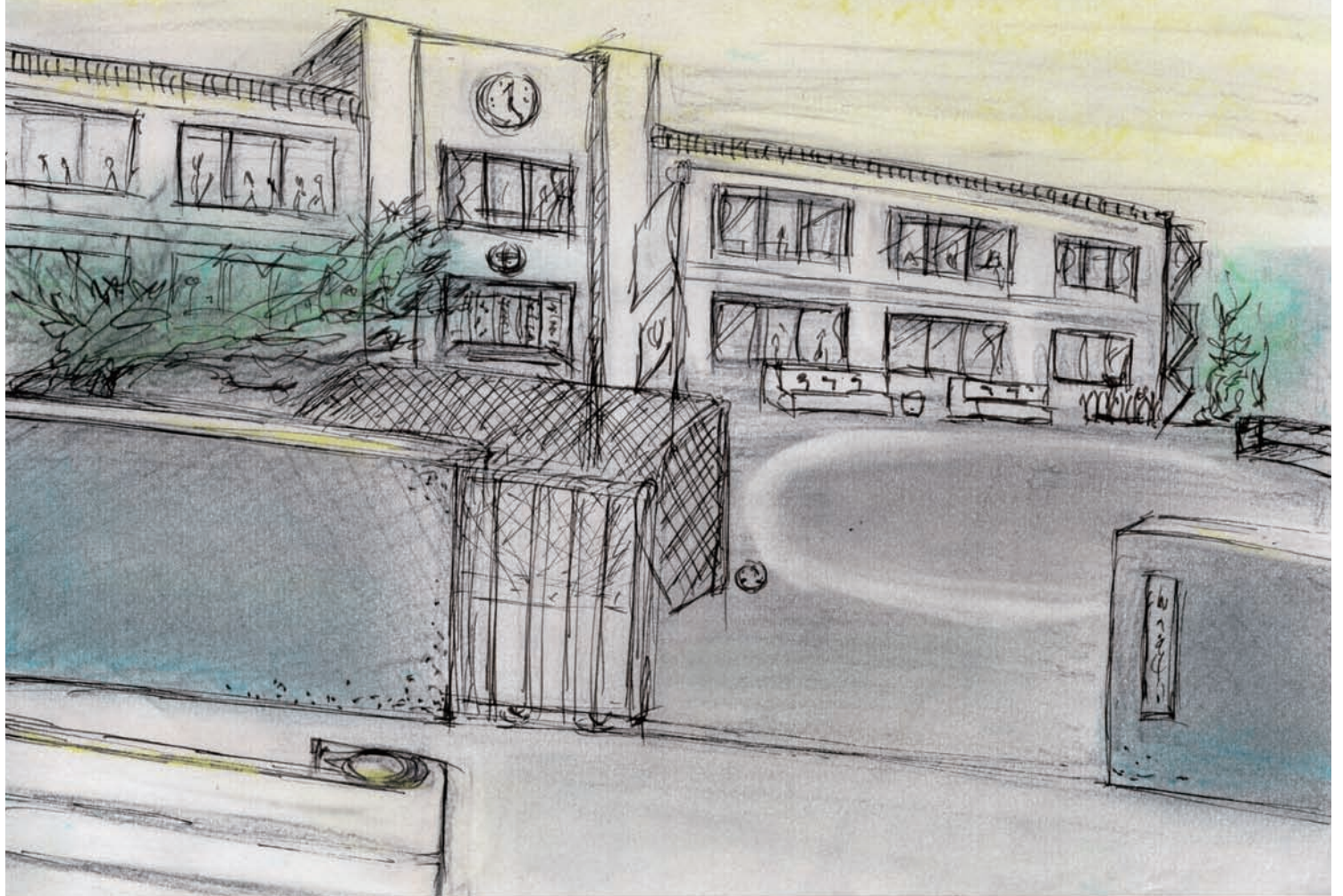


練馬区

学校歯科医会

65年

記録誌



練馬区学校歯科医会65年記録誌 目次

序 文	練馬区学校歯科医会会長	草柳 英二
祝 辞	公益社団法人日本学校歯科医会会長	川 本 強
祝 辞	公益社団法人東京都学校歯科医会会長	鈴 木 博
祝 辞	練馬区教育委員会教育長	堀 和 夫
祝 辞	公益社団法人練馬区歯科医師会会長	斉 藤 良 造

学校歯科医会のはじまり	11
練馬区学校歯科医会の歩み	13
練馬区学校歯科医会の65年の略史	15
練学歯と共に40年	25
功績調書	29
保健主事、養護教諭との懇談研修会	31
各種大会	33
全国学校歯科保健研究大会のこれまでのあゆみ	37
学校保健研究大会	41
虫歯半減運動	47
学術研究資料	61
「練学歯だより」掲載項目	63
練馬区学校歯科医会歴代役員	73
練馬区学校歯科医会会員名簿	93
練馬区学校歯科医会会則	101
練馬区学校歯科医会会則施行規則	105
思い出の一言	108

序文

練馬区学校歯科医会 65年記録誌 発刊によせて



練馬区学校歯科医会
会長 草柳 英二

練馬区学校歯科医会は、練馬区の児童および生徒の歯と口の健康推進に日頃より努力を費やし、学校歯科保健活動に邁進しております。我々の良き指導者 故西連寺愛憲先生のお言葉を引用すれば、「練馬区学校歯科医会は、練馬区が板橋区から分離独立した際に独立し創設、虫歯を作らない事をスローガンに虫歯予防に力を注いでまいりました。一滴の水が大河をなすように皆様方が一致協力して学校歯科保健活動の発展と児童生徒の健康推進に寄与することを確認する」と述べられております。

また西連寺先生は、「練馬区学校歯科医会 三十年の歩み」及び「練学歯45年史」（平成5年）を発刊され、練馬区学校歯科医会の足跡を残されましたが、その後長期にわたり活動報告がなされず、残念ながら60年史等も発刊するに至りませんでした。現執行部は、都内でも輝かしい伝統を有する練馬区学校歯科医会の経時的歴史を存続させるためにもこの度「練馬区学校歯科医会65年記録誌」を作成する運びとなりました。昭和30年4月に「虫歯半減運動五か年計画・練馬区虫歯半減運動推進本部」を練馬区区長と練馬区学校歯科医会とで設立したのが大きな事業の始まりで、区内の児童生徒の学校歯科保健活動を推し進めて参りました。先達人の方々の継続的な努力により成果は、大きな実績を形成するに至りました。私たち現学校歯科医は、先輩諸氏の教えを着実に守り、多くの年間事業活動を遂行し堅持して、現在の学校歯科医会に至るまでになりました。過去には平成元年11月、文部大臣より表彰を承り、練学歯の大きな誇りとなりました。都内唯一の事業活動である、小・中学校長との研修協議会は昭和37年に開催され以来、令和元年まで継続された練学歯の一大事業であります。新型コロナウイルス感染症により本年までの2年間は中断されております。学校長と学校歯科医との距離感の縮小に伴い、教育的な歯科保健指導に大きな成果をあげております。

学術研究の事業活動は、練馬区学校保健研究大会での研究発表や日本学校歯科医会会誌への投稿原稿の掲載、東京都学校歯科保健研究大会でのポスター発表等に尽力を注ぎ着実に成果を上げております。会員研修会も著名な講師の先生方をお招きし、毎年開催いたしております。平成27年にはHP検討委員会を設立し、平成28年4月より念願の練馬区学校歯科医会HPを立ち上げ全国に配信することに至りました。現在では、都内の学校歯科医会HPでも最先端のデザイン画像を配信しております。しかしながら令和2年1月より発生しました新型コロナウイルス感染症に伴い、すべての事

業活動が停止、万全な感染予防対策を施し、PCの環境整備が整えつつ、リモート方式による事業活動が主流となりました。児童生徒の生活環境は、新生活様式に変貌し、歯と口の健康環境も生活様式の変化に伴い対応することとなりました。徐々に約半数の事業活動以上が遂行されておりますが、今後コロナ禍での展望は、未知の様相でありましょう。

私たちは、練馬区の児童生徒の歯と口の健康推進事業に尽力を尽くし、子供たちの生活様式の健康保全活動を遂行してゆく所存です。練馬区学校歯科医会65年記録誌が、練馬区学校歯科医会の将来の指針として、後進に受け継がれてゆくことを祈念いたします。今後ともに練馬区学校歯科医会の発展の為に関係各位のご指導ご鞭撻およびご協力を心からお願い申し上げまして発刊のご挨拶といたします。

祝 辞



公益社団法人日本学校歯科医会
会長 川 本 強

練馬区学校歯科医会が創立65周年を迎えられますこと、また「練馬区学校歯科医会65年記録誌」が発刊されますことを心よりお祝い申し上げます。

貴会は、昭和30年に学校歯科保健とその組織整備の重要性を鑑み設立されたとお聞きしております。設立後まもなく練馬区教育委員会との連携のもと「ムシ歯半減運動」を開始され、「良い歯のバッジ」の配布や巡回指導等を実施されました。以来65年の長きにわたり児童生徒の歯科保健の向上に力を尽くされ、多大な貢献を果たしてこられたことに敬意を表します。

貴会が設立された昭和30年当時、我が国では児童生徒の未処置歯が著しく増加傾向にあり、学校歯科医の間でそのような状況をなんとかしたいという思いが強まりました。そのため日本学校歯科医会では「学童むし歯半減運動の実施要項」を作成し、昭和31年より「むし歯半減運動」が始まり、現在の「歯・口の健康づくり」を目的とした様々な運動へと続いております。このような学校歯科医会を中心とした運動により、全国の12歳児のDMFT指数は文部科学省による昭和59年度の調査開始から年々減少し、令和2年度には0.68本となりました。中でも、練馬区の調査結果は0.47本と全国平均を大きく下回っております。この素晴らしい成果も、ひとえに貴会の歴代役員並びに会員の皆様のご努力の賜物と存じます。

さて、近年、子供のう蝕が減る一方で歯周病や咀嚼・接触に関わる口腔機能の未発達、歯・口の外傷、虐待による口腔環境の悪化といった課題が指摘されております。本会といたしましては、今後も貴会との連携をより深めさせていただきながら多くの課題に取り組み、学校歯科保健の更なる充実と推進に貢献できるよう尽力して参りますので、ご協力をお願い申し上げます。

結びに、65周年の節目を迎えられた練馬区学校歯科医会の今後益々のご発展と皆様方のご健勝を祈念いたしまして、お祝いのご挨拶とさせていただきます。

祝辞

都学歯とは 練馬区学校歯科医会のことです



公益社団法人東京都学校歯科医会
会長 鈴木 博

練馬区学校歯科医会65年記録誌に寄せて祝辞を差し上げる機会を頂き大変光栄に存じます。練馬区は東京都で一番新しい区ですが人口はベスト2にありますから学校数も多く、練馬区学校歯科医会の先生も熱心に保健活動をされているため東京都学校歯科医会（都学歯）の中でも牽引的な立場にいらっしゃいます。また、都学歯の事業も8代目会長でいらしゃった西連寺愛憲先生がデザインされた内容を踏襲しているものが多数あり、毎年事業計画を立てる際には当時の先生のお考えに思いを馳せずにはまいりません。小学校、中学校と学校歯科医の研修協議会は、未だ真似のできない素晴らしい事業です。

都学歯におきましても、練馬区学校歯科医会からは多くの会員の先生に理事および委員会委員としてご尽力いただいております、まさに「都学歯とは練馬区学校歯科医会のこと」と言っても過言ではありません。

さて令和4年3月30日付で文部科学省初等中等教育局健康教育・食育課が各教育委員会などに宛てた「学校歯科健康診断における歯列・咬合の検査について」という事務連絡の内容（詳しくは当会のラインワークス掲示板4月7日分をご覧ください）を鑑みましても、学校歯科医の役割がさらに重要なものとなってきていることは明白です。現在、都学歯では不正咬合についての冊子を鋭意作成中です。年度末にはお手元に届けられると思いますのでお役立ていただきたいと存じます。未筆になりましたが練馬区学校歯科医会の益々のご発展を祈念しますとともに、引き続きのお力添えをいただきますようお願い申し上げ祝辞といたします。

学校歯科医会 創立65周年を祝して



練馬区教育委員会
教育長 堀 和 夫

練馬区学校歯科医会創立65周年、真におめでとうございます。

貴会は発足当初より練馬区の児童・生徒の口腔の健康づくりに、練馬区教育委員会と連携し「むし歯半減運動推進事業」を中心として、定期歯科検診、小・中学校校長との研修懇談会、歯科衛生士による歯磨き巡回指導など、数多くの事業にご尽力いただくとともに、練馬区学校保健大会や全国学校歯科保健研究大会、全国学校保健安全研究大会などにも熱意をもって継続的に参加しております。また、定期歯科検診等で明らかになった未治療のむし歯などによって児童虐待の早期発見につながるなど、学校歯科医としての視点から、児童虐待について研修などを実施し、関係機関と連携して対応に取り組んでいただいております。こうした地道な活動により、貴会の会員が令和元年春の瑞宝双光章を筆頭に、数々の栄誉を受けられていることは真に喜ばしい限りであり、長年にわたる学校歯科保健活動に対し、深く敬意と感謝の意を表します。

昨今は新型コロナウイルスの影響により、学校生活は大きな変化を余儀なくされ、児童・生徒たちは身体的距離の確保、状況に応じたマスクの着用等基本的な感染対策を徹底したうえで学校生活を継続しております。教育委員会で実施する「歯と口の健康事業」などにつきましても、各学校が十分な感染症対策を講じたうえで、学校歯科医の先生方と実施方法等を協議し、可能な範囲での実施につながっております。今後も練馬区学校歯科医会のご協力をいただき、学校歯科保健活動を通じて、児童・生徒の口腔健康管理に努めてまいります。

結びに、学校保健のより一層の充実のために今後ともご指導、ご協力をお願い申し上げるとともに、貴会の益々のご発展を心からお祈り申し上げます。

祝 辞



公益社団法人 練馬区歯科医師会
会長 齊藤 良造

このたび、練馬区学校歯科医会65年記録誌を発行されるとのこと、心よりお祝い申し上げますとともに、この記念事業を企画された草柳会長始め関係各位の先生方に、深く敬意を表します。

練馬区学校歯科医会は昭和30年に発足されて以来、学校歯科保健の普及・活動に努め、会員相互の親睦を図ってこられました。この間児童生徒のう蝕罹患状況の追跡調査が行われ、練馬区学校歯科医会の調査報告が全国的に大変貴重な資料となっています。この調査におきましては大量のアンケートデータのまとめ・分析には高度な歯科医学的知識を要し、信頼性の高いデータを提供してこられたと聞き及んでおります。また、毎年会員研修会が開催され、会員一人ひとりの児童生徒に対する日常臨床への道標となってまいりました。練馬区学校歯科医会の会員は日本学校歯科医会、日本学校保健会、東京都学校歯科医会、東京都学校保健会、練馬区学校保健会などでも活躍されています。

学術委員会を立ち上げ、会長の諮問を受けた委員会は毎年有意義な学術的活動を行い、専門誌への論文投稿等その活動は広範囲に及んでおります。健全な発展及び学校歯科医としての資質の向上に寄与されていることは誠に意義深いものがあります。発足以来65年のその時々の社会の諸要請に応え、児童・生徒が安心して健康な生活ができる環境づくりに大きな役割を果たしてきたところと存じます。

これからの時代はコロナ禍により生活様式が大きく変化し児童・生徒の口腔の状態の変化も予測されます。このような変化に対しましては的確な対応が求められます。練馬区学校歯科医会におかれましては時代に適した展開と積極的な活動により、関係機関との緊密な連携のもと、学校歯科医会として大きく貢献され、なお一層ご活躍されることをご期待申し上げます。

終わりにこの記念事業を機に更なる飛躍と練馬区学校歯科医会会員の皆様の益々のご繁栄を祈念して、お祝いの言葉とさせていただきます。

表彰状

練馬区学校歯科医会

貴会は学校保健の普及と向上に
尽力し多大の成果をあげられました
ここにこれを表彰します

平成元年十一月十六日

文部大臣 石橋 一弥



表彰状

東京都練馬区学校歯科医会殿

貴会は多年にわたり学校
保健の進展に寄与しその
功績はまことに大なるもの
がありましたのでここに
表彰します

昭和五十三年十一月二十一日

東京都教育委員会



学校歯科医会のはじまり

歴史を紐解いてみると文部省は、明治30年〈1897年〉に学校清潔方法等の学校衛生の基礎を作成。公立学校に学校医を置くことがきまったのは、明治31年1月のことでその年の4月には日本歯科医学会総会では「政府スデニ学校衛生ノ忽ニスベカラザルヲ視、學校医ヲ置イテ之ガ注意ヲ怠ラザラントス、惟ウニ兒童ノ齒牙ヲ檢シ、父兄ヲシテ其ノ留意ヲ需メシメルモノ亦、喫緊ノ急務ナリ」という理由から「学校医中ニ学校歯科医ヲ加エルコト」を文部省に建議するをきめたが、そのころは歯科医師の数も少なく、現実には実施困難な状況であったようである。

日本の学校教育制度は、明治5年の学制発布からで、明治12年に「教育令」、明治18年に「学校令」が出され、明治19年に帝国大学令、小學校令、中学校令、師範学校令などが公布された。明治10年代半ばより小学校教育の目的の中に「身体發育に留意すること」がある。明治29年5月には勅令にて文部省に学校衛生顧問と学校衛生主事を設けることになり、明治30年に「学校清潔方法」「学生生徒身体検査規程」、明治31年「公立学校医設置ニ関スル規定」「学校医職務規程」「学校伝染病予防消毒方法」の学校衛生の基礎となる制度を作った。また学校医中に歯科医を加える建議がなされた。既に地域的には学校歯科医として配置していた所もあった。東京市麹町区では明治34年4月には小学校に学校歯科医を委嘱して検査を行っている。明治39年医師法に並んで歯科医師法が公布されてから、その影響をうけて各地で学校歯科医を委嘱して検査を行うところが増えてきた。三重県・京都市・東京市・千葉市等でも学校歯科検診が行われていた。

※官報大正15年10月20日付録の「学校における歯科医に関する調査」では大正4年4月千葉県木更津町が最初とされている。

大正14年に、聖路加国際病院に文部省後援学校診療所を設置し、番町・麴町・日比谷・永田町・富士見町高等小学校でも歯科施設が設置され、京橋区・牛込区・神田区でも学童歯科検診が行われた。大正の終り頃から各地方で学校歯科医を設置する県令等が制定された。大正15年に文部省は、「学校における歯科医に関する調査」を行った。昭和5年には、27の府県に学校歯科医・幼稚園歯科医を設置、東京市も市令で学校歯科医の設置がされるに至った。昭和6年6月23日に、学校歯科（医）及幼稚園歯科医令が勅令第144号として公布され、この時から名実ともに初めて学校歯科制度が始まった。昭和6年に学校歯科医の公布によって、学校歯科医の数は急速に増加し、児童生徒の歯科衛生に積極的な活動を行うこととなった。

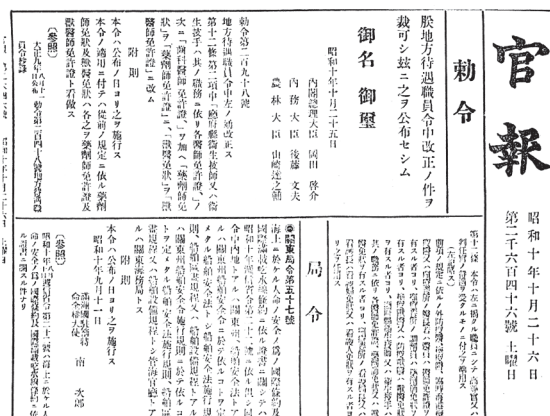
※大正7年に、口腔衛生講習会が東京で開催され、ライオン通俗講演会も毎年各地で開催された。

日本聯合歯科医会とも積極的な歯科衛生思想普及活動を行なった。

昭和2年6月3日には東京市学校歯科医会設立総会が開催された。昭和6年4月6日に第1回全国学校歯科医大会・東京が開催された。その後いろいろの経過をたどり学校歯科医制度の確立とともに、全国学校歯科医を集めて団体として日本聯合学校歯科医会が設立され、活動を続けたが、当時の文部大臣は、毎年一回行われる全国学校歯科医大会に対し諮問及び答申を求めた。「ワガ国ノ現状ニ鑑ミ、学校ニ於ケル歯科衛生發達上、緊急スル事項如何」という諮問が、文部大臣より出され

学校歯科医制度の確立は、徳島県・山梨県・静岡県・和歌山県・三重県・長野県・宮城県・京都府など全国に学校歯科医会が設立され、昭和34年4月には山形県学校歯科医会設立、昭和42年には沖縄県学校歯科医会も設立された。

また「全日本よい歯の学校選奨」を行うことになり、「保健教育と保健管理とによって、学童のむし歯半減を達成した学校ができるだけ多くなること」を期待して昭和35年度から始めたものである。昭和36年には「第二次むし歯半減運動」として継続され、その後、昭和41年から昭和50年まで「第三次むし歯半減運動」、昭和51年から昭和56年まで「第四次むし歯半減運動」、昭和57年から昭和62年まで「第五次むし歯半減運動」、昭和63年から平成4年まで「第六次むし歯半減運動」まで33年に亘る多大の成果を挙げた「むし歯半減運動」は第56回全国学校歯科保健研究大会をもって発展的解消を遂げ、「歯・口の健康づくり運動」に引き継がれることになった。



– 12 –

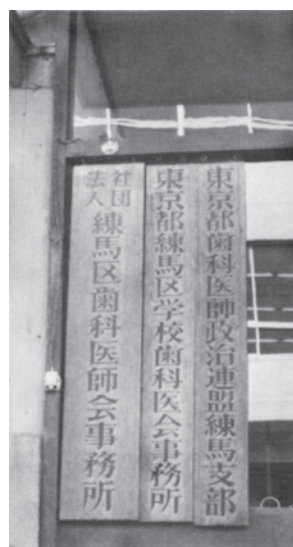
練馬区学校歯科医会の歩み

練馬区歯科医師会は、板橋区歯科医師会から昭和22年に分離誕生した。その後、昭和26年4月には練馬区学校歯科会が独立し、種々の学校保健活動を続けた。歯科医師の事情より学校歯科保健及び組織整備の重要性から昭和30年に別の機構として学校歯科医会を作り、第一回練馬区学校歯科医会総会を開催し、練馬区学校歯科医会が誕生した。また練馬区においても学校歯科保健の重要性から区教育委員会と連携し、練馬区区長を推進本部長、練馬区学校歯科医会会長を副本部長とし、共同事業で昭和30年4月に「虫歯半減運動五カ年計画・練馬区虫歯半減運動推進本部」が設立し開始した。小・中学校児童生徒を対象にむし歯半減運動治療券・勧告書を発行し、「良い歯のバッジ」の企画実行し児童に配布、「巡回指導」を歯の衛生週間に実施し、ライオン歯科衛生研究所と共にブラッシング指導及び歯の衛生講話が行われた。区の予算内では賄いきれない状況下でも学校歯科医会の使命感と責任感でこの事業を遂行した。現在もなお引続き「良い歯のバッジ」配布及び小学校・中学校の巡回指導も形をかえながら行われている。また、以前には養護教諭との合同研修懇話会及び小学校・中学校長との研修懇話会が開催された。昭和37年からは小学校・中学校長との研修懇話会が毎年秋ころ年に一度始まった。昭和48年4月から「小学校・中学校の研修懇談会」は、新設小学校・中学校が増設され、練馬区歯会員も増員となり、小学校と中学校別々に行われるようになった。教育委員会との連携を図り、昭和51年からは「歯垢染色テスト」や「う蝕活性テスト」も各学校ごとに実施された。また練馬区学校歯科医会は、積極的に全国学校保健大会や学術講演会にも参加し、教育委員会との連携を図り、口腔保健に対する児童の教育的成果を確立してきた。平成20年12月に、練馬区学校保健大会にて学術委員会が、「スポーツ外傷対策としてのマウスガード使用に関する調査」を研究発表した。練馬区学校歯科医会は、日本学校歯科医会会長職に故関口龍雄先生・故西連寺愛憲先生・中田郁平先生が就いた。今後も練馬区の児童生徒の学校歯科保健活動を充実させるべき執行努力を継続していく所存である。



昭和53年6月
練馬区立東小学校
練馬区立中村中学校

発足時代の会員の方々



練馬区学校歯科医会の65年の略史

昭和22年8月1日に、板橋区から練馬区が独立し、9月1日に練馬区歯科医師会が誕生した。それと同時に学校歯科医会の役員は当所練馬区歯科医師会の役員が兼任していた。

昭和22年～昭和29年

昭和22年8月1日、練馬区歯科医師会が板橋区から分離独立した時、練馬区学校歯科医会も同様に独立した。板橋区時代の会長は、関口龍雄先生であった。その時はすでに独立した状態か、または歯科医師会の一部の部会であったのかは、残念ながら定かではない。

昭和26年4月には練馬区学校歯科医会（練学歯）が独立し、種々の学校保健活動を行ってきたが、当時のいろいろな歯科医師会内の事情から、練馬区歯科医師会の組織の中に吸収されたが、学校保健の重要性及びその組織整備の重要性から、昭和30年に別の機構として学校歯科医会を設立し、第1回 練馬区学校歯科医会総会が開かれた。

又、練馬区においても学校歯科保健の重要性から、練馬区学校歯科医会は、区教育委員会と連携し協力し、練馬区長を推進本部長、練馬区学校歯科医会会長を副本部長とし、「練馬区むし歯半減運動推進本部」を設立し五か年計画のもとに学童生徒のう蝕を半減しその健康を計るべく運動「むし歯半減運動」が活発に行われた。

昭和30年～昭和45年

昭和30年に第1回の定時総会が、開催された。会長は田中栄会員であった。この年4月から、練馬区長を本部長とし、田中会長を副本部長とする練馬区虫歯半減運動推進本部が設立され「むし歯半減運動」が推進施行された。そして昭和37年には、「小・中学校長との研修懇談会」が始まり、また学校巡回指導も始まった。

昭和41年から「よい歯のバッジ」の配布が始まり、現在に至っている。昭和46年3月の第21回定時総会まで、田中栄会員が会長を勤められた。

昭和46年～昭和53年

昭和46年4月より田中清一会員が会長就任となり、練学歯もすべての事業が順調に推移し、いよいよ充実してきた。昭和48年4月からは、西連寺愛憲会員が会長になった。この年から校長との研修懇談会は小学校、中学校が別々に行う事となった。昭和50年には、会員数は80名となり、この後練馬区の人口の増加に伴い、学校の新規開校が相次ぎ、練学歯会員も増加していった。

昭和51年から歯垢染色テストが希望校で実施されるようになった。そして昭和53年には「練馬区

学校歯科医会30年の歩み」が発刊された。このほか、学校歯科医研修会(都学歯主催)及び会員(学校歯科医)研修会(練学歯主催)での勉強も怠らない。

昭和56年には会員数が100名となり、練学歯の規模も非常に大きくなり、学校数もそれに伴い増加したことになる。学校巡廻指導講演も、一人の講師ではまわる校数に限界があるので、昭和61年からはライオン歯科衛生研究所に依頼し3～4チームを(1チーム2名)派遣していただくことになり、期間中に20校前後巡回できる様になった。さらに昭和61年には会員数は111名となった。学校巡廻指導の方法も全校生徒を一堂に集めて行うものから、学年単位の少人数で、きめこまかな指導する方法へと変化してきた。

又、昭和57年には練馬区学校保健大会が誕生した。第1、2、4、6、9、12、15回の各大会で、練学歯は研究発表を行った。また平成元年に、和歌山県で開催された第53回全国学校歯科保健研究大会でも研究発表を行った。

なおこの年に行われた第39回全国学校保健研究大会にて、練学歯は文部大臣表彰を受章させていただいた。

昭和54年～平成6年

昭和54年からは、30周年行事でひとくぎりつけた練学歯は、再び西連寺会長のもとで、児童生徒の健康のために、ますますの努力をして行くことになる。直接的な学校での検診、指導、教育の他、全国規模で開催される大会や、都及び区で開催される大会に積極的に参加し勉強している。

小・中学校長との研修懇談会も毎年行われ、校長、会員共殆ど全員出席で、大変有意義で成功裏に推移している。練学歯の会員は、非常勤の学校職員でもあるので、この席での学校長とのコミュニケーションは、好評を得ている。

学校での指導、教育の一環として実施している歯垢染色テストやカリオスタットも年々希望校が増え、その成果を上げている。

練学歯の学術委員会では、いろいろな調査研究を行っている。その中でも特筆すべきものは、第9回練馬区学校保健大会にも研究発表したものであるが、「児童生徒の9年間のう蝕罹患状況の追跡調査」がある。この調査は区教育委員会、区立中学校の協力を得て、小学校1年生(昭和50年入学)から中学校3年生(平成元年卒業)までの歯の検査表から同一集団の経年的な永久歯のむし歯の動態について調査したもので、今でも全国的に大変貴重な資料となっている。また昭和57年には、むし歯予防についてのアンケートを行い、合計13,836枚ものアンケート表の分析も行っている。このように練学歯は「児童生徒の健康管理」、そのための「調査研究」、教育者としての「人の和」を三本柱として頑張っている。平成3年からは毎年1回、会員(学校歯科医)研修会を開催し、練学歯の会員一人一人がよりよい学校歯科医となるように努力している。

平成2年には、会員数は118名となった。内訳は小学校69名、中学校24名、都立高等学校および都立特別支援学校10名、幼稚園5名である。高齢化社会が進み、さらに少子化が相まって学校の新設もなくしばらくこの状態が続くものと思われる。平成4年には「練馬区学校歯科医会45年史」が発刊された。会の記録とか資料は年月がたつと不思議と雲散霧消してしまい、15年位が限度であろうと言う西連寺会長のご提案により、前回の「30年の歩み」に続き刊行された。おかげさまでこの紙面をお借りするのにも大変役にたっている。この後平成7年3月まで西連寺会長のもと、練学歯はますます発展してきたのである。

この間も練学歯の会員は、日本学校歯科医会、日本学校保健会、東京都学校歯科医会、東京都学校保健会、練馬区学校保健会などで活躍している。

平成7年～平成12年

平成7年4月から穂坂正典会員が会長になった。永年に亘り会長をつとめられた西連寺先生の後を引き継ぎ、事業の踏襲に専心する事を念頭に、平成8年の事業を何とか消化する事が出来た。後先になるが、教育委員会では歯科保健指導の参考資料として「よい歯のしおり」を昭和56年に作成して各学校に配布しているが、近年、指摘されている児童・生徒の歯周疾患の増加や、文部省が「小学校歯の保健指導の手引き」を平成4年に改訂したこととなり、平成5年3月、学校歯科医、小・中養護教諭、教育委員会の共同作業により「よい歯のしおり」（改訂版）一学級指導用一を発行した。

また平成7年には、文部省通達により健診の方法が改正された。日本学校歯科医会「学校における健康診断での顎関節の診査に関するガイドライン」が提示され、その受入れ態勢について、都学歯ブロック別研修会が、まずこの年、練馬区歯科医師会館で盛大に行われた。（6月15日＝当番区練馬）

小・中学校長との研修懇談会も、より充実の度を増し、巡回指導講演に対する協力のことはもとより、未だ区内学校では充分に開かれていない学校保健委員会の開催も開かれるよう、要望した。又、学術委員会に於て「歯科健診結果のお知らせ」を新健康診断方法に基づいて改正した。

改めて平成8年後の学校歯科医会の展望を考えると、学校歯科健診に関しては、平成7年度の新健診票によることに伴い、2年に亘る都学歯のブロック別研修会、さらに練馬区学校歯科医研修会（年1回開催）等により、内容の検討と充実、学校医と養護との誤解のない理解を求めて研修を続けている。

また歯の衛生週間行事については、練馬区歯科医師会で行われている「よい歯・よい子の集い」に協力し、5月下旬の2～3日を選んで、6月4日を中心とする衛生週間にちなみ、ライオン歯科研究所の協力を得ていた学校巡回指導講演であったが、巡回校も年々増加して、この事業の内容も充実し、平成2年よりライオン歯科研究所からの長年のノウハウを継承しつつ区衛生士との学校巡回指導に移行した。健診結果から来るよい歯の児童表彰は、結果として良い歯の児童が増え、よい歯のバッジも区教委が悲鳴をあげる程増えて来た。また都学歯に於けるよい歯の学校表彰には、練馬区は他区に負けない学校数が表彰されている。巡回指導の将来的展望に於て内容の研究、検討、歯垢染色テストの実施、カリオスタット（昭和57年より実施。令和2年よりカリオスタットの器具の老朽化によりRDテストに変更した）による児童生徒への認識の育成。毎年行われている区学校保健大会での研究発表への努力と資料の収集と、区医師会、薬剤師会との学術研究、将来的で又継続的な児童生徒への健康管理への協力態勢の維持、健診内容の検討、理解、協力に向けての学校長、養護教諭との講習会、研修会の開催へ向けての努力。最も身近く、近親的理解をいただく学校長との研修懇談会は、何はさて置き、増々充実して行かねばならない最大の事業ではないかと思われる。区で唯一の学校、校長、養護、三師会、PTA、の結びつけが出来る区学校保健大会（10月～12月頃開催）は、学校と家庭までをつなぐ格好な大会だと思う。

さらに東京都学校歯科医会（都学歯）、日本学校歯科医会（日学歯）への協力として、口の健康づくり推進指定校協議会、学童歯みがき大会、関東甲信越学校保健大会、全国学校歯科医協議会、

東京都学校保健給食大会、東京都学校歯科保健研究大会、ブロック別学校歯科医研修会への出席、歯と口の健康志向アンケートへの協力、さらに練学歯理事あるいは会員の中より、将来地区で指導者的役割を果たす会員を日学歯の学校歯科保健研修会に推薦し、また各種委員会委員にも参画していただき、中央の内容をいち早く把握し、全国的情報を会員に知らせ、よりよい知識をつかみ、練学歯に実行し、練学歯→都学歯→日学歯と縦のつながりを大事にすることが今後の課題であると考ええる。

平成13年～平成18年

平成13年4月より望月兵衛会員が会長職に就任した。前任の穂坂会員の後任として4月9日に第一回目の理事会が開催され、新役員の職務内容・年間スケジュール等について協議した。今年年間事業活動として、5月16日から3日間学校巡回指導講演が開始され、小学校学校歯科医へ「歯垢染色テスト」及び「う蝕活動制試験」の実施依頼をした。第58回学童歯みがき大会が6月に開催された。練馬区教育委員会との研修懇談会・東京都学校保健研修会・ワークショップ研修会・小学校長中学校長との研修協議会・練馬区学校保健大会・第51回全国学校保健研究大会・第65回全国学校歯科保健研究大会・関東甲信越静学校保健大会・会員研修会等が例年通り開催された。待望の第一号「練学歯だより」が9月11日に創刊された。残念なことに元日学歯会長の関口龍夫会員が他界された。中学校長会と本会野球部との親睦試合も開催された。

平成14年2月には「練学歯だより」第2号が発刊され、3月には「歯科保健調査票」と「よい歯のバッジ配布基準」の発送を行ない、第82回練学歯定時総会が開催された。4月に入り、「むし歯半減運動」助成金請求書を提出した。年間事業活動は、例年同様であり遂行した。「歯科健康診断結果のお知らせ」の改訂や「練学歯だより」第3号が7月に発刊された。平成15年3月27日に第84回定時総会が終了した。

平成15年度の4月から望月兵衛会員が再度会長に就任した。引き続き年間スケジュールを遂行した。5月には小学校長会との親睦野球が行われた。また練学歯会則の一部改定で第三章第九条について協議し、会長一任となった。「練学歯だより」第5号が9月に発行され次いで第6号が平成16年3月に発刊された。第86回定時総会が、平成16年3月25日に開催された。平成16年度も同様に4月から年間事業活動を遂行した。7月には(財)ライオン歯科衛生研究所への感謝状の贈呈を恒例により行った。「練学歯だより」第7号が9月に発刊され、第87回臨時総会が9月30日に開催された。10月には教育長に「これからの学校歯科保健活動について」を提出した。

平成17年2月26日生田博康会員の叙勲祝賀会が新宿の京王プラザホテルにて開催された。「練学歯だより」第8号が3月に発刊され、第88回定時総会が開催された。平成17年4月より望月兵衛会員が会長職に再就任し、会員数が123名となった。年間事業活動は、例年通りすべて順調に行われた。「練学歯だより」第9号が9月に発刊され、同29日に第89回臨時総会が開催された。平成18年3月に「練学歯だより」第10号が発刊され、第90回定時総会が開催された。平成18年度も4月よりスタート、年間事業活動は例年通り行われた。又、平成18年4月29日の春の叙勲にて西連寺愛憲会員が、瑞宝小綬章受賞の栄に浴された。7月17日パレスホテルにて祝賀会が開催された。第91回臨時総会が9月に開催され「練学歯だより」第11号も発刊された。平成19年3月には第92回定時総会が開催され「練学歯だより」第12号が発刊された。

平成19年～平成24年

平成19年4月より望月兵衛先生から佐藤貞彦会員へと会長職が引き継がれ新執行部の事業が始動した。練学歯としての年間事業活動は例年通り行なわれた。又 都学歯、日学歯の年間事業にも多数の先生方が参加された。平成19年度は、8月に第58回関東甲信越静学校保健大会（群馬県）が、10月には第71回全国学校歯科保健研究大会（福岡県）が、11月に第57回全国学校保健研究大会（香川県）が、平成20年2月には第42回東京都学校歯科保健研究大会（シビックホール）が開催された。

平成20年度は、8月に第59回関東甲信越静学校保健大会（長野県）が、10月には第72回全国学校歯科保健研究大会（神奈川県）が、11月に第58回全国学校保健研究大会（新潟県）が、平成21年2月には第43回東京都学校歯科保健研究大会（シビックホール）で開催された。東京都学校歯科保健研究大会は創立60周年・法人化30周年記念大会であった。学術委員会は平成20年12月11日に開催された第27回練馬区学校保健大会において「スポーツ外傷対策としてのマウスガード使用に関する調査」の演題で研究発表を行った。

平成21年は、佐藤貞彦会員が引き続き会長の任に当たることになった。第一回役員会で年間のスケジュールの日程調整を行った。練馬区教育委員会への表敬訪問を行い、区立小中学校長会開催の日程等が決定した。ライオン歯科衛生研究所による巡回指導講演も行った。第60回関東甲信越静学校保健研究大会および歯科職域部会が新潟市で行った。現在の事業計画には記載のある「連盟との連携」がこの年追記した。第98回定時総会で練馬区学校歯科医会が練馬区歯科医師会への編入について協議を行った。この年佐藤貞彦会長はじめ10名の先生方が平成21年度学校保健関係表彰を受賞した。この年度は、学校の廃校新設が多かったため会員の移動も多くなった。第2回東京都城北地区学校歯科医会連絡協議会が開催となった。練馬区学校歯科医会60周年記念誌の発行を協議されていたが発行の実行には至らなかった。会員研修会では日本学校歯科医会丸山進一郎専務理事に依頼した。演題は「臨床医のためのCO,GOの統一見解」についてであった。「練学歯だより」は平成21年度で15号を発刊した。カリオスタットの故障が多くなり、機器自体の製造もなくなったため、徐々にカリオスタット検査を中止するようになった。練馬区学校歯科医会のホームページは、練馬区歯科医師会の一部に掲載し、ヤドカリ状態であった。

平成22年度は、学校保健法が学校保健安全法に改定され、新たに子供の保健や安全のために地域やかかりつけ歯科医の役割が明記され、学校歯科医とかかりつけ歯科医との緊密な連携が必要になった。さらに、歯科医師会会員との診断基準の統一が不可欠となり「練学歯の今後の在り方についての検討委員会」を構成した。この年は、第61回関東甲信越静学校保健研究大会および歯科職域部会が茨城県水戸市で開催した。また、当年度は、臨時総会を2回行った。ブロック別（城北ブロック連絡協議会）学校歯科医の担当地区、練馬区歯科医師会館で研修会を開催した。第67回全国学校歯みがき大会が両国国技館で12,000人の参加で行った。韓国のテチ小学校の特別参加（1,300人）もあった。さらにインターネット参加校は123校に上った。次年度には、練馬区学校歯科医会専用のホームページ採用を提案した。

平成23年4月より佐藤貞彦会員が会長に再就任し、会員数は116名となった。練馬区における児童生徒の歯・口の健康のための啓発事業を推進するために歯科保健アンケートの実施が検討されることとなり12月に実施した。6月には学校巡回指導を実施した。8月には第62回関東甲信越静学校保健研究大会（静岡）が、9月には第102回臨時総会が、小学校長との研修協議会を開催した。また、

10月には中学校長との研修協議会を、第75回全国学校保健歯科保健研究大会（松山）が、第61回全国学校保健大会（静岡）が開催、11月には会員研修会が開催された。さらに、平成24年3月には第103回定期総会を開催し、前回数則を改定したのが平成13年9月だったので、平成23年11月に会則改定検討委員会を設定した、会則の変更が総会で認められて施行した。練学歯だより第16号が発行した。

平成24年になり、3月には歯科検診を充実するために全練学歯会員にLEDライトの送付を行い、6月には学校巡回指導を実施し、8月には第63回関東甲信越静学校保健研究大会（さいたま）が、9月には第104回臨時総会と小学校長との研修協議会が、10月には中学校長との研修協議会を開催、第76回全国学校歯科保健研究大会（高崎）が開催した。また、11月には第62回全国学校保健研究大会（熊本）会員研修会が開催した。さらに、平成25年3月には練学歯だより第17号を発行した。

平成25年～平成26年

平成25年4月より久々に再び望月兵衛会員が会長職に就任した。望月会員は、平成13年から18年までの会長職から7年ぶりの2期目になる。歯科健康診断、歯科講話及び歯垢染色は例年同様行われ、本年もライオン歯科衛生研究所の巡回指導と練馬区保健所歯科衛生士による歯科保健巡回指導の両方を実施した。6月13日には、練馬区学校歯科医会と練馬区教育委員会との協議会を行った。9月26日には、第106回臨時総会を開催した。昨年の臨時総会で承認した施行規則第20条及び同規則付則2の退職年齢満75歳についての説明があった。11月28日には、会員研修会が日本歯科大学小児歯科学の楊秀慶先生による「歯の外傷に対する基本的な考えと効果的な対応」の演題で行った。

平成26年3月20日には、「DVDを活用した歯科保健指導研修会」がライオン歯科衛生研究所の歯科衛生士によりDVDを活用した指導法についての研修会を行った。平成26年3月27日には、第107回定時総会を開催した。又、「練学歯だより」の第19号が3月発刊した。平成26年度4月から歯科健康診断が始まったが、歯科健康診断結果のお知らせで、経過観察の受診が必要のない項目が、COなどの要観察歯も受診をすすめる書式に変更した。平成26年度もライオン学校巡回指導と練馬区歯科衛生士の巡回指導を行った。9月25日には、第108回臨時総会を開催した後、小学校長との研修協議会を行った。10月16日には、中学校長との研修協議会を行った。11月27日には、会員研修会で小児歯科医の田中英一先生による講演を行った。12月4日には、練馬区教育委員会との研修協議会を開催した。

平成27年3月26日には、第109回定時総会を開催した。又、「練学歯だより」の第20号を3月に発刊した。

平成27年～令和2年

平成27年4月1日より草柳英二会員が会長職に就任した、望月兵衛会員の後任として引き続き事業活動を継承し、練馬区教育委員会との研修協議会・小学校中学校長との研修協議会・都学歯城北ブロック協議会・児童生徒の歯と口の健康事業推進委員会・第110回臨時総会・新入会員オリエンテーション等の多くの事業を遂行した。また従来からの「練学歯だより」も本年から製本化するためにかどや印刷に依頼し一新した。平成28年度は、4月25日より練馬区学校歯科医会HPを立ち上げ、HP委員会が発足した。年間事業活動は27年度と同様であったが、特に「給食後の歯みがき」を

教育委員会・小学校・中学校へ強く推奨した、また、「フッ化物洗口」を「児童生徒の歯と口の健康事業推進委員会」で詳細を説明し推し進めた。佐藤貞彦先生が、春の叙勲にて瑞宝双光章を受章され平成28年7月30日に池袋のメトロポリタンホテルで祝賀会を開催した。練学歯HPは順調に更新した。平成29・30年度も引き続き草柳英二会員が会長職に再就任し、新役員の組閣を行った。監事には日学歯元会長の中田郁平先生が就任された。練馬区教育委員会は、昨年同様に区の衛生士による歯みがき巡回指導の実施を遂行した。今年度も年間事業活動は昨年同様に実施した。平成30年度城北ブロック連絡協議会を、平成30年9月14日に練馬区歯科医師会会館にて開催した。今回、担当地区にあたり本会の主催で都学歯 末高会長はじめ各地区の先生方が参集した。学術研究は、「給食後の歯みがきと歯肉炎の状況について」・「特別支援学級のアンケート調査」等を行った。平成28年度図画ポスターコンクールでは、区内の生徒作品が佳作で3名入選した。日本学校歯科医会は、業務の一環で「学校歯科医生涯研修制度」の参加を募った。平成29年度の年間事業活動は、例年通りすべてを実施した。練学歯HPは、徐々に改善し充実した内容となり、都内の学校歯科医会のHPでは際立ったホームページと変化。学術研究は、「特別支援学級のアンケート調査」が完成し、都学歯大会でポスターセッションを行った。会員研修会は、日本大学名誉教授前田隆秀先生が「子どもの歯周疾患と咬合異常」の講演を開催した。

平成29年9月26日に西連寺愛憲会員が享年91才で逝去された。西連寺会員は、東京都学校歯科医会の会長職を長期にわたり務め、学校歯科医会の礎を築き、練学歯は大きな支柱を失った。平成30年度の事業活動も例年通り実施した。今年度から練馬区教育委員会・小学校・中学校へ給食後の歯みがきを推奨する目的で歯ブラシを寄贈し、河口教育長と贈呈式を行った。今期、位相差顕微鏡であるミルキンを購入し、会員に対し歯科講話用に貸し出しを始めた。「特別支援学級の児童生徒における歯と口の健康と食習慣について」の論文を都学歯「会誌」に投稿をした。さらに9月30日発行の日本学校歯科医会「会誌」124号に「中学校における給食後の歯みがきと歯肉炎の状態について」「給食後の歯みがき推奨へのとりくみ」の2論文を掲載した。本年度より「練学歯だより」の広告をコサカ株式会社及びサンスター株式会社に協力を依頼し快諾が得られ、以後継続していく予定。本年度も昨年同様に教育委員会・小学校・中学校への歯ブラシ寄贈を行った。ホームページは、スマートフォン及びタブレット対応に改善した。平成31年4月より草柳英二会員が会長職に再就任した。平成31年度（5月より令和元年）までの年間事業活動も例年通りすべて順調に実施した。令和元年春の褒章・叙勲受章で中田郁平会員が瑞宝双光章を受賞し、帝国ホテルで祝賀会を開催した。令和元年12月17日、望月兵衛会員がご逝去された。長期にわたり練学歯良き指導者として学校歯科医会を継引し、大きな足跡をのこされた。教育委員会は、カリオスタットの使用中止の報告を伝えた。練馬区歯科医師会が公益社団法人となり、東京都監査指導により本会に対し会館使用契約書を依頼し、これを承諾した。令和2年1月に新型コロナウイルス感染症が発生し世界各地で混乱状態に陥る、今世紀最大の危機的状态となった。日本国内での感染が3月末には未曾有の状況に、4月には緊急事態宣言が発令、練学歯は医療従事者の立場から迅速に教育委員会・小学校・中学校等へ対応し、すべての事業活動を延期または中止の対策を講じ、「COVID-19」によるクラスター・パンデミック防止に努めた。令和2年度はほとんどの全国的な年間事業活動が延期または中止となり、「新生活様式」が学校生活および家庭生活でも浸透した。すべての講演等もリモート方式を採用し、WEB開催・ライブ配信のデジタル化が急速に進んだ。練学歯も理事会、委員会はすでにリモート方式に切りかえた。令和2年4月より草柳英二会員が会長職に再就任した。令和2年4月発行の日本学校歯科医会会誌127号の研究発表で、「特別支援学級の児童生徒における歯と口の健康と食習慣

について」の論文を掲載した。又、平成21年度より「児童生徒の歯と口の健康事業推進委員会」で推奨していた「フッ化物洗口」のパンフレットが完成した。「児童生徒に伝えたいフッ化物のお話」・「保護者の皆様へフッ化物でむし歯予防」の2種類を学術委員会で作成し、区内のすべての公立学校へ配布した。本会事業活動は、昨年同様に教育委員会・小学校・中学校へ歯ブラシ寄贈を実施し、同時に感染防止対策として手指用の消毒薬アルコールを全校に配布した。令和2年度は、新型コロナウイルス感染症で、すべての事業活動が混乱状態に陥った。補足であるが、令和3年4月発行の日本学校歯科医会会誌129号に「新型コロナウイルス感染禍での学校歯科医としての概要」（草柳英二著）「新型コロナウイルス感染症に対する小学校での取組」（区立石神井西小学校養護教諭山本純子著）の論文を作成し掲載した。

追記 練馬区学校歯科医会の歯科年間事業活動

春及び秋の歯科健康診断 歯科講話及び歯垢染色 就学时歯科健康診断 会員研修会
教育委員会 小学校長・中学校校長と学校歯科医との研修協議会
教育委員会と練馬区学校歯科医会との研修協議会 児童生徒の歯と口の健康事業推進委員会
全国学校歯科保健研究大会 全国学校保健安全研究大会 東京都学校歯科保健研究大会
関東甲信越学校保健大会 東京都学校歯科医会城北ブロック連絡協議会
練馬区学校保健大会 等

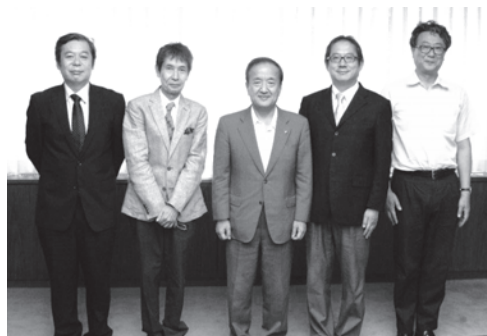
前川耀男練馬区区長 表敬訪問

平成27年8月5日午後3時に草柳英二練馬区学校歯科医会会長・金田和彦副会長・河奈文彦副会長・箭本治専務理事は、前川耀男練馬区区長を区役所本庁舎5階区長室に表敬訪問致しました。

今回は、河口浩教育長のご尽力で実現したもので、河口教育長・岩田高幸教育振興部参事同席のもと、前川区長に練馬区学校歯科医会のあゆみ、構成、事業内容、練馬区歯科医師会との関係等について草柳会長より説明を申し上げました。

前川区長は、練馬区学校歯科医会の存在を認識されたようで、練馬区内の児童・生徒の為にこれからも頑張ってもらいたい旨を仰られ、予定された時間内では終始和やかに歓談が進みました。

定刻を過ぎ退室しようとしたら、前川区長より「一緒に写真を撮りましょう」と仰って下さり、記念すべき練馬区学校歯科医会最初の練馬区区長表敬訪問の写真撮影が実現し、おいとまして参りました。これも練馬区学校歯科医会の先輩諸先生方、特に西連寺愛憲名誉会長はじめ歴代の会長方々の経年的なご尽力で練馬区教育委員会との良好な連携関係を築いてきた賜物だと感じとれました。



中央は前川耀男練馬区区長

	練馬区学校歯科医会が 区内の小・中学校に歯ブラシを贈呈
と き	平成30年9月5日（木曜日）
ところ	練馬区役所（豊玉北6-12-1）
練馬区学校歯科医会は、給食後の歯みがきを推奨するため、今年度から区内の小・中学校に歯ブラシを贈呈することとした。それにあたり、本日、学校歯科医会の草柳英二会長から練馬区の河口浩教育長に目録を贈呈した。 河口教育長は、「より一層、各学校での歯と口の健康事業推進に努めたい」と話した。 練馬区学校歯科医会では、今後も小・中学校への歯ブラシ贈呈を続けていく予定であり、より一層、給食後の歯みがきを推奨していく。	



▲河口教育長に目録を贈呈する様子

【給食後の歯みがきについて】

「児童・生徒の歯と口の健康事業推進委員会（※）」では、近年の児童生徒の歯肉炎等の歯科疾患の増加を受けて、学校での「給食後の歯みがき」を推進している。現在、「給食後の歯みがき」を実施している小・中学校は99校中24校にとどまっている（平成29年度時点）。

※児童・生徒の歯と口の健康事業推進委員会とは・・・

学校歯科医、校長代表、養護教諭、区歯科衛生士、区保健給食課で構成されている組織で、児童生徒の歯科疾患予防・早期発見および早期治療を促進している。

【歯ブラシの贈呈について】

本 数：計3,750本

対象校：給食後の歯みがきを推奨している8校（小学校4校、中学校4校）

時 期：9月下旬頃

【練馬区の取り組み】

歯と口の健康週間（6月4日～6月10日）に向け、春の歯科健診でむし歯がなかった小学生を対象に「良い歯のバッジ」を配付し、むし歯予防に対する意識を高めている。

また、練馬区歯科衛生士を中心として「歯みがき巡回指導」を平成24年度から開始し、現在は全ての小・中学校に2年に1回実施している。講話や歯垢染色テスト等、内容は各学校で学校歯科医や養護教諭と検討して行っている。



練馬区学校歯科医会役員会



小学校校長と学校歯科医の研修協議会



練馬区学校歯科医会役員会



学術委員会



練学歯の 歩と共に40年

練馬区学校歯科医会元会長 佐藤 貞彦

私が練馬区歯科医師会に入会したのは昭和41(1966)年3月、練馬区の人口が増え続けており、特に大泉地区では児童・生徒の増え方が著しく、大泉学園小学校などは生徒数が1,500名位にもなっていました。区では新設校順次増やして生徒数の分散をはかっていて、大泉北小学校が昭和49年4月1日に新規開校し、歯科校医には私が就任しました。

平成7年に学校保健法施行規則一部改正が行われ、顎関節、歯列、咬合の診査、CO（シーオー＝要観察歯）、GO（ジーオー＝歯周疾患要観察歯肉）の用語が取り入れられました。更に、平成21年度から学校保健法が学校保健安全法に改正され、新たに子供の保健や安全のために地域やかかりつけ歯科医の役割が明記され、学校歯科医とかかりつけ歯科医との連携の重要性が問われることになりました。「早期発見、早期治療」即ち「疾病を治療するかかりつけ歯科医」から「健康を護るかかりつけ歯科医」への転換が求められ、学校歯科保健から提唱されたCO、GOの考え方、特にCOについては以前からできるだけ削らないという考え方があり、学校歯科健康診断後のCOに対する処置が大変重要となります。しかしながら、学校歯科医ではないかかりつけ歯科医は厚生労働省の所管なので学校保健安全法やCO、GO等々の文部科学省所管の情報をかかりつけ歯科医に知らせることはなく連携はうまくは行っていないようです。誕生から死亡まで一貫したライフステージに合わせた「仮称・口腔（歯科）保健法」が平成の初め頃に、この法案が成立した場合の所管が文部科学省になるのか厚生労働省なるのかでしたが廃案になってしまいました。

小中高生の「むし歯」が減少している現実にはこれからは、話す、食べる、コミュニケーションをとるなど口腔機能を使った行動全般に加えて「食育」で子供達の心と体を育む指導や活動が必要になっていました。それは飽食の時代と言われ、生活習慣の乱れから朝食を食べない等の食の乱れに起因する子供達には深刻な問題となりました。

社会に適応できない、社会ルールを守れない、いじめ等々の問題が噴出していました。これらの諸問題の調査結果から、その根本原因こそ食事・食卓での食育が大きく関わっていることが明らかにされ、「早寝・早起き・朝御飯」を標語にした「食育基本法」が平成17年に施行され、その翌年には「食育推進基本計画」がまとめられました。自治体や教育現場、家庭などで取り組む目安が提示され、「頂きます」に始まって「御馳走様」で終わる食事・食卓でのマナーが基本になっています。子供に大切なことは「食卓」で学ばせたい、と豊かな人生を育む食育原論を提唱する識者もおります。昔から言われている「知育・徳育・体育」よりも先に立ち、基礎となるのが「食」と言われる所以です。「食育」の言葉はすでに明治31年に漢方医の石塚左玄と言う人によって使われていたそうですが、昔から食事は躾や教育に大切な場であったと思われます。

日本学校歯科医会では、学校歯科医の資質向上をはかるための学校歯科医認定制度を視野に入れた研修制度を充実して認定制を施行し、将来的にはこの資格を持った学校歯科医となるようなシステムの構築を考えていたようです。

文部科学省は平成18年の「児童生徒の問題行動」の調査結果を発表しましたが、小・中・高校での「いじめ」件数は前年度の6倍で12万5千件と急増しました。従来の「いじめ」は「自分より弱い者に対して一方的に、身体的・心理的攻撃を継続的に加え、相手が深刻な苦痛を感じていくもの」と定義されていたのが、「当該児童生徒が一定の人間関係のある者から、心理的・物理的な攻撃を受けたことにより、精神的な苦痛を感じているもの」と変更され、「いじめ」か否かの判断は、いじめられた子供の立場に立って行うものとされました。しかし、パソコンや携帯電話を使った「ネットいじめ」はこれ以外に10万～20万件存在するのではないか、そして現在はますます酷くなっているのではないのでしょうか。

平成19年、日本歯科医師会、日本歯科医学会、日本学校歯科医会、日本歯科衛生士会の連名で食育推進宣言がなされ、「食べ方」を通して生涯に渡って安全で快適な食生活を営むことを目的とした食育の推進、口の健康を守り五感（味覚・視覚・触覚・聴覚・嗅覚）で味わえる食べ方ができる食育の推進と歯科界としても多くの領域と連携して国民運動である食育を広く積極的に推進すると宣言しました。学校歯科医が関わる学校歯科保健活動の多くは、健康診断や疾患の予防でしたが、平成21年に学校給食法が食育を重視して大幅に改正されたことを機に、日常生活における食事について正しい理解を深め、健全な食生活を営むことができる判断力を培い、望ましい食習慣を養う、と学校給食を通して幅広く行う学校歯科保健活動が提示されております。

区の人口は増えているのに少子化の影響により児童生徒数が少なく、区立小・中学校の小規模化が進んで来ました。区では学校の統廃合を含めた適正配置を少子化の激しい光が丘地区の小学校8校を4校にしました。

区教育委員会には医師会・歯科医師会・薬剤師会と各小中学校の養護教諭の会の4会で構成される「学校保健会」があり、毎年12月に定例の大会を開催し、持ち回りでそれぞれの研究発表を行っていました。平成20年の第27回大会は練馬文化センターで「みんなで育てよう心も体もすこやかな児童・生徒」の主題で開催され、練学歯が研究発表をすることになっていましたので、練学歯学術委員会で3年程かけて調査研究をしてきた結果を「スポーツ外傷対策としてのマウスガード使用に関する調査」を学術委員の石井伸行先生から発表しました。小・中学校生が安全にスポーツをするために、学校現場での安全教育と安全管理として、マウスガードについても学校歯科保健の中に取り込まれています。

練馬区教育委員会（文科省）では、練馬区保健所（厚労省）歯科衛生士の区内小中学校歯科巡回指導の検討中とのこと。その辺の事情を教育委員会学校保健係に聞けば、区では横の連絡を密に取っているとのこと、セクト主義・縄張り意識など関係なく活動することで、区民のため、児童生徒のための言葉が生きて来ると思っています。

「終わりに」

世界に類のない、日本独自の学校歯科医制度は、昭和6（1931）年6月22日に公布された「学校歯科医及幼稚園歯科医令」で始まります。そしてこの日を「学校歯科医」の日として、日本歯科医師会会員手帳にも明記されています。私が練学歯にかかわったのは丁度40年、加齢で記憶も薄れた部分もありますが40年間の事を出来るだけ正確に書きました。

練学歯は日本の学校歯科保健のエボック・メーカーとして多くの指導者を輩出してきました。日学歯会長として、関口龍雄先生、西連寺愛憲先生、中田郁平先生であり、東京都学校歯科医会の役員も多くおられます。東京都教育委員会や文部大臣（当時）からの団体表彰もあり、今後ますますの活躍を祈念しております。

歴代会長等調

学会・協会名：練馬区学校歯科医会

会 長			副 会 長			副 会 長		
氏 名	主たる職	在任期間	氏 名	主たる職	在任期間	氏 名	主たる職	在任期間
田中 栄		昭30.4.1～ 昭42.3.31						
田中 栄		昭42.4.1～ 昭46.3.31	田中 清一 (明43.11.28生) (昭57春)		昭42.4.1～ 昭44.3.31	西連寺 愛憲 (大14.10.7生) (平1藍綬褒章) (平18春瑞小)		昭42.4.1～ 昭44.3.31
田中 清一 (明43.11.28生) (昭57春)		昭46.4.1～ 昭48.3.31	西連寺 愛憲 (大14.10.7生) (平1藍綬褒章)		昭46.4.1～ 昭48.3.31	梶取 卓治 (大14.3.29生)		昭46.4.1～ 昭48.3.31
西連寺 愛憲 (大14.10.7生) (平1藍綬褒章) (平18春瑞小)		昭48.4.1～ 昭56.3.31	梶取 卓治 (大14.3.29生)		昭48.4.1～ 昭56.3.31	茅野 昌左 (大12.6.22生)		昭48.4.1～ 昭56.3.31
西連寺 愛憲 (大14.10.7生) (平1藍綬褒章) (平18春瑞小)		昭56.4.1～ 平1.3.31	梶取 卓治 (大14.3.29生)		昭56.4.1～ 平1.3.31	中村 順一 (大14.9.2生)		昭56.4.1～ 平1.3.31
西連寺 愛憲 (大14.10.7生) (平1藍綬褒章) (平18春瑞小)		平1.4.1～ 平5.3.31	穂坂 正典 (昭8.4.4生)		平1.4.1～ 平5.3.31	斎藤 尊 (昭8.8.12生)		平1.4.1～ 平5.3.31
西連寺 愛憲 (大14.10.7生) (平1藍綬褒章) (平18春瑞小)		平5.4.1～ 平7.3.31	穂坂 正典 (昭8.4.4生)		平5.4.1～ 平7.3.31	石川 實 (昭2.8.9生)		平5.4.1～ 平7.3.31
穂坂 正典 (昭8.4.4生)		平7.4.1～ 平11.3.31	金藤 博義 (昭2.2.25生)		平7.4.1～ 平11.3.31	田中 志朗 (昭13.9.22生)		平7.4.1～ 平11.3.31
穂坂 正典 (昭8.4.4生)		平11.4.1～ 平13.3.31	榎本 龍雄 (昭8.6.10生)		平11.4.1～ 平13.3.31	望月 兵衛 (昭17.4.15生)		平11.4.1～ 平13.3.31
望月 兵衛 (昭17.4.15生)		平13.4.1～ 平15.3.31	大町 邦夫 (昭20.3.27生)		平13.4.1～ 平15.3.31	宮越 秀男 (昭20.7.8生)		平13.4.1～ 平15.3.31
望月 兵衛 (昭17.4.15生)		平15.4.1～ 平17.3.31	宮越 秀男 (昭20.7.8生)		平15.4.1～ 平17.3.31	大森 伸彦 (昭27.10.11生)		平15.4.1～ 平17.3.31
望月 兵衛 (昭17.4.15生)		平17.4.1～ 平19.3.31	佐藤 貞彦 (昭8.5.22生)		平17.4.1～ 平19.3.31	関口 幸治 (昭22.8.24生)		平17.4.1～ 平19.3.31
佐藤 貞彦 (昭8.5.22生)		平19.4.1～ 平23.3.31	杉田 廣 (昭27.10.21生)		平19.4.1～ 平23.3.31	加藤 さつき (昭26.5.11生)		平19.4.1～ 平23.3.31
佐藤 貞彦 (昭8.5.22生)		平23.4.1～ 平25.3.31	加藤 さつき (昭26.5.11生)		平23.4.1～ 平25.3.31	金田 和彦 (昭36.6.27生)		平23.4.1～ 平25.3.31
望月 兵衛 (昭17.4.15生)		平25.4.1～ 平27.3.31	金田 和彦 (昭36.6.27生)		平25.4.1～ 平27.3.31	河奈 文彦 (昭34.10.31生)		平25.4.1～ 平27.3.31
草柳 英二 (昭22.7.24生)		平27.4.1～ 平29.3.31	金田 和彦 (昭36.6.27生)		平27.4.1～ 平29.3.31	河奈 文彦 (昭34.10.31生)		平27.4.1～ 平29.3.31

※同会は、理事長は設定なし副会長2名体制のため、理事長欄を副会長欄に改めました。

会 長			副 会 長			副 会 長		
氏 名	主たる職	在任期間	氏 名	主たる職	在任期間	氏 名	主たる職	在任期間
草柳 英二 (昭22.7.24生)		平29.4.1～ 平31.3.31	河奈 文彦 (昭34.10.31生)		平29.4.1～ 平31.3.31	名古屋 昌宏 (昭28.3.20生)		平29.4.1～ 平31.3.31
草柳 英二 (昭22.7.24生)		平31.4.1～ 令3.3.31	名古屋 昌宏 (昭28.3.20生)		平31.4.1～ 令3.3.31	金澤 正彦 (昭33.4.26生)		平31.4.1～ 令3.3.31



30周年記念座談会（旧会館にて）



九州長崎 役員・委員会旅行



30周年記念式典（はま松会館）



練馬区学校歯科医会研修会

功 績 調 書

1. 事 績

(1) 練馬区における「むし歯半減運動」の推進

同会は、昭和30年に設立された練馬区むし歯半減運動推進本部の運営を担当し、今日に至るまで精力的に活動を続けてきた。その主な活動として、毎年、歯の衛生週間を中心とした時期に各小中学校を巡廻して歯の刷掃指導やむし歯予防に関する講話を行っている。また、本区では、こども達に自分の口の中の衛生状態を認識させ自分の歯の健康は自分で守るという意識を持たせることを目的に、多くの学校で「う蝕活動性試験」を行っているが、各学校での試験の実施は勿論のこと、試験に使用する器材の準備にいたるまで、会をあげて全面的な協力をしている。更に、毎年、区立小中学校の全校長と全学校歯科医との合同研修会を開催し、各校長が歯科保健に関する認識を深める機会となっている。こういった様々な活動は相互に関連しながら学校歯科保健の充実に向けて活発に展開されており、子ども達に歯の健康の持つ重要性を十分に理解させ、自らの健康は自ら守るという態度を育成するのに大いに貢献している。

(2) 学校歯科検診の充実

同会は、内部組織として学術部を持ち、定期健康診断をはじめとした歯科検診の充実を図るべく研究・考察を行い、あわせて各学校歯科医の指導にあたっている。

その取り組みの姿勢は誠に真摯であり、区立小中学校児童生徒の定期歯科検診のデータを収集し、これを統計的にまとめて今後の歯科保健指導のあり方を考えるうえでの資料にするなど、専門性を活かした研究活動を続けている。

(3) 学校保健会活動に対する協力

同会は、本区学校保健会が昭和36年に発足して以来、その活動に中心となってかわり、歯科保健の面から学校保健に関する様々な課題を取り上げて研究・実践にあたってきた。

昭和56年からは、毎年「練馬区学校保健大会」が開催され、区内の学校保健関係者が一堂に会して研究・協議を行っており、同会も積極的に研究発表や大会運営に協力している。

また、同会は、日本学校保健会、東京都学校保健会に有能な人材を派遣しており、全国的なレベルでの学校保健活動に対する協力についても大なるものがある。

(4) 広域的な学校歯科保健活動に対する協力

同会は「全国学校歯科保健研究大会」をはじめとする各種学校保健大会に会員を積極的に派遣し、学校歯科医の資質の向上に努めているほか、大会役員としても献身的に協力し、指導的立場で大会の運営にあたっている。特に「昭和62年度全国学校歯科保健研究協議会」が東京都で開催された際は、同会は率先してその成功のために尽力し、会場を練馬区に誘致した後の1年余の準備期間中は、

正にこの協議会の開催のために全力を傾け、関係団体、学校、行政との調整や打ち合わせなどを精力的に行った。その努力が実って、協議会は多数の参加者をえて成功裡のうちに終了することができ、同会の果たした役割は誠に賞賛に値するものであった。

また、同会は、全国学校歯科医会、東京都学校歯科医会の役員を数多く輩出しており、全国の学校歯科保健活動の原動力として多大な貢献をしている。



佐藤貞彦会員祝賀会



西連寺愛憲会員祝賀会



杉田廣会員祝賀会



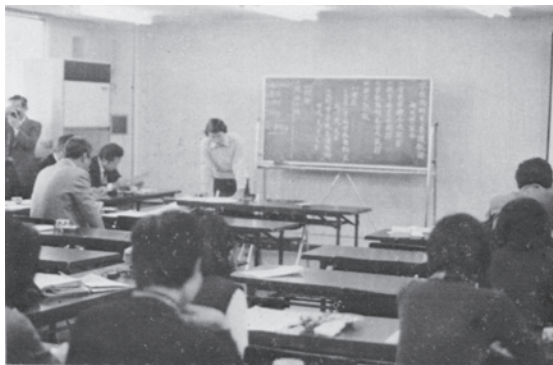
練馬区学校歯科医会役員会



中田郁平会員祝賀会



西連寺愛憲会員祝賀会



保健主事、養護教諭との 懇談研修会

当時学校長との懇談研修会とともに、年間事業計画の中で重要なのは保健主事、養護教諭との懇談研修会であった。

練馬区が板橋区より分離独立したと同時に練馬区学校歯科医会が誕生した。その当時は東京に急激な人口の増加は好ましくないという戦後の時代的背景があり、特に限られた人たちが他府県からの移住は抑制されていた時代であらゆる面で困難であった頃、学校歯科保健活動そのものは現在より更にむずかしい問題をかかえていたといえる。そうした中で学校内での直接の保健衛生担当の保健主事、養護教諭との連絡懇談の重要性を考え、その都度懇談の機会を持つよう努力してきたが、国を挙げて戦後の日本復興に大きく目をうばわれていた環境の中では学校保健活動そのものも非常にむずかしかったであろうことがうかがえる。

練馬区学校歯科医会も、当時のいろいろな会内の事情もあり一時期、練馬区歯科医会の組織の中に吸収されたが、学校保健の重要性、加えてその組織整備の重要性から昭和30年に現在のように別の機構としての練馬区学校歯科医会をつくり同年第一回の総会が開かれた。と同時に練馬区においても「練馬区むし歯半減運動推進本部」が設立され、その頃から生徒、児童に対する保健活動も活発なものとなり系統的に保健主事、養護教諭との懇談の機会を持つようになった。

而し暫くの間は戦争で遅れた部分の整理の時代であり、予防面で多くの時間をかけ得なかったのは止むを得ない時代趨勢であったのではなかろうか。

その後いくつかの過程を経て近年になりようやく学校保健会による学校歯科医会と保健主事養護教諭との懇談研修会の形式が定着し、年毎にその活動も活発化していったが、その後ある程度の成果が出、懇談会は中止となった。

次の資料は養護教諭との合同研修会の参考として出された当時の貴重な記録の一部を抜粋したものである。

1. 定期検診等について

- ・ 2～4名の歯科医師で同時に検診すると一回ですみ有難い。ただし記録が大変である。時間的には早く終るが、校医として全児童を把握できないのでは……。
- ・ ブロックの歯科医師団で実施しているところがあり、効果があがっているとのこと、他のブロックでもあればよいと思う。
- ・ 二日間で800名養護教員記録、担任引率でやっているが、うまくいっている。
- ・ 歯科医師4名で9時～12時まで1,000人の児童を検診、歯鏡も児童数用意し、事前に一回の消毒で、途中は不要、記録に養教は専念出来る。記録は事前に、担任等と打合せ問題はないと思う。
- ・ ゆっくりゆとりをもち、検診しながら、ひとりひとり指導して頂きたい。
- ・ 秋季歯科検診は、う歯何本という形式で実施しているので、時間的ゆとりもあり、ひとりひとり、児童に指導してもらって、とてもよいと思う。

- ・秋にも検診があるとよい。
- ・検診時の欠席者は直接校医のところへ行っている。
- ・検診時の記録者がほしい。
- ・消毒補助者がほしい。
- ・治療中に治療証明書がだされると、その後治療に行かない児童がある。完了してからだしていただいた方がよい。
- ・就学時検診（歯科）は不要だろうか？
- ・C1程度の児童が、他の医師に受診すると、う歯でないといわれた、見解の相違だと思うが、周知徹底してほしい。
- ・6月の歯の衛生週間の時など校医さんは話をしてほしい。
- ・4月一回で終わってしまう検診を6月か二学期中にもう一回ほしい。
- ・乳歯の要抜去と指示されたが他の医師はそのまゝでよいと言われたが。

2. 歯垢テストについて

- ・口腔衛生指導に極めて効果をあげている。
- ・多忙な中で検診のみならず口腔衛生指導の一つの試みとして有意義である。教師も保護者も児童も興味と関心をもつようになった。
- ・染料の問題もあるが、やはり歯をみがかせるには、自分の歯の状態を知らせることも大切と思い実施した。
- ・単にテストするだけでなく、児童担任に意義、安全性、教育効果について充分研究し理解が必要だ。
- ・必要性について疑問がある。

次年度も歯垢テストを実施するのかどうか、他校などの実施方法を知りたい。

各校さまざまであると思うが、テストをしても、その後の処理に疑問がある。単なるランクづけにおわらず指導する時間及び内容を検討する必要がある。

テストについてもっと話し合った方がよい。

3. その他について

よい歯のバッジ毎年続けてほしい。う歯処置率が低いので表にしてはげましている。

新しい事業や行事を行う場合は部会で話し合ってから実行されたい。

昭和51年度「白書」の中にもものった「歯垢染色テスト」が、小学校において実施される事となった。このため、実施前の「染出し薬」の選定が問題となった。染色剤の無害の実証、実施時の取扱いの簡便さ、実施学年の選定等、会長の喚問をうけて、一番問題のある、染色剤の無害性の実証のため、各委員が大学の小児歯科、口腔衛生の教室に行き、その安全性と、使用し易さを調査して、現在の染め出し剤に決定した。

昭和52年～昭和53年度、会員に対する「アンケート」の作成。これは52年と53年との2回行った。次に、理科実験室の（フ卵器）を利用して口腔内の細菌培養テストを行う「カリオスタット」の検討。これは実施に障害ありと委員会で判断し、その旨答申した。53年度最後の仕事としては「白書」以上の難事である「練馬区学校歯科医会」の歴史即ち「会史」の編集であった。これには、中村専務が編集委員長となり、委員、役員全員が協力して編集した。以上が学術委員会の活動の概況であります。

各種大会

現在我々に関係の深い学校保健大会は、年間5回開かれている。大会の歴史が学校保健の歴史であるといわれる程、大きなかわりを持っている。

昭和6年に学校歯科医令が公布されて以後学校歯科保健活動が徐々に軌道に乗ってきたわけだが、何とんでも未だ歯科医師の数も少く、歯科医師会の会員は殆ど学校歯科医も兼ねた状態がしばらく続いたものと思われる。地域的には学校歯科医そのものの集まりであり組織集団は未熟で、学校保健に関する諸問題も大会を一つの機会として、又、場所として討議され、行政官庁も重要な問題はこうした大会を利用して諮問が行われている。

う歯予防に関する資料は、明治30年3月文部省直轄学校の児童生徒に対する「身体検査規程」が定められたが、歯については「よきもの」「あしきもの」「う歯あるもの」「う歯なきもの」に区分することが決められたが、これが学校保健として児童生徒のう歯についての具体的な対策としてとりあげられた最初であり、さらに明治33年3月に公立学校に対する「学生生徒及び幼児の身体検査規定」の制定となったが、このときも「歯牙についてはう歯について検査すべし」と示して「あり」「なし」の形で学校医によって検査された。

練馬区学校歯科医会も出来得る限り各種大会に参加協力してきましたが、資料が古く一部不足のものもあり、全国的なもの、地域的なものを分類して判明した範囲で列記した。

第一回全国学校歯科医大会記念写真

全国学校歯科医大会をおしすすめた人々



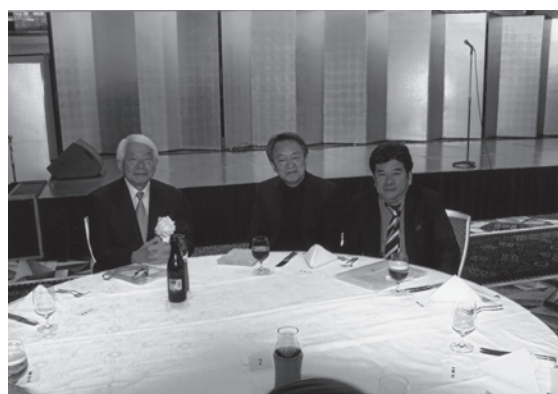
昭和6年4月6日全国学校
歯科医大会が創立された夜
記念の晩餐会を催した時の
記念写真であるが 岩原
大西 藤井等の官界人のほ
か わが歯界で学校歯科の
育成に生涯をささげた人々
の顔 顔 顔
その3分の2は故人である

全国学校歯科保健研修大会出席の会員の方々





昼食風景



第80回全国学校歯科保健研究大会（東京）
中央は池上彰氏、日本学校歯科医学会専務理事 川本強（左）
練馬区学校歯科医会会員 石塚亨

全国学校歯科保健研究大会の これまでのあゆみ

全国の学校歯科医が集う大会の願いが叶い、第1回全国学校歯科医大会が東京日本赤十字社参考館講堂にて開催されたのは昭和6年（1936年）4月6日のことであった。

この年の6月22日には「学校歯科医並びに幼稚園歯科医令」が勅令第144号で公布され、翌、昭和7年（1937年）2月1日には学校歯科医ならびに幼稚園歯科医職務規定が文部省より公布された。第2回全国学校歯科医大会は昭和7年（1937年）4月8日に同じく東京の日本赤十字社参考館講堂にて開催された。特筆すべきは第2回全国学校医大会の前日の昭和7年（1937年）4月7日に日本医師会会館にて日本学校歯科医会の前身にあたる日本聯合学校歯科医の設立総会が举行された事であり、昭和6年、7年は学校歯科医の制度、組織、大会が発足した時でもあった。

◇第46回全国学校歯科保健研究大会 昭和57年(1982年)・愛媛県
「保健指導と保健管理の調和 一地域と学校で実践する市保健活動一」

◇第47回全国学校歯科保健研究大会 昭和58年(1983年)・福岡県
「保健指導と保健管理の調和 一21世紀に生きる子どもを育てる保健教育の創造一」

◇第48回全国学校歯科保健研究大会 昭和59年(1984年)・山形県
「保健指導と保健管理の調和 一ライフサイクルの中の歯科保健一」

◇第49回全国学校歯科保健研究大会 昭和60年(1985年)・奈良県
「学校歯科保健の指導と管理の調和 一基本的生活習慣の形成と食生活一」

◇第50回全国学校歯科保健研究大会 昭和61年(1986年)・岩手県
「学校歯科保健の管理と指導の調和 一学校・家庭・地域が一体となった学校歯科保健一」

◇第51回全国学校歯科保健研究大会 昭和62年(1987年)・岐阜県
「学校歯科保健の包括化 一発達段階に即した学校歯科保健のあり方を求めて一」

◇第52回全国学校歯科保健研究大会 昭和63年(1988年)・青森県
「学校歯科保健の包括化 一発達段階に即した学校歯科保健指導を進めるために一」

◇第53回全国学校歯科保健研究大会 平成元年(1989年)・和歌山県
「学校歯科保健の包括化 一発達段階に即した歯科保健指導の展開と生活化を目指して一」

- ◇第54回全国学校歯科保健研究大会 平成2年(1990年)・広島県
「学校歯科保健の包括化 ―発達段階に即した歯科保健指導と生活化推進―」
- ◇第55回全国学校歯科保健研究大会 平成3年(1991年)・宮城県
「学校歯科保健の包括化 ―発達段階に即した歯科保健指導と生活化―」
- ◇第56回全国学校歯科保健研究大会 平成4年(1992年)・徳島県
「学校歯科保健の包括化 ―発達段階に即した学校歯科保健活動と生活化を図るために―」
- ◇第57回全国学校歯科保健研究大会 平成5年(1993年)・埼玉県
「学校歯科保健の包括化 ―発達段階に即した学校歯科保健活動と生活化を図るために―」
- ◇第58回全国学校歯科保健研究大会 平成6年(1994年)・富山県
「学校歯科保健の包括化 ―発達段階に即した歯科保健活動の生活化達成をめざして―」
- ◇第59回全国学校歯科保健研究大会 平成7年(1995年)・愛知県
「学校歯科保健の包括化 ―発達段階に即した歯科保健指導の展開―」
- ◇第60回全国学校歯科保健研究大会 平成8年(1996年)・東京都
「21世紀の学校歯科保健 ―確かな健康観の育成―」
- ◇第61回全国学校歯科保健研究大会 平成9年(1997年)・福島県
「21世紀の学校歯科保健 ―確かな健康観の育成を目指して―」
- ◇第62回全国学校歯科保健研究大会 平成10年(1998年)・沖縄県
「21世紀の学校歯科保健 ―長寿につながる確かな健康観の育成をめざして―」
- ◇第63回全国学校歯科保健研究大会 平成11年(1999年)・北海道
「21世紀の学校歯科保健 ―生涯に通ずる確かな健康観の育成を目指して―」
- ◇第64回全国学校歯科保健研究大会 平成12年(2000年)・高知県
「21世紀の学校歯科保健 ―8020につながる確かな健康観の育成を目指して―」
- ◇第65回全国学校歯科保健研究大会 平成13年(2001年)・大阪府
「変革に向けての学校歯科保健の飛躍
―生涯にわたる健康意識の向上と実践力の育成をめざして―」
- ◇第66回全国学校歯科保健研究大会 平成14年(2002年)・宮崎県
「21世紀の学校歯科保健 ―幼稚園から高等学校までの連携の新しい構築を目指して―」

- ◇第67回全国学校歯科保健研究大会 平成15年(2003年)・秋田県
「変革に向けての学校歯科保健の飛躍
—「生きる力」を育む歯・口の健康づくり実践をめざして—」
- ◇第68回全国学校歯科保健研究大会 平成16年(2004年)・静岡県
「変革に向けての学校歯科保健の飛躍 —生きる力 口と食から考えよう—」
- ◇第69回全国学校歯科保健研究大会 平成17年(2005年)・岡山県
「変革に向けての学校歯科保健の飛躍
—生きる力の育成……自ら学び、自ら考え、そして実践へ—」
- ◇第70回全国学校歯科保健研究大会 平成18年(2006年)・千葉県
「歯・口の健康づくりの総合的展開を目指して
—生きる力をはぐくむ学校歯科保健……今、学校歯科から「食」を考える—」
- ◇第71回全国学校歯科保健研究大会 平成19年(2007年)・福岡県
「歯・口の健康づくりの総合的展開を目指して
—「生きる力」の育成……自律的健康づくりと学校・家庭・地域の役割の再構築—」
- ◇第72回全国学校歯科保健研究大会 平成20年(2008年)・神奈川県
「歯・口の健康づくりの総合的展開を目指して
—こころとからだの健康……「生きる力」を基盤として—」
- ◇第73回全国学校歯科保健研究大会 平成21年(2009年)・京都府
「歯・口の健康づくりの総合的展開を目指して
—「はぐくむ」を考える……子どもたちへの支援的教育活動の確立に向かって—」
- ◇第74回全国学校歯科保健研究大会 平成22年(2010年)・茨城県
「歯・口の健康づくりの総合的展開を目指して
—「生きる力」を考える……学校・家庭・地域社会の連携の在り方—」
- ◇第75回全国学校歯科保健研究大会 平成23年(2011年)・愛媛県
「「生きる力」をはぐくむ 歯・口の健康づくりの展開を目指して
—自らわかる！自らできる！健康行動への道しるべ—」
- ◇第76回全国学校歯科保健研究大会 平成24年(2012年)・群馬県
「「生きる力」をはぐくむ 歯・口の健康づくりの展開を目指して
—子どもたちの未来を築く望ましい生活習慣の形成を見据えて—」

- ◇第77回全国学校歯科保健研究大会 平成25年(2013年)・熊本県
「「生きる力」をはぐくむ 歯・口の健康づくりの展開を目指して
—学校歯科保健で取り組む食育と口腔機能の健全な発達支援を考える—」
- ◇第78回全国学校歯科保健研究大会 平成26年(2014年)・島根県
「「生きる力」をはぐくむ 歯・口の健康づくりの展開を目指して
—学校歯科保健を通して学校・家庭・地域が取り組む健康な心と体の育成—」
- ◇第79回全国学校歯科保健研究大会 平成27年(2015年)・長野県
「「生きる力」をはぐくむ 歯・口の健康づくりの展開を目指して
—生涯を通じて自らの健康を保持増進するための学校歯科保健のあり方—」
- ◇第80回全国学校歯科保健研究大会 平成28年(2016年)・東京都
「「生きる力」をはぐくむ 歯・口の健康づくりの展開を目指して
—明るい笑顔で未来を作る学校歯科保健活動—」
- ◇第81回全国学校歯科保健研究大会 平成29年(2017年)・青森県
「「生きる力」をはぐくむ 歯・口の健康づくりの展開を目指して
—学校歯科保健からはじまる8020健康社会—」
- ◇第82回全国学校歯科保健研究大会 平成30年(2018年)・沖縄県
「「生きる力」をはぐくむ 歯・口の健康づくりの展開を目指して
—学校歯科保健活動のもつ教育力を考える—」
- ◇第83回全国学校歯科保健研究大会 令和元年(2019年)・山口県
「「生きる力」をはぐくむ 歯・口の健康づくりの展開を目指して
—学校歯科保健が拓く新たな時代—」
- ◇第84回全国学校歯科保健研究大会 令和2年(2020年)・福井県
「「生きる力」をはぐくむ 歯・口の健康づくりの展開を目指して
—学校歯科保健活動が担う、人生100年のための強い心と体—」
コロナの為中止

学校保健研究大会

■第52回全国学校保健研究大会

平成14年11月7日(木)8日(金) 福井県福井市 福井フェニックスプラザ

主題 生涯を通じて、心豊かにたくましく生きる力をはぐくむ健康教育の推進
—社会の変化に主体的に対応できる子どもの育成—

演題 「感動する心が感動の源」

□第52回全国学校歯科医協議会

平成14年11月7日(木) 福井市自治会館

記念講演

演題 「日本文化の中の人間関係：精神分析の視点」

講師 九州大学大学院人間環境学研究院・医学研究院 教授 北山 修氏

■第53回全国学校保健研究大会

平成15年11月6日(木)7日(金) 青森県青森市

主題 生涯を通じて、心豊かにたくましく生きる力をはぐくむ健康教育の推進
—社会の変化に対応し、心身の健康づくりに主体的に取り組む子供の育成—

演題 「夢・希望そして明日への一步」

□第53回全国学校歯科医協議会

平成15年11月6日(木) 青森市 ホテル青森

記念講演 演題 「健康を主体とした学校歯科保健活動の考え方」

講師 明海大学歯学部長 教授 安井利一氏

■第54回全国学校保健研究大会

平成16年10月28日(木)29日(金) 福島県郡山市

主題 生涯を通じて、心豊かにたくましく生きる力をはぐくむ健康教育の推進
—ヘルスプロモーションの理念に基づいた子どもたちの健康づくり—

□第54回全国学校歯科医協議会

平成16年10月28日(木) 郡山ビューホテルアネックス

記念講演 演題 「児童生徒の歯・口の健康づくりと食教育」

—ヘルスプロモーションを推進する学校歯科保健活動—

講師 日本大学総合科学研究所 教授 赤坂守人氏

■第55回全国学校保健研究大会

平成17年11月10日(木)11日(金) 滋賀県大津市

主題 「生涯を通じて、心豊かにたくましく生きる力をはぐくむ健康教育の推進」
—心身の健康づくりに主体的に取り組む子どもの育成—

演題 「学校健康教育への期待と役割」

□第55回全国学校歯科医協議会

平成17年11月10日(木) 大津市県民交流センター・ピアザ淡海

記念講演 演題「食乱れて民族滅ぶ」

講師 東京農業大学 教授 小泉武夫氏

■第56回全国学校保健研究大会

平成18年11月9日(木)10日(金) 島根県松江市

主題「生涯を通じて、心豊かにたくましく生きる力をはぐくむ健康教育の推進」

演題「子どもが危ない」～メディア漬けが子どもを蝕む

□第56回全国学校歯科医協議会

平成18年11月9日(木) 松江市ホテル一畑

記念講演 演題「育てよう！生きる力と噛む力」

講師 日本小児学会 会長、松本歯科大学 副歯学部長 中田 稔氏

■第57回全国学校保健研究大会

平成19年11月8日(木)9日(金) 香川県高松市

主題「生涯を通じて、心豊かにたくましく生きる力をはぐくむ健康教育の推進」

演題「現代のいじめとその解決方法～今、大人のすべきこと～」

□第57回全国学校歯科医協議会

平成19年11月8日(木) 全日空ホテルクレメント高松

記念講演 演題「空海(弘法大師)と四国遍路」

講師 四国学院大学人文学科 教授 坂田知己氏

■第58回全国学校保健研究大会

平成20年11月6日(木)7日(金) 新潟県新潟市

主題「生涯を通じて、心豊かにたくましく生きる力をはぐくむ健康教育の推進」

—心身の健康づくりに自ら取り組む子どもの育成—

演題「性教育から生きる教育へ、予防教育から希望教育へ —WYSH教育の視点から—」

□第58回全国学校歯科医協議会

平成20年11月6日(木) ホテルイタリア軒

記念講演 演題「日常歯科臨床に必要な免疫の話」

講師 新潟大学大学院 教授 安保 徹氏

■第59回全国学校保健研究大会

平成21年11月10日(火)11日(水) 広島県広島市

主題「生涯を通じて、心豊かにたくましく生きる力をはぐくむ健康教育の推進」

自ら健やかな心と体をはぐくむ子どもの育成

演題「学校におけるメンタルヘルス」

□第59回全国学校歯科医協議会

平成21年11月10日(火) ホテルグランヴィア広島

記念講演 演題「学校歯科保健の現状と将来」

講師 日本学校歯科医会 会長 中田郁平氏

■第60回全国学校保健研究大会

平成22年11月18日(木)19日(金) 群馬県前橋市

主題 「生涯を通じて、心豊かにたくましく生きる力をはぐくむ健康教育の推進」

—健康的な生活習慣や安全のための行動を実践できるどもの育成—

演題 「これからの健康教育の展望」

□第60回全国学校歯科医協議会

平成22年11月18日(木)

シンポジウム 「学校保健安全法における学校歯科医の役割」

座長 東京女子体育大学 教授 戸田芳雄氏

■第61回全国学校保健研究大会

平成23年10月27日(木)28日(金) 静岡県静岡市

主題 「生涯を通じて、心豊かにたくましく生きる力をはぐくむ健康教育の推進」

演題 「学校現場における発達障害を持つ子どもたちへの対応」

□第61回全国学校歯科医協議会

平成23年10月27日(木) ホテルセンチュリー静岡

シンポジウム 「学校歯科医がかかわる食教育の展開

～食の自律(立)と五感の育成を支援する～」

座長 (社)静岡県歯科医師会 会長 飯嶋 理氏

■第62回全国学校保健研究大会

平成24年11月8日(木)9日(金) 熊本県熊本市

主題 「生涯を通じて、心豊かに生きる力を育む健康教育の推進」

演題 「睡眠と生活リズム指導の落とし穴

～個人差に基づく教育の重要性について～」

□第62回全国学校歯科医協議会

平成24年11月8日(木) 熊本市 K K R ホテル熊本

シンポジウム 「学校へ行こう！

～学校、家庭とともに推進する健康教育と学校歯科医の在り方」

■第63回全国学校保健研究大会

平成25年11月7日(木)8日(金) 秋田県秋田市

主題 「生涯を通じて、心豊かにたくましく生きる力を育む健康教育の推進」

—健やかな心と体をつくり、健康・安全な生活を送るために

主体的に行動出来る子供の育成—

演題 「青少年の健康危険行動防止教育」

□第63回全国学校歯科医協議会

平成25年11月7日(木) 秋田ビューホテル

シンポジウム 「学校での歯科健康診断における歯列咬合・顎関節診査と事後措置を考える」

座長 秋田県歯科医師会 会長 藤原元幸氏

■第64回全国学校保健研究大会

平成26年11月6日(木)7日(金) 石川県金沢市

主題 「生涯を通じて、心豊かにたくましく生きる力を育む健康教育の推進」

演題 「学校における健康教育を未来に生きる子どもたちのために」

□第64回全国学校歯科医協議会

平成26年11月6日(木) ホテル日航金沢

シンポジウム 座長 石川県歯科医師会 会長 蓮池芳浩氏

■平成27年度 全国学校保健・安全研究大会

平成27年12月3日(木)4日(金) 愛媛県松山市

主題 「生涯を通じて、心豊かにたくましく生きる力を育む健康教育の推進」

—健康で安全な生活をおくるために自ら実践できる子供の育成—

演題 「子供たちの意思決定能力を育てる

—健康教育とライフスキル教育のコラボレーション」

□第65回全国学校歯科医協議会

平成27年12月3日(木) 松山全日空ホテル

講義1 日本学校歯科医会 常務理事 齋藤秀子先生

講義2 明海大学 学長 安井利一先生

■平成28年度 全国学校保健・学校安全大会

平成28年10月27日(木)28日(金) 北海道札幌市

主題 「生涯を通じて、心豊かにたくましく生きる力を育む健康教育の推進」

—生涯にわたり、自ら心身の健康を育み、安全を確保できる子供の育成—

演題 「子供たちの学校生活を護るための校内連携と他職種連携～発達障害、
被虐待経験をもつ子供たちを中心に～

□第66回全国学校歯科医協議会

平成28年10月27日(木) 京王プラザホテル札幌

特別講演1

演題 「学校歯科保健の魅力—これからの学校歯科医—」

講師 日本学校歯科医会 会長 丸山進一郎氏

特別講演2

演題 「最近増加している小児口腔の問題点と小児歯科臨床」

講師 北海道医療大学歯学部口腔構造・機能発達系小児歯科学分野
教授 齋藤正人氏

■平成29年度 全国学校保健・安全研究大会

平成29年11月16日(木)17日(金) 三重県津市

主題 「生涯を通じて、心豊かにたくましく生きる力を育む健康教育の推進」

～自ら心身の健康を育み、安全を確保できる子供の育成～

演題 「学校事故対応に関する指針と、これからの学校安全」

□第67回全国学校歯科医協議会

平成29年11月16日(木) 三重県総合文化センター

特別講演1 演題 「歯科保健から見た児童虐待—学校歯科医の関わり—」

講師 子ども虐待防止歯科研究会 副会長 森岡俊介氏

特別講演2 演題 「児童虐待予防 三重県歯科医師会10年の歩み」

講師 三重県歯科医師会 副会長 羽根司人氏

■平成30年度 全国学校保健・安全研究大会

平成30年10月25日(木)26日(金) 鹿児島県鹿児島市

主題 「生涯を通じて、心豊かにたくましく生きる力を育む健康教育の推進」

～自ら健康で安全な活力ある生活を送ることができる子供の育成～

演題 「発育期におけるスポーツの意義と課題」

□第68回全国学校歯科医協議会

平成30年10月25日(木) 城山ホテル鹿児島

講演 演題 「こんなところにも目をむけよう！

スクリーニングとして重要な学校歯科健康診断」

講師 鹿児島大学大学院歯学総合研究科小児歯科学分野 教授 山崎要一氏

■令和元年度 全国学校保健・安全研究大会

令和元年11月21日(木)28日(金) 埼玉県さいたま市

演題 「子供のインターネット利用と健康」

□第69回全国学校歯科医協議会

令和元年11月21日(木) パレスホテル大宮

講演 演題 「マウスガードの有効性とより安全性の高いマウスガード」

講師 東京歯科大学口腔健康科学講座 スポーツ歯学研究室

教授 武田友孝氏

シンポジウム 座長 埼玉県歯科医師会 前常務理事・学校歯科部長 斉藤秀子氏

■令和2年度 全国学校保健・安全研究大会

令和2年11月12日(木)13日(金) 富山県富山市

コロナウイルスにより大会中止

□第70回全国学校歯科医協議会

令和2年11月12日(木) オークスカナルパークホテル富山

講演 演題 「歯科からの食育」

講師 大阪大学大学院歯学研究口腔解剖学第一教室 教授 脇坂 聡先生

富山県歯科医師会 学校保健部、新谷歯科医院 院長 新谷明宏先生

コロナウイルスにより大会中止



練馬区学校保健大会

練馬区学校保健大会学校歯科医会研究発表一覧

回	日時	テーマ	講演者
第1回	昭和56年10月15日	「よい歯のしおり」（学級指導用）について	小竹小学校歯科医 森永 太悟
第2回	昭和58年10月13日	練馬区立小中学校児童生徒の口腔動態調査の概要について	小竹小学校歯科医 森永 太悟
第4回	昭和60年10月17日	歯垢染色テストの成績と児童・生徒の口腔状態について	練馬区学校歯科医会学術委員（小竹小学校歯科医） 森永 太悟
第6回	昭和62年12月3日	むし歯予防推進指定校における実践的研究の概要について	旭丘小学校歯科医 田中 徹也
第9回	平成2年12月11日	児童生徒の9年間のう蝕罹患状況の追跡調査について	向山小学校歯科医 西連寺 愛憲
第12回	平成5年12月9日	練馬区学校歯科医会の学校歯科保健活動の現況について	練馬区学校歯科医会学術委員 外川 滋
第15回	平成8年12月11日	練馬区学校歯科医会による学校巡回指導について	練馬区学校歯科医会学術理事 宮越 秀男
第18回	平成11年12月14日	「練馬区児童・生徒における歯周病の状況」—はみがきアンケートと歯肉炎の状況について—	練馬区学校歯科医会学術委員 郷家 英二
第21回	平成14年12月12日	CO（う蝕要観察歯）の経年的変化—学校歯科健診の結果から—	練馬区学校歯科医会学術委員 杉田 廣
第24回	平成17年12月8日	生活習慣からみた歯・口の健康づくり	練馬区学校歯科医会学術委員 高梨 登
第27回	平成20年12月11日	スポーツ外傷対策としてのマウスガード使用に関する調査	練馬区学校歯科医会学術委員 石井 伸行
第34回	平成27年12月10日	「給食後の歯みがきと歯肉の状況について」 ～口腔内写真を用いた歯肉の判定～ 「特別支援学級におけるアンケート調査の報告」 ～お口の健康と食習慣について～	練馬区学校歯科医会学術理事 郷家 英二 練馬区学校歯科医会学術委員会副委員長 西村 滋美

虫 歯 半 減 運 動

I) 虫歯半減運動の起源

戦後も10年を過ぎ国民の食糧事情も年毎に好転し、巷にはチョコレート、ガム、ケーキ等含糖食品が溢れ、子供の口には欲しい食べ物が小使い銭10円もあれば何時でも摂る事の出来る様な状態になって来て居た。

此の食料事情を反映し、学童の口腔内は「う歯」で充満して居り、不潔な口腔状態の者が多かった。又学校でも適切な口腔衛生指導が行われておらず、又学校歯科医も単に新学期の定期健診が義務的に行われているに過ぎず学校側もそれで可としていた。

この現実を放置して置くならば、発育旺盛期の学童の健康は阻害されるのみならず、心身の発達に重大な影響を及ぼす結果を招来することになり、大きくは日本の将来に暗影を投げかけるのではないかという危機感と、この現実から如何にして学童を救わんかと言う、我々歯科医師の使命感に基き、学童の「う歯」の全滅は無理としても、せめて半分に減らし以って体位向上、健康の保持増進を計り、健全な心身の発達を促進する事を目的として、練馬区歯科医師会と練馬区学校歯科医会がその母体となり、昭和30年、当時の須田練馬区長が本部長となり「練馬区虫歯半減運動推進本部」が設立されたのである。当然、当時の関口龍雄練馬区歯科医師会長と、田中栄練馬区学校歯科医会長が副本部長となって、会員全体が協力体勢をとり、5年を1期とし取り敢ず第1次事業計画を発足する事になったのである。

又、区庁舎の玄関にはこの表題の大きな木看板が下げられ、区報又はPTA会報等により、区民にその事業内容等大々的にPRされ、区民に対しその口腔衛生意識の啓蒙を促したのである。

以来、この運動の事業を遂行するに当り、学校歯科医会が主体となり、練馬区及び教育委員会との折衝、又学校現場への啓蒙、会員に協力依頼等を行い、年々充実した内容となり現在第5次事業計画の下に今日まで継続している。

II) 虫歯半減運動の事業の概要

- (1) 虫歯半減運動治療券の発行
 - (2) 治療勧告書の発行
 - (3) 良い歯のバッジ作成、児童に配布
 - (4) 巡回歯科保健指導
 - (5) 養護教諭との合同研修懇談会
 - (6) 小・中学校長との研修懇談会
- 等々である。



良い歯のバッジ

Ⅲ) 虫歯半減運動の治療実施状況について

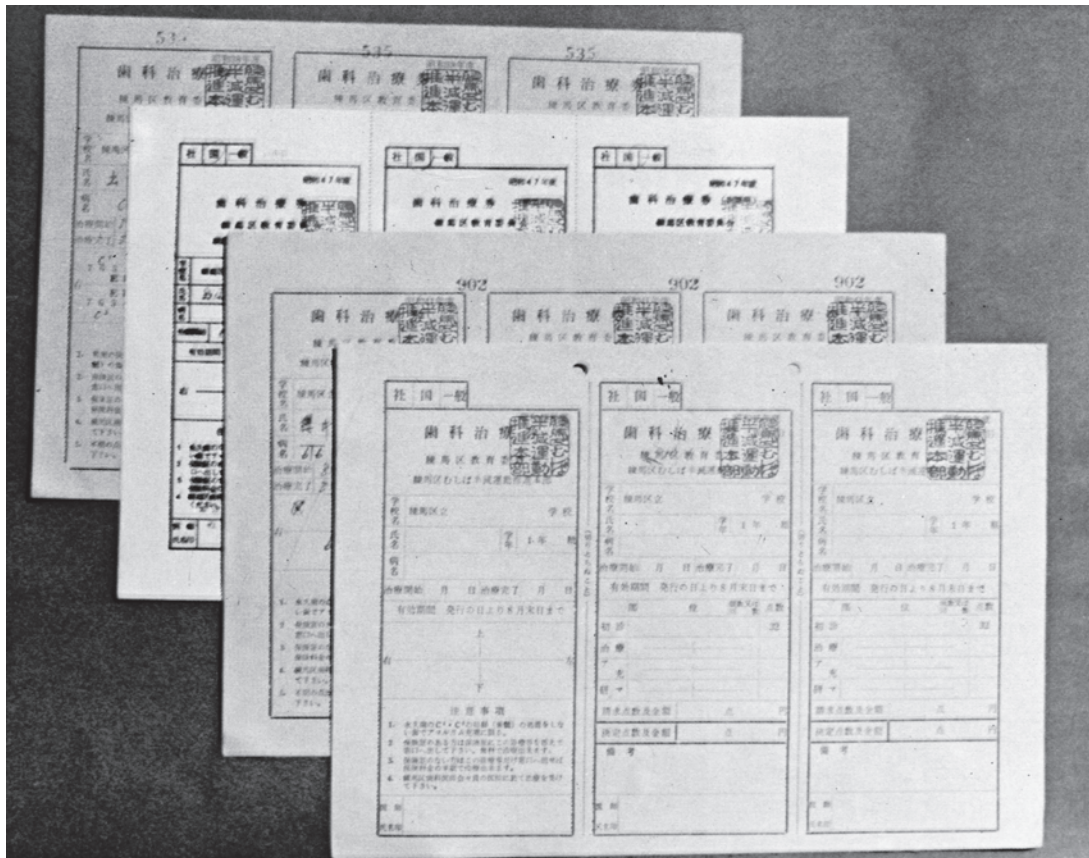
発足当初は、4月の定期健診により「う歯」を有する者の全員に治療勧告書を発行し、その中で特に要抜去乳歯、永久歯のC1C2程度の歯髄処置を必要としない「う歯」を有する者に、小学校1年生より6年生まで全員に「歯科治療券」(表I)を発行し、学校の夏期休暇中までに治療完了するよう指導すると共に、保険診療による自己一部負担金を練馬区よりの交附金により、診療に当たった先生方に支払う形をとった。又治療内容は乳歯の抜歯と永久歯の普通処置とセメント又はアマルガム充填までとした。

当初、区よりこの運動についての交附金は年額30万円と決り、学校歯科医会からの分担金がこれに加えられ、事業を行う事となった。然し実際この事業を行って見ると、治療費だけで交附金の90%を費し、他の半減運動事業である「良い歯のバッジ」作成、巡回指導等の重要な仕事の遂行が困難な事が判って来た。初年度は何とかやり繰りして無事に終わったが、第2年度からは必然的に方法の変更をせざるを得なくなった。その結果、第2年度よりは小学校1年生のみ対象として治療券を発行する事となった。又治療券の有効期間も会員の先生方の「だらだら来て困る、期間をもっと短くして欲しい」と言う希望に応じて、健診後から8月末までの期間であったのを、夏期休暇中だけと限った。

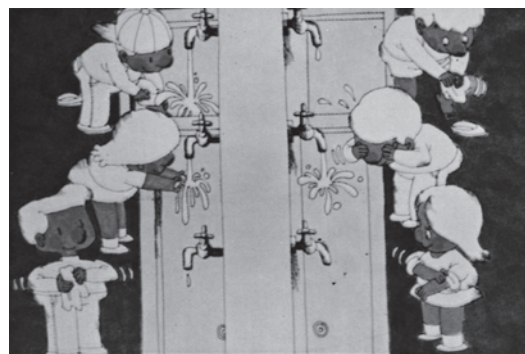
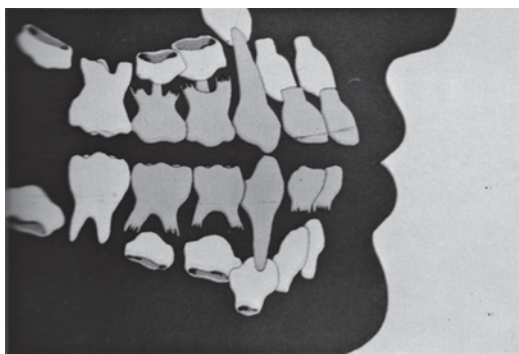
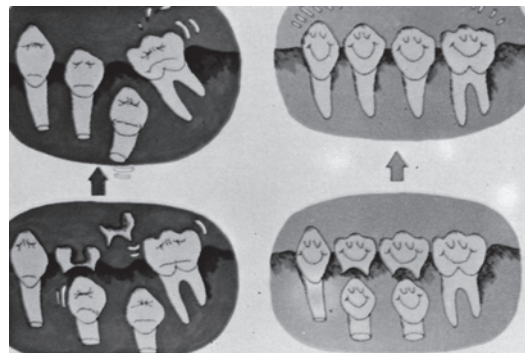
半減運動の中で最も大きな画期的な事業は、この治療券による診療であった。学校歯科医が定期健診を行い、その結果により診療行為は校医だけの力では到底行い切れない、従って練歯本会の会員の先生方の協力をお願いしなければならないと言う事実であり、又この事に関しては練歯本会と、練学歯会とが表裏一体となって行われたのである。又練歯会員の先生方の協力があつたればこそ遂行出来たのである。S36年頃だと思いが保険点数が改訂され、治療費が大きく伸びたにも拘らず交附金は30万円と据え置かれたままであった為、役員は治療費を辞退したり、又治療に当られた先生方にも何割かの犠牲を払って頂いた時もあった。その結果、翌年以後は治療内容を小学1年生の第一大臼歯の歯髄処置を要しない程度の歯牙で、終末処置をアマルガム充填までとし、乳歯の抜歯、セメント充填を除くことになった。

(前歯の珪酸セメント充填が出来なくなった)

その間交附金の増額を再三区側に要請したのであるが中々容れられず苦難に喘ぎつつ第2次事業計画が終り、その後第3次事業計画のS42年度に交附金が40万円に増額された。然し治療費は保険点数の改訂に伴い大幅に増しS44年度からは治療費を支払った後の残金が少くなり、他の半減運動事業を遂行する為に、練学歯の分担金を大幅に増額しなければならなくなった。S47年度に至って15万円の追加交附を区に要請し治療費を支払うと言う結果になった。S48年度より60万円に増額されたが、諸物価の高騰の波は種々の方面に波紋を投げかける事態となり、又世の諸家庭の経済事情も20年前の発足当初よりは良くなり、虫歯の治療は家庭で親の責任で行う事が出来るであろうし、保護家庭の子供には、社会福祉による医療が受けられるであろうと言う見解に基いて、第5次事業計画では交附金が発足当初の30万円に逆戻りして仕舞った。その結果、学童の為には残念な事ではあるが、治療券による治療は当然打ち切らざるを得なくなり、S51年度からは廃止となった。



むし歯半減運動年度別歯科治療券



練学歯会推選小学校用スライドの一部（東学歯会製作）

臨床医のためのCO・GOの統一見解 — 学校歯科医とかかりつけ歯科医の連携 —

はじめに

8020運動は昨年、20周年を迎えました。そして、各地において年々、8020達成者が増加してきています。かつて、国民皆保険制度施行前の歯科受診経験者数は現代まで、社会経済状況により年度の受診者数は増減があるものの、確実に増えてきています。それは、歯科医療供給の充実が背景にあるわけですが、それだけではないと私は考えています。8020運動などの国民運動や学校歯科保健における国民教育が大きく寄与していると確信しています。

学校歯科保健活動や患者教育は将来に対する歯科ストラテジーだ

私が小児歯科開業医になったのは昭和54年で、その当時、私の周りの先輩からは「頑張りすぎるなよ。お前が頑張ると歯医者首を絞めることになるぞ」と言われ、悲しい思いをしたことを思い出します。しかし、現在、その真偽の結果は、ADA（アメリカ合衆国歯科医師会）のデータや現在のわが国の歯科医療の潮流、例えば、なるべく歯を抜かない治療方針や歯を保存する歯周治療、MI治療などを見ても否定されているわけです。それが歯科界における最近の戦略（ストラテジー）であると思います。

ところで表題にある学校歯科保健におけるCO・GOは、教育教材として誕生したものであり、現在、いまだに歯科界では共通認識が得られていませんが、学校現場では活用されているものであります。

教育というのは、「国家20年の計に資するものだ」とよく言われますが、歯科界の将来を考えたとき、今、かかりつけ歯科医と学校歯科医が緊密に連携をとり、学校歯科保健活動や診療所の患者教育を充実させることが肝要であり、時間はかかりますが、確実な成果が得られる戦略であると私は認識しています。

今回、機会を与えられましたので、CO・GOの主旨を再認識していただき、参加者とともに学校歯科医とかかりつけ歯科医の緊密な連携の方略を模索してみたいと思っております。

う歯(C)及び要観察歯(CO)の検出基準

1. う歯(C)の検出基準

う歯(C)：

- (1) 咬合面または頬面、舌面の小窩裂溝において、視診にて歯質にう蝕性病変と思われる実質欠損(う窩)が認められるもの
- (2) 隣接面では、明らかな実質欠損(う窩)を認めた場合にう蝕とする
- (3) 平滑面においては、白斑、褐色斑、変色着色などの所見があっても、歯質に実質欠損が認められない場合にはう蝕とはしない

なお、診査の時点で明らかにう蝕と判定できない場合は、次に示す要観察歯とする

2. 要観察歯(CO)の基準

要観察歯(CO)：主として視診にてう窩は認められないが、う蝕の初期症状(病変)を疑わしめる所見を有するものこのような歯は経過観察を要するものとして、要観察歯(questionable caries under observation)とし、略記号のCO(シーオー)を用いる。

具体的には、次のものが該当する。

- (1) 小窩裂溝において、エナメル質の実質欠損が認められないが、褐色窩溝等が認められるもの
- (2) 平滑面において、脱灰を疑わしめる白濁や褐色斑等が認められるが、エナメル質の実質欠損(う窩)の確認が明らかでないもの
- (3) 精密検査を要するう蝕様病変があるもの(特に隣接面)

平成14年2月20日 社団法人日本学校歯科医会理事会にて決定

平成 年 月 日

保護者様

学校

練馬区教育委員会

「歯科」健康診断結果のお知らせ

歯科健診結果をお知らせします。健診で下記に○で示す疾病が疑われました。確定診断ではありませんので早めに歯科医院を受診されるようお勧めします。

※受診の際は、「保険証・子ども医療証」をお持ちください。

- 1 虫歯があります。
- 2 虫歯になりそうな歯があります。
- 3 注意を要する「永久歯の歯並びに影響を与える」乳歯があります。
- 4 歯並び、噛み合わせについて相談してください。
- 5 歯石、歯垢が付いています。
- 6 歯肉炎があります。
- 7 あごの関節について相談してください。

※このお知らせは、学校保健安全法施行規則第9条の定めるところにより発行するものです。

-----キ-----リ-----ト-----リ-----セ-----ン-----

歯科受診報告書

年 組 氏名

※太線内は治療を受けた医療機関で記入を受けてください。

平成 年 月 日

治療・相談の結果は下記のとおりです。

- 1 治療がすみました。
- 2 指導いたしました。
- 3 このまま経過をみます。

医療機関名

歯科医師名

平成 年 月 日
学校長あて

保護者氏名

㊞

認 印 欄	(学校長)

参考資料 4

年 月 日

学 校 歯 科 医 執 務 記 録

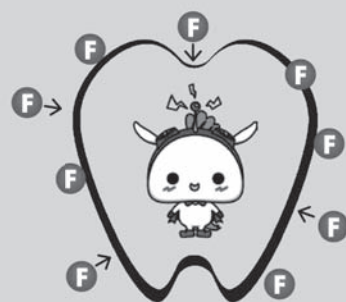
		執務者氏名	⑩
執務日時	月 日 () 午前・午後 全 日	執 務 場 所	学校, 診療所, (来訪電話等), 研修会, 大会, その他 ()
執 務 の 概 要			
項 目	記 事 項		
1 学校保健委員会等 (1) 学校保健計画立案 (2) その他			
2 定期健康診断			
3 就学時健康診断			
4 臨時健康診断			
5 健康相談及び健康指導 (1) 健康講話 (2) 相談 (3) 健康指導 (4) その他	特 記 事 項		
6 学校保健に関する研修会, 大会等			
7 授業参加			
8 学校行事に参加			
9 その他 (1) 救急時の処置 (2) フッ素塗布 (3) その他			

注意事項

- 1 学校歯科医は、職務に従事したとき、その状況をこの執務記録に記入し、校長に提出してください。
- 2 この執務記録は、執務日ごとに記入してください。1日のうちで執務が数種にわたる時でも、1枚にまとめて記入してください
- 3 学校以外の場所で執務した場合は、出校時に記入してください。

児童生徒に伝えたい フッ化物のお話

練馬区学校歯科医会



フッ化物とは

フッ素は、それ自体は気体ですが、自然界では化合物として存在し、空気、土、海水、植物、動物、食品など、あらゆるものに含まれています。これらに含まれる無機のフッ素はフッ化物イオンとして存在しており、元素名の「フッ素」ではなく「フッ化物」と呼ばれています。

フッ化物は自然の環境に広く分布しており、私たちの生活に身近な物質です。

通常むし歯予防に用いられるフッ化物はフッ化ナトリウムですが、これは天然の岩石である“蛍石”から精製されるもので、天然フッ化物そのものです。また、フッ化ナトリウムを水に溶かしてできるフッ素イオンは、お茶や飲料水に含まれるものと同じ性質のものです。

ちなみに練馬区の水道水フッ化物濃度は0.1 ppmです（平成30年度東京都水道局データ）。

※ppmとは100万分の1の割合を示す単位：
フッ素濃度1 ppmは物質1 kg中にフッ素1 mgが含まれていることを意味します。

フッ化物とはフッ素と他の元素との無機化合物のことです。



フッ素の含有量

- ・海水 1.3 ppm
- ・自然塩 25.9 ppm
- ・海藻類 2.3 ppm～14.3 ppm
- ・ヒト血漿 0.08 ppm
- ・お茶の葉 100～400 ppm

（日本歯科医師会テーマパーク8020より抜粋）



野菜類 0.1～1 ppm



肉類 0.3～2 ppm



魚介類 1～15 ppm



穀類 0.1～2 ppm



果物類 0.1～1 ppm



乳製品 0.1～0.3 ppm



お茶 0.5～2 ppm



味噌 3～10 ppm



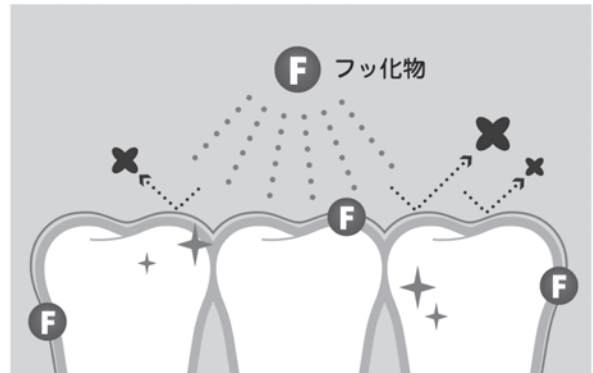
フッ化物の効果

① 歯を硬く、強くします

フッ化物は、エナメル質の結晶そのものに取り込まれ、結晶構造を丈夫にします。また、フルオロオパタイトという酸に溶けにくい結晶を作ることで、むし歯になりにくくなります。特に、生えたばかりの歯の未熟なエナメル質は溶けやすく、フッ化物をうまく使うことが大切です。

② 溶け始めたエナメル質を修復します

むし歯は、細菌が作る酸によってエナメル質からカルシウムやリン酸が溶け出す現象(脱灰)によって始まります。この時、唾液中のカルシウムやリン酸が脱灰した部分に戻ろうとする働きがあります(再石灰化)。フッ化物は、この再石灰化を助ける作用があり、歯の修復を促します。



③ 歯垢(プラーク)の生成を抑え、酸ができにくくします

歯垢の中にフッ化物がとどまることで、むし歯菌の活性を抑え、歯を溶かす酸の産生を抑える働きをします。



フッ化物の安全性

フッ素は自然の栄養素、どんな食べ物にも含まれている元素です。

上手に使って歯の健康を守りましょう!

食べ物として摂取されたフッ化物は胃腸管からすみやかに吸収されます。吸収されたフッ化物は血中に入り30～60分後に血中濃度は最高値となり、11～15時間後には元の濃度に戻ります。おもに尿として、一部は汗として排出され、残りは骨や歯に蓄積されま

すが、永久的に蓄積するのではなく、骨の代謝と共に血中に戻り、尿中に排泄されます。

小児の場合は、骨の成長や歯の形成など発育過程で生体がフッ化物を必要とするため、吸収されたフッ化物の40%ぐらいが血液を介して生体に利用されます。



摂取量

適正な量を摂取すれば安全です！

どんなに安全といわれている薬でも、量が多すぎれば体に悪影響を及ぼすことがあります。フッ化物も同様で、適量はむし歯予防に

役立ちますが、過剰に摂取すれば中毒が起こります。むし歯予防で利用するフッ化物は、適正な量で使用していれば安全です。

フッ化物の応用法			フッ化物濃度	むし歯予防率（％）
フッ化物配合歯磨剤	医薬部外品	1日1回以上	1500 ppm未満	乳歯、永久歯 20 ～ 30％
フッ化物歯面塗布法	医薬品	1年2～4回実施	9000 ppm	乳歯 30 ～ 40％，永久歯 30％
フッ化物洗口法 （フッ化物洗口剤）	医薬品	週1～2回	450 ppm	永久歯50 ～ 80％
	医薬品	週5～毎日	250 ppm	永久歯50 ～ 80％

※むし歯予防率50 ～ 80％とは10本むし歯になるはずだった歯の5～8本がむし歯にならずにすむということです。

※フッ化物洗口薬剤は1包で20 ～ 25回分のフッ化物量となります。

⚠ もし多量に(体重1 kgあたりフッ化ナトリウム5 mg以上)誤飲した場合は医療機関へ受診してください。

(例：1 g包装の顆粒状フッ化物洗口剤1袋を体重20 kgの子供が誤飲した場合)





フッ化物の利用方法

① フッ化物配合歯みがき剤

6～14歳 1cm程度 1000 ppm
15歳以上 2cm程度 1000～1500 ppm

就寝前の使用が効果的です。1日2～3回
行い、歯みがきのあと10～15mlの水で1
回程度洗口し、その後1～2時間は飲食をし
ないほうが効果的です。

② フッ化物塗布

歯科医院などでフッ化物を歯に直接塗る方
法です。年に数回塗布します。

1歳半ころから行うことができます。特に
萌出したばかりの歯は、歯の質が未完成で弱
いため、むし歯予防にとっても効果的です。

③ フッ化物洗口法（むし歯予防効果は 歯面塗布法の2～2.5倍！）

“ブクブクうがい”ができるようになる4
歳以上から成人、老人まで広く行われる方法
です。1日1回または1週間に1回の利用方
法があります。家庭や幼稚園・保育園では1
日1回、小・中学校では1週間に1回がすす
められています。

十分な予防効果を得るには、永久歯萌出期である学童期において数年以上
にわたって継続実施することが大切です。また家庭で個人的に実施するより
も、幼稚園や学校などの集団の場で行うことにより、好ましいむし歯予防効
果が得られています。

永久歯の萌出時期（4～15歳ころ）にフッ化物洗口を継続して行うこと
で、成人してからでも、むし歯の予防効果が高まります。

また、フッ化物歯磨剤での歯みがき後にフッ化物洗口を行うことで、さら
なる予防効果が期待できます。



練馬区公式アニメキャラクター ねり丸 ©練馬区
ねり丸 練馬区許諾（非販売）No.2-N-4

編集

西村 滋美	生田 剛史	瓦井 徹	石塚 亨
宮本 一世	佐藤 公男	浅見 律	山室 直子
大塩かおり	郷家 英二	古田 裕司	石井 伸行
名古屋昌宏	草柳 英二		

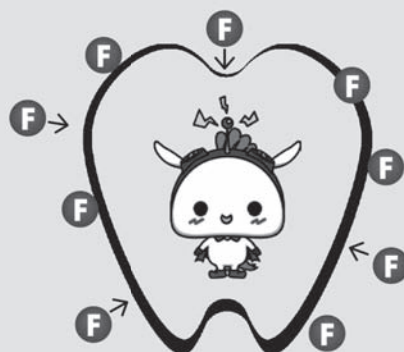
練馬区学校歯科医会

住所 〒176-0012 東京都練馬区豊玉北6-5-13 電話 03-3557-0045

保護者の皆さまへ

フッ化物で むし歯予防！

練馬区学校歯科医会



フッ化物とは

近年、低学年の児童生徒のむし歯の数は昔に比べてかなり減っていますが、学年が上がるにつれてむし歯は増えています。平成27年のデータでは高校生は2人に1人はむし歯の経験がありました。むし歯の原因となる細菌は、食べ物や飲み物の中に含まれる糖분을栄養に酸を作り出します。酸によって歯の表面のカルシウムなどのミネラル成分が溶け出し、放っておくとむし歯になってしまいます。フッ化物にはむし歯予防に欠かせない効果があります。フッ化物の作用とむし歯予防に効果的な正しい使用方法をご紹介します。

フッ化物とは、フッ素と他の元素との無機化合物のことです。

フッ素は、それ自体は気体ですが、自然界では化合物として存在し、空気、土、海水、植物、動物、食品など、あらゆるものに含まれています。これらに含まれるフッ素は元素名の「フッ素」ではなく「フッ化物」と呼ばれています。

ちなみに練馬区の水道のフッ化物濃度は0.1ppmです（平成30年度東京都水道局データ）。

※ppmとは100万分の1の割合を示す単位：フッ素濃度 1 ppmは物質 1 kg中にフッ化物1 mgが含まれていることを意味します。



フッ化物の含有量

- ・ 海水 1.3 ppm
- ・ 自然塩 25.9 ppm
- ・ 海藻類 2.3 ppm～14.3 ppm
- ・ ヒト血漿 0.08 ppm
- ・ お茶の葉 100～400 ppm

（日本歯科医師会テーマパーク8020より抜粋）



野菜類 0.1～1 ppm



肉類 0.3～2 ppm



魚介類 1～15 ppm



穀類 0.1～2 ppm



果物類 0.1～1 ppm



乳類(牛乳) 0.1～0.3 ppm



お茶 0.5～2 ppm



味噌 3～10 ppm



フッ化物の効果

① 歯を硬く、強くします

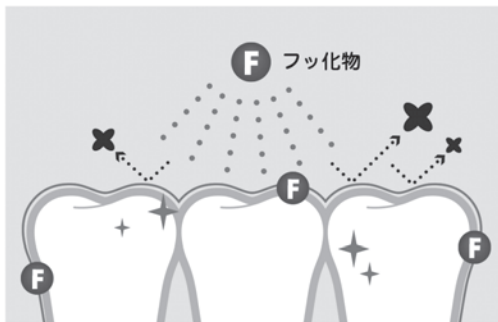
フッ化物は歯の表面のエナメル質に取り込まれ、酸に溶けにくい性質にします。

② 溶け始めたエナメル質を修復します (再石灰化を助けます)

歯から溶け出したミネラル成分を歯に戻す再石灰化を促進し、歯を修復します。

③ むし歯の原因となる酸を 細菌につくらせないようにします

むし歯の原因菌の活動をおさえ、歯が溶ける原因となる酸の産生をおさえます。



フッ化物の利用方法

① フッ化物配合歯みがき剤

むし歯予防率
20~30%

6~14歳 1cm程度 1000 ppm
15歳以上 2cm程度 1000~1500 ppm

就寝前の使用が効果的です。1日2~3回行い、歯みがきのあと10~15mlの水で1回程度漱口し、その後1~2時間は飲食をしないほうが効果的です。

② フッ化物塗布

むし歯予防率
30~40%

歯科医院などでフッ化物を歯に直接塗布する方法です。年に数回塗布します。1歳半ごろから行うことができます。特に萌出したばかりの歯は、歯の質が未完成で弱いため、むし歯予防にとても効果的です。

③ フッ化物洗口法

むし歯予防率 50~80%
歯面塗布法の 2~2.5倍!

“ブクブクうがい”ができるようになる4歳以上から成人、老人まで広く行われる方法です。1日1回または1週間に1回の利用方法があります。家庭や幼稚園・保育園では1日1回、小・中学校では1週間に1回がすすめられています。

*むし歯予防率50~80%とは10本むし歯になるはずだった歯の5~8本がむし歯にならずにすむということです。

フッ化物洗口のむし歯予防効果について

- ブクブクうがいができるようになる4歳ごろから15歳くらいまでの間、継続してフッ化物洗口を行うと、永久歯のむし歯予防効果が期待できます。
- フッ化物洗口は、家庭よりも保育園・幼稚園や学校などの集団で行うことで確実に実施でき、むし歯予防効果が高くなります。
- 大人になってからもフッ化物歯磨剤での歯みがき後にフッ化物洗口をすると、むし歯予防効果が長続きます。

フッ化物を上手に使い、生涯にわたって歯・口の健康を維持しましょう。



練馬区公式アニメキャラクター ねり丸 ©練馬区
ねり丸 練馬区許諾（非販売）No.2-N-4

更に詳細な情報を知りたい方はこちらのQRコードをご参照ください。



編集

西村 滋美	生田 剛史	瓦井 徹	石塚 亨
宮本 一世	佐藤 公男	浅見 律	山室 直子
大塩かおり	郷家 英二	古田 裕司	石井 伸行
名古屋昌宏	草柳 英二		

練馬区学校歯科医会

住所 〒176-0012 東京都練馬区豊玉北6-5-13 電話 03-3557-0045

学 術 研 究 資 料 集

スポーツ外傷対策としての マウスガード使用に関する調査

都立石神井高校
学校歯科医 石井 伸行

練馬区立泉新小学校
学校歯科医 金田 和彦

練馬区立光が丘第三小学校
学校歯科医 高梨 昇

練馬区立田柄中学校
学校歯科医 河奈 文彦

練馬区立大泉西中学校
学校歯科医 郷家 英二

練馬区立練馬第三小学校
学校歯科医 杉田 廣

練馬区立関町小学校
学校歯科医 小澤 達

練馬区立開進第二小学校
学校歯科医 手塚 通夫

練馬区立豊玉第二中学校
学校歯科医 名古屋 昌宏

練馬区立光が丘第八小学校
学校歯科医 坂井 俊弘

練馬区立大泉北小学校
学校歯科医 佐藤 貞彦

「給食後の歯みがき」推奨への取り組み 歯周病予防のために

練馬区立大泉西中学校 学校歯科医
練馬区学校歯科医会 学術委員会委員長 郷家 英二

学術委員会

南 誠二 西 克昌 生田 剛史 瓦井 徹 石塚 亨
西村 滋美 宮本 一世 金田 和彦 草柳 英二

「中学校における給食後の歯みがきと 歯肉の状態について」 —口腔内写真を用いた歯肉の判定—

学術委員会

南 誠二 西 克昌 生田 剛史 瓦井 徹 石塚 亨
西村 滋美 宮本 一世 郷家 英二 金田 和彦 草柳 英二

特別支援学級の児童生徒における 歯・口の健康と食習慣について —保護者および教職員へのアンケート調査から—

練馬区学校歯科医会

西村 滋美	西 克昌	生田 剛史	瓦井 徹	石塚 亨
宮本 一世	佐藤 公男	郷家 英二	浅見 律	古田 裕司
南 誠二	石井 伸行	金澤 正彦	名古谷 昌宏	草柳 英二

特別支援学級におけるアンケート調査の報告

都立石神井特別支援学校
学校歯科医 西村 滋美

練馬区立橋戸小学校
学校歯科医 生田 剛史

練馬区立石神井小学校
学校歯科医 石塚 亨

練馬区立大泉第一小学校
学校歯科医 佐藤 公男

練馬区立豊玉第二小学校
学校歯科医 古田 裕司

都立石神井高校
学校歯科医 石井 伸行

都立練馬工業高校
学校歯科医 金澤 正彦

練馬区立早宮小学校
学校歯科医 西 克昌

練馬区立大泉西小学校
学校歯科医 瓦井 徹

練馬区立大泉西小学校
学校歯科医 宮本 一世

練馬区立大泉西中学校
学校歯科医 郷家 英二

練馬区立大泉学園小学校
学校歯科医 南 誠二

練馬区立豊玉第二中学校
学校歯科医 名古谷 昌宏

練馬区立石神井西小学校
学校歯科医 草柳 英二

新型コロナウイルス感染禍での学校歯科医としての概要

練馬区立石神井西小学校 学校歯科医 草柳 英二

新型コロナウイルス感染症に対する小学校での取組

練馬区立石神井西小学校 主任養護教諭 山本 純子

練学歯だより 掲載項目

■第1号 2001年9月

ご挨拶 練馬区学校歯科医会会長 望月 兵衛
特 集 「これからの歯・口の健康づくりの考え方」
「ヘルスプロポーションの理念に基づいた歯・口の健康づくり」
会員の声 学校健診の難しさ 練馬区立大泉第四小学校 日比 輝彦
歯磨き習慣の確立を 練馬区立光が丘第三小学校 高梨 登
学校歯科医となって 東京都立石神井養護学校 西村 滋美
学校紹介 練馬区立大泉第一小学校 望月 兵衛
これからの日程

■第2号 2002年2月

ご挨拶 練馬区教育委員会 学校教育部 保健給食課長 石川 雅裕
教育委員会保健給食課「学校保健係」の紹介
特 集 「健康診断票の記載要領」
会員の声 学校歯科医になって 練馬区立田柄小学校 相田 孝彦
学校紹介 練馬区立豊玉第二中学校 穂坂 正典
これからの日程
学校保健の豆知識

■第3号 2002年7月

ご挨拶 練馬区学校歯科医会監事 西連寺 愛憲
特 集 「健診時の探針使用について」
新入会員ご紹介 練馬区立石神井西小学校 草柳 英二
練馬区立豊玉第二中学校 名古屋 昌宏
練馬区立練馬東小学校 西川 英次
練馬区立石神井小学校 石塚 亨
練馬区立開進第三中学校 中村 雅史
学校紹介 東京都立石神井ろう学校 大森 伸彦
トピックス ライオンへ感謝状贈呈
これからの日程
東京都の健康推進プラン21
健康給食課人事異動

■第4号 2003年1月

ご挨拶 東京都学校歯科医会専務理事 生田 博康

特 集 「学校歯科医執務記録」

学校紹介 練馬区立石神井小学校 石塚 亨

トピックス 第21回練学保大会で研究発表

近況報告 都学歯学術研究委員 大森 伸彦

これからの日程

■第5号 2003年9月

ご挨拶 練馬区学校歯科医会会長 望月 兵衛

特 集 「食べる機能に関するQ&A」

新入会員ご紹介 練馬区立石神井東小学校 加藤さつき

練馬区立関町小学校 小澤 達

練馬区立豊溪小学校 小林 力

トピックス 2003年巡回指導

第25回学校歯科保健研修会（ワークショップ）に2名の会員が参加

学校紹介 練馬区立北町西小学校 中田 郁平

豆知識

これからの日程

■第6号 2004年3月

ご挨拶 練馬区学校歯科医会副会長 宮越 秀男

特 集 「歯の学校（歯科講話参考資料）」

豆知識

会員の声 練馬区立大泉北小学校 佐藤 貞彦

学校紹介 練馬区立貫井中学校 関口 幸治

研究大会報告 第67回全国学校歯科保健研究大会 中田 郁平（練馬区立北町小学校）

■第7号 2004年9月

ご挨拶 練馬区学校歯科医会副会長 大森 伸彦

特 集 「口臭」

保健給食課人事異動

学校紹介 練馬区立大泉第三小学校 渡辺 亨

これからの日程

新入会員ご紹介 練馬区立豊溪中学校 中村 直己

練馬区立富士見台小学校 蓮池 敏明

練馬区立関中学校 池田 頼宣

練馬区立大泉北中学校 井川 淳一

東京都立石神井高等学校 石井 伸行

■第8号 2005年3月

ご挨拶 練馬区学校歯科医会会長 望月 兵衛
特 集 「歯科衛生講話を依頼されたら」
「歯の健康指導等の課題とねらい」
学校紹介 練馬区立石神井南中学校 富村 滋
トピックス 平成16年度学校保健統計調査

■第9号 2005年9月

ご挨拶 練馬区学校歯科医会会長 望月 兵衛
特 集 「健康日本21『歯の健康』における目標値」
これからの日程
学校紹介 練馬区立大泉北小学校 佐藤 貞彦
新入会員ご紹介 東京都立大泉高校・定時制 上原 正美
東京都立大泉養護学校 大塩 かおり
練馬区立中村西小学校 西連寺 典子
練馬区立田柄第二小学校 小杉 京子
練馬区立北町西小学校 伊藤 伸介
練馬区立東中学校 栗田 知之
練馬区立南が丘小学校 鎬木 秀昭
保健給食課人事異動

■第10号 2006年3月

ご挨拶 練馬区学校歯科医会副会長 関口 幸治
特 集 「第24回練馬区学校保健大会で研究発表」
東京都立第四商業高校・定時制 角田 不二彦
会員の声 第27回学校歯科保健研修会に参加して 練馬区立泉新小学校 金田 和彦
学校紹介 練馬区立石神井東小学校 加藤 さつき

■第11号 2006年9月

ご挨拶 練馬区学校歯科医会副会長 佐藤 貞彦
特 集 「児童生徒・健康診断マニュアル」が改訂
これからの日程
学校紹介 練馬区立練馬第三小学校 杉田 廣
新入会員のご紹介 練馬区立田柄第三小学校 箭本 治
練馬区立大泉南小学校 石川 明
練馬区立三原台中学校 谷内 文夫
練馬区立大泉第六小学校 有福 章徳
練馬区立立野小学校 安達 治
練馬区立旭町小学校 小池 修

■第12号 2007年3月

ご挨拶 練馬区学校歯科医会会長 望月 兵衛
特 集 「歯・口の健康づくりと健康教育」
小学校学校歯科医へ 「ご注意ください」
学校紹介 練馬区立豊玉小学校 市川 泰右
会員の声 学校歯科医の心構え 練馬区立石神井小学校 石塚 亨

■第13号 2008年3月

ご挨拶 練馬区学校歯科医会会長 佐藤 貞彦
特 集 第71回全国学校保健研究大会 領域別研究協議会 特別支援教育部会
「特別支援教育の中で学校歯科医が果たさなくてはならない役割とは？」
～地域の一開業医としての関わり～ 東京都立石神井養護学校 西村 滋美
学校紹介 練馬区立関町小学校 小澤 達
東京都立練馬工業高等学校 金澤 正彦
新入会員の声 練馬区立上石神井中学校 清水 澈

■第14号 2009年3月

ご挨拶 練馬区学校歯科医会会長 佐藤 貞彦
特 集 「スポーツ外傷の対策としてのマウスガード使用に関する調査」
学術委員 石井 伸行
学校紹介 練馬区立泉新小学校 金田 和彦
新入会員の声 練馬区立大泉学園小学校 南 誠二
練馬区立開進第四中学校 森田 修司
練馬区立光が丘第二中学校 佐藤 和典
練馬区立開進第三小学校 中島 保明
練馬区立大泉西小学校 瓦井 徹
練馬区立光が丘第一中学校 吉積 宏裕

■第15号 2010年3月

ご挨拶 練馬区学校歯科医会会長 佐藤 貞彦
特 集 「南町小の歯科校医50年」練馬区立南町小学校 大崎 忠義
学校紹介 練馬区立田柄中学校 河奈 文彦
会員の声 練馬区立豊溪小学校 小林 力
新入会員の挨拶 練馬区立中村西小学校 金川 修
練馬区立八坂中学校 中山 庸成
練馬区立早宮小学校 西 克昌

■第16号 2011年3月

ご挨拶	練馬区学校歯科医会会長 佐藤 貞彦	
特 集	「学校歯科医の悩み」練馬区立旭丘小学校 沼口 隆二	
学校紹介	練馬区立大泉東小学校	正木 研朗
	練馬区立豊玉第二中学校	名古屋 昌宏
新入会員の声	練馬区立光が丘第三中学校	楨本 しのぶ
	練馬区立練馬東小学校	成田 俊英
	練馬区立練馬第二小学校	橋本 八千代
	練馬区立春の風小学校	関東 秀雄
	東京都立大泉高等学校附属大泉中学校	小池 泉
	練馬区立開進第二小学校	西條 且津
	練馬区立高松小学校	織井 康互

■第17号 2012年3月

ご挨拶	練馬区学校歯科医会会長 佐藤 貞彦	
特 集	「第75回全国学校歯科保健大会に参加して」	
	練馬区立田柄第二小学校 小杉 京子	
学校歯科医が関わった理科「食育」研究授業の報告	練馬区学校歯科医会総務理事 南 誠二	
学校紹介	練馬区立光が丘秋の陽小学校	箭本 治
	練馬区立八坂中学校	中山 庸成
新入会員の声	練馬区立光が丘むらさき幼稚園	川端 明美
	練馬区立豊玉小学校	泊 昌人
	練馬区立石神井東小学校	柳下 道郎
	練馬区立練馬中学校	大島 一夫
	練馬区立大泉中学校	尾崎 守
	東京都立練馬高等学校	竹治 昌則

■第18号 2013年3月

ご挨拶	練馬区学校歯科医会会長 佐藤 貞彦	
特 集	「東京都立大泉特別支援学校との関わり」 東京都立大泉特別支援学校 大塩 かおり	
会員投稿	第76回全国学校歯科保健大会に参加して 練馬区立旭丘小学校 沼口 隆二	
「歯磨きでインフル発症率10分の1」は本当？		
学校紹介	練馬区立大泉西小学校	瓦井 徹
	練馬区立大泉西中学校	郷家 英二
新入会員の声	練馬区立北原小学校	樋口 和彦
	練馬区立立野小学校	野坂 祐介
	練馬区立開進第二中学校	梅田 博幸
	練馬区立中村中学校	堀 正裕
	東京都立練馬特別支援学校	央 慶子

■第19号 2014年3月

ご挨拶	練馬区学校歯科医会会長 望月 兵衛		
特 集	「給食後の歯みがき推進校の現状」 学術委員会		
会員投稿	橋戸小学校の学校歯科医として	練馬区立橋戸小学校	生田 剛史
	第77回全国学校歯科保健研究大会	練馬区立光が丘第八小学校	坂井 俊弘
	第63回全国学校保健大会に参加して	東京都立田柄高等学校	水野 重美
	学童歯みがき大会インターネット参加のご報告		
		練馬区立大泉学園小学校	南 誠二
新入会員の声	練馬区立南田中小学校	高木 裕明	
	練馬区立春日小学校	斎坂 俊夫	
	練馬区立光和小学校	岩田 隆嗣	
	練馬区立豊玉中学校	山室 直子	
	練馬区立石神井東中学校	志賀 正彦	
	練馬区立光が丘第四中学校	佐久間 栄	
	東京都立田柄高等学校	水野 重美	
学校紹介	練馬区立早宮小学校	西 克昌	
トピックス	食後の歯みがきについて	一般社団法人日本小児歯科学会	

■第20号 2015年3月

ご挨拶	練馬区学校歯科医会会長 望月 兵衛		
特 集	「後輩へ」	練馬区立北大泉幼稚園	佐牟田 和康
		練馬区立大泉北小学校	佐藤 貞彦
		練馬区立豊玉南小学校	宮原 有義
		練馬区立大泉学園中学校	榎本 龍夫
		練馬区立大泉第二中学校	安藤 三男
	「給食後の歯磨きと歯肉の状況について」 学術委員会		
会員投稿	第78回全国学校歯科保健研究大会に参加して		
		練馬区立富士見台小学校	蓮池 敏明
	第64回全国学校保健大会・第64回全国学校歯科協議会に参加して		
		東京都立練馬工業高等学校	金澤 正彦
学校紹介	東京都立石神井特別支援学校	西村 滋美	
	練馬区立豊玉第二小学校	古田 裕司	
新入会員の声	練馬区立練馬小学校	磯田 千恵	
	練馬区立石神井台小学校	梅津 雅人	
	練馬区立中村小学校	小宮 城治	
	東京都立大泉桜高等学校	鳥越 博貴	
	練馬区立光が丘さくら幼稚園	杉江 智也	

■第21号 2016年3月

ご挨拶	練馬区学校歯科医会会長 草柳 英二		
練馬区長を表敬訪問	河奈 文彦		
特 集	特別支援学級におけるアンケート調査の報告 「お口の健康と食習慣について」 練馬区学校歯科医会学術委員		
会員投稿	第79回全国学校歯科保健研究大会	東京都立田柄高等学校	水野 重美
	第66回関東甲信越静学校保健大会に参加して		
		練馬区立富士見台小学校	蓮池 敏明
	平成27年度練馬区立小学校長・中学校長との研修協議会		
		名古屋 昌宏	草柳 英二
新入会員の声	練馬区立光が丘夏の雲小学校	本田 美知子	
	練馬区立八坂小学校	松本 大輔	
	練馬区立北大泉幼稚園	安田 智恵子	
	練馬区立豊玉南小学校	阪本 栄一	
	練馬区立石神井西中学校	羅 均	
	練馬区立大泉学園中学校	安藤 泰敬	
	練馬区立石神井中学校	宮本 一世	
	練馬区立向山小学校	結城 洋仁	
	練馬区立大泉第二中学校	安斎 ちあき	
	練馬区立大泉北小学校	田中 俊三	
	練馬区立谷原中学校	竹之内 大助	

■第22号 2017年3月

ご挨拶	練馬区学校歯科医会会長 草柳 英二		
特 集	平成28年度歯科保険アンケート調査報告書 練馬区学校歯科医会 平成28年度給食後の歯みがき推奨校へのアンケート調査報告書 練馬区学校歯科医会 学術委員会		
	給食後の歯みがきと歯肉の状況について		
	「口腔内写真を用いた歯肉の判定」	練馬区学校歯科医会	学術委員会
	抄録 特別支援学級におけるアンケート調査の報告		
	「お口の健康と食習慣について」	練馬区学校歯科医会	学術委員会
会員投稿	第67回関東甲信越静学校保健大会に参加して		
		練馬区立富士見台小学校	蓮池 敏明
	平成28年度全国学校保健・安全研究会と全国学校歯科医協議会		
		練馬区立豊玉第二小学校	古田 裕司
	第80回全国学校歯科保健研究大会	練馬区立豊玉第二中学校	名古屋 昌宏
	平成28年度練馬区立小学校長・中学校長との研修協議会		
		練馬区立豊玉第二中学校	名古屋 昌宏
新入会員の声	練馬区立旭丘中学校	大橋 一郎	
	練馬区立関町小学校	藤田 哲郎	
	練馬区立上石神井中学校	上田 和也	
	練馬区立開進第一小学校	浅見 律	
	練馬区立大泉第二小学校	新野 幹樹	

■第23号 2018年3月

ご挨拶	練馬区学校歯科医会会長 草柳 英二
特 集	第52回東京都学校歯科保健大会ポスター発表 練馬区学校歯科医会学術委員会 平成29年度「練馬区よい歯・よい子のつどい」 練馬区立田柄中学校 河奈 文彦
会員投稿	第68回関東甲信越静学校保健大会に参加して 東京都立田柄高等学校 水野 重美 平成29年度全国学校保健安全研究大会 練馬区立豊玉第二小学校 古田 裕司 第81回全国学校歯科保健研究大会 練馬区立旭丘小学校 沼口 隆二 平成29年度練馬区立小学校長・中学校長との研修協議会 練馬区立光が丘第二中学校 佐藤 和典
新入会員の声	練馬区立大泉学園緑小学校 脇田 あき
西連寺愛憲元日学歯会長を偲んで	練馬区学校歯科医会会長 草柳 英二 練馬区学校歯科医会前会長 望月 兵衛 練馬区学校歯科医会元会長 佐藤 貞彦

■第24号 2019年3月

ご挨拶	練馬区学校歯科医会会長 草柳 英二
特 集	平成30年度「練馬区よい歯・よい子のつどい」 練馬区立田柄中学校 河奈 文彦
会員投稿	第69回関東甲信越静学校保健大会に参加して 練馬区立豊玉第二小学校 古田 裕司 平成30年度全国学校保健安全研究大会 練馬区立豊玉第二小学校 古田 裕司 第82回全国学校歯科保健研究大会 in 沖縄 練馬区立旭丘小学校 沼口 隆二 東京都立田柄高等学校 水野 重美 練馬区立泉新小学校 金田 和彦 平成30年度練馬区立小学校長・中学校長との研修協議会 練馬区立光が丘第二中学校 佐藤 和典 第37回練馬区学校保健大会 練馬区立豊玉第二中学校 名古屋 昌宏
学校紹介	練馬区立石神井西小学校 草柳 英二 練馬区立大泉学園小学校 南 誠二
新入会員の声	練馬区立開進第四小学校 穂坂 康朗 練馬区立大泉第一小学校 佐藤 公男 練馬区立大泉南小学校 吉川 剛太 練馬区立貫井中学校 黒田 耕太郎

■第25号 2020年3月

ご挨拶	練馬区学校歯科医会会長 草柳 英二
特 集	ミルキンの特徴と操作使用について 練馬区立早宮小学校 西 克昌 令和元年度「練馬区よい歯・よい子のつどい」 練馬区立豊玉中学校 山室 直子
会員投稿	令和元年度練馬区学校歯科医会会員研修会 練馬区立開進第一小学校 浅見 律 第70回関東甲信越静学校保健大会および歯科職域部会 練馬区立石神井西小学校 草柳 英二 第83回全国学校保健研修大会 in 山口 練馬区立豊玉第二小学校 古田 裕司 東京都立田柄高等学校 水野 重美 令和元年度全国学校保健安全研究大会 練馬区立豊玉第二小学校 古田 裕司 令和元年度練馬区立小学校長・中学校長との研修協議会 練馬区立光が丘第二中学校 佐藤 和典 第38回練馬区学校保健大会 練馬区立豊玉第二中学校 名古屋 昌宏
学校紹介	練馬区立開進第一小学校 浅見 律 練馬区立石神井中学校 宮本 一世
新入会員の声	練馬区立関町小学校 大河内 誠
望月兵衛前練馬学歯会会長を偲んで	練馬区学校歯科医会会長 草柳 英二 練馬区学校歯科医会元会長 佐藤 貞彦 練馬区学校歯科医会監事 渡辺 亨

■第26号 2021年3月

ご挨拶	練馬区学校歯科医会会長 草柳 英二
特 集	児童生徒に伝えたいフッ素のお話 練馬区学校歯科医会 学術委員会 特別支援学級の児童生徒における歯・口の健康と食習慣について 練馬区学校歯科医会 学術委員会 歯と口の健康推進事業における小・中学校への歯ブラシ贈呈 専務理事 石井 伸行 総務理事 西 克昌 練馬区学校歯科医会会員研修会「児童生徒の歯・口腔疾患に対する最新情報」 鶴見大学歯学部 小児歯科学教授 朝田 芳信
会員投稿	コロナ禍における学校歯科健診で気がついたこと 練馬区立光が丘第二中学校 佐藤 和典 練馬区立早宮小学校 西 克昌 東京都立石神井高等学校 石井 伸行 練馬区立田柄第二小学校 小杉 京子 練馬区立豊玉第二小学校 古田 裕司 練馬区立石神井西小学校 草柳 英二
学校紹介	第39回練馬区学校保健大会 東京都立練馬工業高等学校 金澤 正彦 練馬区立光が丘四季の香小学校 高梨 登 練馬区立光が丘春の風小学校 関東 英雄

	練馬区立光が丘夏の雲小学校	本田 美知子
	練馬区立光が丘秋の陽小学校	箭本 治
新入会員の声	練馬区立石神井南中学校	浜田 一彦

■第27号 2022年3月

ご挨拶 練馬区学校歯科医会会長 草柳 英二
 特集 保護者の皆さまへ フッ化物でむし歯予防！

練馬区学校歯科医会 学術委員会
 新型コロナ禍における児童生徒の食生活、虐待等の日常生活の変化について
 練馬区学校歯科医会 学術委員会
 歯と口の健康推進事業における小・中学校への歯ブラシ贈呈 西 克昌
 会員投稿 練馬区学校歯科医会 会員研修会 コロナ禍における児童虐待の対応について
 森岡歯科医院 森岡 俊介
 学術担当理事 西村 滋美

第72回関東甲信越静学校保健大会 練馬区立開進第一小学校 浅見 律
 第40回練馬区学校保健大会 練馬区立豊玉第二中学校 名古谷 昌宏
 第85回全国学校歯科保健研究大会（東京）練馬区立豊玉中学校 山室 直子
 練馬区立橋戸小学校 生田 剛史

学校紹介 練馬区立立野小学校 野坂 祐介
 練馬区立田柄第二小学校 小杉 京子
 練馬区立大泉北中学校 井川 淳一
 新入会員の声 練馬区立大泉学園桜中学校 山中 大輔
 練馬区立豊玉第二小学校 吉野 一雄



練馬区と練馬区歯科医師会主催の「よい歯・よい子のつどい」

練馬区学校歯科医会 歴代役員

昭和30年～昭和35年

会 長 田中 栄

昭和30年 第1回定時総会

○むし歯半減運動始る

昭和31年 第2回定時総会

昭和32年 第3回定時総会

昭和33年 第4回定時総会

昭和34年 第5回定時総会

昭和35年 第6回定時総会

昭和36年～昭和37年

会 長 田中 栄

副会長 櫻井 佐内

松本 幸治

理 事 鈴木 文男（渉外）

西連寺 愛憲（会計）

高橋 謙吉

細川 富士雄

関口 龍雄

市川 鶴男（庶務）

監 事 田中 清一 佐々木 久男

顧 問 森田 信一 森 満晴

昭和36年 第7回定時総会

昭和37年 第8回定時総会

○小・中学校長との懇談会始まる

○小学校養護教諭、中学校保健主事との
懇談会始まる

○定期的学校巡回指導始まる

昭和38年～昭和39年

会 長 田中 栄

副会長 細川 富士雄

田中 清一

理 事 荒木 俊二郎（庶務）

森 満晴（庶務）

西連寺 愛憲（会計）

梶取 卓治（会計）

須賀 嘉行

山崎 吉男

監 事 松本 幸治

佐々木 久男

顧 問 関口 龍雄

昭和38年 第9回定時総会

昭和39年 第10回定時総会

昭和40年～昭和41年

会 長 田中 栄

副会長 細川 富士雄

田中 清一（渉外）

理 事 松本 幸治（渉外）

森 満晴（庶務）

西連寺 愛憲（会計）

梶取 卓治

小池 将浩

森永 太悟

監 事 佐々木 久男

櫻井 佐内

顧 問 関口 龍雄

昭和40年 第11回定時総会
昭和41年 第12回定時総会
○よい歯の児童にバッジ配布始る
○歯の衛生週間区民PRパレード

昭和42年～昭和43年

会 長 田中 栄
副会長 田中 清一（渉外）
西連寺 愛憲（学術）
専 務 梶取 卓治（庶務）
理 事 茅野 昌左（会計）
石川 實（学術）
森 満晴（渉外）
中村 順一（会計）
監 事 細川 富士雄
櫻井 左内
顧 問 関口 龍雄 森田 信一
学術委員 尾崎 周三 小池 将浩
森永 太悟
連絡委員 苅部 照七 青木 守男
奈良 裕可 鏑木 雅昭
榎本 龍夫 須賀 潤治
加地 徳博

昭和42年・43年
○練馬区立小・中学校生徒の6才臼歯の
現況調査
○愛歯のつどい
○第1回東京都学校歯科（保健）大会始まる
昭和42年 第13回定時総会
第14回定時総会
昭和43年 第15回定時総会
第16回定時総会

日本学校歯科医会
常任理事 関口 龍雄
東京都学校歯科医会
副会長 関口 龍雄
常任理事 田中 栄
学術委員 西連寺 愛憲

東京都学校保健会
理 事 関口 龍雄
練馬区学校保健会
副会長 田中 栄
理 事 西連寺 愛憲

昭和44年～昭和45年

会 長 田中 栄
副会長 田中 清一（渉外）
西連寺 愛憲（学術）
専 務 梶取 卓治（庶務）
理 事 茅野 昌左（会計）
石川 實（学術）
中村 順一（庶務・会計）
監 事 櫻井 左内 森 満晴
顧 問 関口 龍雄
学術委員 尾崎 周三 小池 将浩
森永 太悟
連絡委員 苅部 照七 青木 守男
奈良 裕可 鏑木 雅昭
榎本 龍夫 須賀 潤治
加地 徳博

昭和44年 第17回定時総会
第18回臨時総会 9月26日
昭和45年 第19回定時総会 3月27日
第20回臨時総会 9月
昭和46年 第21回定時総会 3月

日本学校歯科医会
常任理事 関口 龍雄
東京都学校歯科医会
副会長 関口 龍雄
常任理事 田中 栄
学術委員 西連寺 愛憲
東京都学校保健会
理 事 関口 龍雄
練馬区学校保健会
副会長 田中 栄
理 事 西連寺 愛憲

昭和46年～昭和47年

会 長	田中 清一
副会長	西連寺 愛憲 梶取 卓治
専 務	中村 順一（庶務）
理 事	穂坂 正典（庶務） 茅野 昌左（会計） 斎藤 尊（会計） 森 満晴（学術） 石川 實（学術）
監 事	櫻井 左内 須賀 嘉行
顧 問	関口 龍雄 田中 栄
学術委員	尾崎 周三 小池 将浩 森永 太悟
連絡委員	苅部 照七 青木 守男 奈良 裕可 鍋木 雅昭 榎本 龍夫 須賀 潤司 加地 徳博

昭和46年	第22回臨時総会	9月25日
昭和47年	第23回定時総会	3月30日
	第24回臨時総会	9月26日

日本学校歯科医会

常任理事 関口 龍雄

東京都学校歯科医会

会 長 関口 龍雄
副会長 田中 栄
評議員 松本 幸治
学術委員 西連寺 愛憲

練馬区学校保健会

副会長 田中 栄
理 事 西連寺 愛憲

昭和48年～昭和49年

会 長	西連寺 愛憲
副会長	梶取 卓治 茅野 昌左
専 務	中村 順一（庶務）
理 事	穂坂 正典（庶務）

斎藤 尊（会計）

榎本 龍夫（会計）

森 満晴（学術）

石川 實（学術）

監 事	櫻井 左内 須賀 嘉行
顧 問	関口 龍雄 田中 栄 松本 幸治
学術委員	青木 守男 小池 将浩 阿部 茂 岸 守男 外川 滋
連絡委員	松村 熊吉 岩崎 輝二 松田 重昭 鍋木 雅昭 宮澤 嘉大 前田 昇 加地 徳博

昭和48年

○小学校長、中学校長との懇談会を個々に始める

昭和48年	第25回臨時総会	9月20日
昭和49年	第26回定時総会	3月29日
	第27回臨時総会	9月26日

日本学校歯科医会

常任理事 関口 龍雄

東京都学校歯科医会

会 長 関口 龍雄
副会長 田中 栄
理 事 西連寺 愛憲
評議員 松本 幸治
学術委員 西連寺 愛憲

東京都保健審議会

理 事 関口 龍雄

練馬区学校保健会

副会長 西連寺 愛憲
理 事 田中 栄 梶取 卓治
西連寺 愛憲

昭和50年～昭和51年

会 長	西連寺 愛憲
副会長	梶取 卓治 茅野 昌左

専務 中村 順一（庶務）
 理事 穂坂 正典（庶務）
 斎藤 尊（会計）
 榎本 龍夫（会計）
 石川 實（学術）
 小池 将浩（学術）
 飯島 儀盛（渉外）
 監事 須賀 嘉行 鈴木 文男
 顧問 関口 龍雄 田中 栄
 田中 清一
 学術委員 青木 守男 岸 守男
 外川 滋 森永 太悟
 原田 功一 松田 重昭
 金藤 博義

昭和50年 会員数 80名
 昭和51年 // 83名

○歯垢染色テスト始まる

昭和50年 第28回定時総会 3月26日
 第29回臨時総会 9月20日
 昭和51年 第30回定時総会 3月25日
 第31回臨時総会 9月30日

日本学校歯科医会

副会長 関口 龍雄
 常任理事 田中 栄

東京都学校歯科医会

会長 関口 龍雄
 副会長 田中 栄
 常任理事 西連寺 愛憲
 評議員 森 満晴
 学術委員 石川 實
 編集委員長 梶取 卓治

練馬区学校保健会

副会長 西連寺 愛憲
 理事 田中 栄 梶取 卓治

日本学校保健会

理事 関口 龍雄

東京都保健審議会

委員 関口 龍雄

昭和52年～昭和53年

会長 西連寺 愛憲
 副会長 梶取 卓治 茅野 昌左
 専務 中村 順一（庶務）
 理事 穂坂 正典（庶務）
 斎藤 尊（会計）
 榎本 龍夫（会計）
 石川 實（学術）
 小池 将浩（学術）
 飯島 儀盛（渉外）
 監事 須賀 嘉行 鈴木 文男
 顧問 関口 龍雄 田中 栄
 田中 清一
 学術委員 青木 守男 岸 守男
 外川 滋 森永 太悟
 原田 功一 松田 重昭
 金藤 博義

昭和52年 会員数 88名
 昭和53年 // 93名

昭和52年 第32回定時総会 3月29日
 第33回臨時総会 10月11日
 昭和53年 第34回定時総会 3月29日
 第35回臨時総会 9月28日

日本学校歯科医会

副会長 関口 龍雄
 常任理事 田中 栄

東京都学校歯科医会

会長 関口 龍雄
 副会長 田中 栄
 常任理事 西連寺 愛憲
 評議員 森 満晴
 学術委員 石川 實
 編集委員 梶取 卓治

練馬区学校保健会

副会長 西連寺 愛憲
理 事 小池 将浩 梶取 卓治

日本学校保健会

常任理事 関口 龍雄

東京都保健審議会

委 員 関口 龍雄

副会長 西連寺 愛憲
理 事 小池 将浩 梶取 卓治

日本学校保健会

常務理事 関口 龍雄

東京都保健審議会

委 員 関口 龍雄

昭和54年～昭和55年

会 長 西連寺 愛憲
副会長 梶取 卓治 茅野 昌左
専 務 中村 順一（庶務）
理 事 穂坂 正典（庶務）
斎藤 尊（会計）
榎本 龍夫（会計）
石川 實（学術）
小池 将浩（学術）
飯島 儀盛（渉外）
監 事 須賀 嘉行 鈴木 文男
顧 問 関口 龍雄 森 満晴
田中 栄
学術委員 川島 健次郎 岸 守男
外川 滋 森永 太悟
伊藤 忠 松田 重昭
金藤 博義

昭和54年 第36回定時総会 3月22日
第37回臨時総会 9月27日
昭和55年 第38回定時総会 3月27日
第39回臨時総会 9月25日

日本学校歯科医会

副会長 関口 龍雄
参 与 田中 栄

東京都学校歯科医会

会 長 関口 龍
副会長 田中 栄
参 事 西連寺 愛憲
評議員 森 満晴 茅野 昌左
学術常任委員 石川 實 斎藤 尊

練馬区学校保健会

昭和56年～昭和57年

会 長 西連寺 愛憲
副会長 梶取 卓治 中村 順一
専 務 穂坂 正典
理 事 西辻 良三（庶務）
斎藤 尊（会計）
望月 兵衛（会計）
石川 實（学術）
金藤 博義（学術）
伊藤 忠（渉外）
榎本 龍夫（渉外）
監 事 鈴木 文男 茅野 昌左
顧 問 関口 龍雄
学術委員 外川 滋 森永 太悟
小川 信昭 松田 重昭
川島 健次郎 西内 利晴
岸 守男

昭和56年 会員数 100名
昭和57年 " 101名

昭和56年 第40回定時総会 3月26日
第41回臨時総会 9月24日
昭和57年 第42回定時総会 3月25日
第43回臨時総会 9月20日

○練馬区学校保健大会始まる

日本学校歯科医会

副会長 関口 龍雄
代表会員 西連寺 愛憲

東京都学校歯科医会

会 長 関口 龍雄
理 事 西連寺 愛憲

参 事 西連寺 愛憲
評議員 茅野 昌左 森 満晴
学術常任委員 梶取 卓治 石川 實
学術委員 斎藤 尊

練馬区学校保健会

副会長 西連寺 愛憲
理 事 梶取 卓治 穂坂 正典

日本学校保健会

常務理事 関口 龍雄

東京都保健審議会

副会長 関口 龍雄

昭和58年～昭和59年

会 長 西連寺 愛憲
副会長 梶取 卓治 中村 順一
専 務 穂坂 正典
理 事 西辻 良三（庶務）
斎藤 尊（会計）
望月 兵衛（会計）
石川 實（学術）
金藤 博義（学術）
伊藤 忠（渉外）
榎本 龍夫（渉外）
監 事 鈴木 文男 茅野 昌左
顧 問 関口 龍雄
学術委員 外川 滋 森永 太悟
小川 信昭 松田 重昭
川島 健次郎 西内 利晴
岸 守男

昭和58年 会員数 102名

昭和59年 " 106名

昭和58年 第44回定時総会 3月31日

第45回臨時総会 9月29日

昭和59年 第46回定時総会 3月29日

第47回臨時総会 9月27日

日本学校歯科医会

副会長 関口 龍雄

代表会員 西連寺 愛憲

東京都学校歯科医会

会 長 関口 龍雄
理 事 西連寺 愛憲 石川 實
参 事 西連寺 愛憲
評議員 梶取 卓治 穂坂 正典
中村 順一
学術委員 望月 兵衛
学術研究員 梶取 卓治 斎藤 尊

練馬区学校保健会

副会長 西連寺 愛憲
理 事 梶取 卓治 穂坂 正典

日本学校保健会

常務理事 関口 龍雄

東京都保健審議会

副会長 関口 龍雄
評議員 西連寺 愛憲

昭和60年～昭和61年

会 長 西連寺 愛憲
副会長 梶取 卓治 中村 順一
専 務 穂坂 正典
理 事 西辻 良三（庶務）
斎藤 尊（会計）
望月 兵衛（会計）
石川 實（学術）
金藤 博義（学術）
川島 健次郎（渉外）
榎本 龍夫（渉外）
監 事 茅野 昌左 鈴木 文男
顧 問 関口 龍雄
学術委員 外川 滋 森永 太悟
小川 信昭 松田 重昭
岸 守男 小山 貞夫
清水 勇 田中 志朗

昭和60年 会員数 109名

昭和61年 " 111名

昭和61年 ライオン歯科研究所との学校巡回
指導講演始まる

昭和60年 第48回定時総会 3月28日
第49回臨時総会 9月26日

昭和61年 第50回定時総会 3月27日
第51回臨時総会 9月25日

日本学校歯科医会

会 長 関口 龍雄
専務理事 西連寺 愛憲
会報委員会委員 梶取 卓治
制度研究委員会委員 穂坂 正典
齋藤 尊
学術研究委員会委員 石川 實

東京都学校歯科医会

名誉会長 関口 龍雄
副会長 西連寺 愛憲
理 事 石川 實
参 事 西連寺 愛憲
評議員 梶取 卓治
穂坂 正典
中村 順一
学術委員 望月 兵衛
学術研究員 梶取 卓治
齋藤 尊
定款等検討委員会委員 齋藤 尊

練馬区学校保健会

副会長 西連寺 愛憲
理 事 梶取 卓治
穂坂 正典

日本学校保健会

常務理事 関口 龍雄

東京都保健審議会

常任理事 西連寺 愛憲

昭和62年～昭和63年

会 長 西連寺 愛憲
副会長 梶取 卓治 中村 順一
専 務 穂坂 正典
理 事 西辻 良三（庶務）

齋藤 尊（会計）
望月 兵衛（会計）
金藤 博義（学術）
川島 健次郎（学術）
榎本 龍夫（学術）
石川 實（渉外）

監 事 茅野 昌左 鈴木 文男
学術委員 森永 太悟 岸 守男
小川 信昭 外川 滋
松田 重昭 小山 貞夫
清水 勇 田中 志朗

昭和62年 会員数 113名

昭和63年 " 115名

昭和62年 第52回定時総会 3月26日
第53回臨時総会 9月24日
昭和63年 第54回定時総会 3月31日
第55回臨時総会 9月29日

日本学校歯科医会

名誉会長 関口 龍雄
専務理事 西連寺 愛憲
常務理事 石川 實
理 事 齋藤 尊
代表会員 石川 實
会史編集委員長 梶取 卓治
制度研究委員会委員 穂坂 正典

東京都学校歯科医会

名誉会長 関口 龍雄
副会長 西連寺 愛憲
専務理事 石川 實
理 事 梶取 卓治
参 事 西連寺 愛憲
評議員 中村 順一
穂坂 正典
齋藤 尊

予備評議員 川島 健次郎
西辻 良三
榎本 龍夫

学術委員 望月 兵衛
定款等検討委員会委員 斎藤 尊

練馬区学校保健会

副会長 西連寺 愛憲
理 事 梶取 卓治
穂坂 正典

日本学校保健会

顧 問 関口 龍雄
理 事 西連寺 愛憲

東京都保健審議会

常任理事 西連寺 愛憲
部会幹事 石川 實

平成1年～平成2年

会 長 西連寺 愛憲
副会長 穂坂 正典 斎藤 尊
専 務 西辻 良三
理 事 富村 憲一（庶務）
望月 兵衛（会計）
田中 志朗（会計）
森山 憲一（会計）
石川 實（渉外）
金藤 博義（学術）
榎本 龍夫（学術）
宮越 秀男（学術）
大町 邦夫（学術）
監 事 中村 順一 川島 健次郎
学術委員 森永 太悟 岸 守男
外川 滋 清水 勇
小川 信昭 関口 幸治
清水 徹 大川内 哲雄

平成1年 会員数 117名

平成2年 " 118名

平成1年 第56回定時総会 3月30日

第57回臨時総会 9月28日

平成2年 第58回定時総会 3月29日

第59回臨時総会 9月27日

.....

日本学校歯科医会

専務理事 西連寺 愛憲
常務理事 石川 實

斎藤 尊
会史編集委員長 梶取 卓治
代表会員 梶取 卓治
会史編集委員長 梶取 卓治
制度研究委員会委員長 穂坂 正典

東京都学校歯科医会

顧 問 関口 龍雄
副会長 西連寺 愛憲
(H2～会長)

理 事 梶取 卓治
石川 實

評議員 穂坂 正典
斎藤 尊

西辻 良三
予備評議員 金藤 博義

榎本 龍夫
富村 憲一

学術委員 望月 兵衛

練馬区学校保健会

副会長 西連寺 愛憲
理 事 穂坂 正典
斎藤 尊

日本学校保健会

顧 問 関口 龍雄
監 事 西連寺 愛憲
評議員 斎藤 尊

東京都学校歯科医会

常任理事 西連寺 愛憲
監 事 石川 實
広報出版委員 梶取 卓治

文部省保健体育審議会

委 員 西連寺 愛憲

平成3年～平成4年

会 長 西連寺 愛憲
副会長 穂坂 正典 斎藤 尊
専務理事 西辻 良三

理 事 富村 憲一（庶務）
望月 兵衛（会計）
田中 志朗（会計）
森山 憲一（会計）
石川 實（渉外）
金藤 博義（学術）
榎本 龍夫（学術）
大町 邦夫（学術）
宮越 秀男（学術）

監 事 中村 順一 川島 健次郎

学術委員 森永 太悟 岸 守男
外川 滋 小川 信昭
清水 勇 清水 徹
大川内 哲雄 関口 幸治

平成3年 会員数 118名

平成4年 会員数 118名

会員（学校歯科医）研修始る

平成3年 第60回定時総会 3月28日

第61回臨時総会 9月26日

平成4年 第62回定時総会 3月26日

第63回臨時総会 9月24日

日本学校歯科医会

副会長・専務理事 西連寺 愛憲

顧 問 関口 龍雄

常務理事 石川 實

齋藤 尊

会史編集委員長 梶取 卓治

代表会員 梶取 卓治

会史編集委員長 梶取 卓治

制度研究委員 穂坂 正典

東京都学校歯科医会

会 長 西連寺 愛憲

顧 問 関口 龍雄

理 事 梶取 卓治

生田 博康

監 事 石川 實

評議員 穂坂 正典

齋藤 尊

西辻 良三

予備評議員 金藤 博義

榎本 龍夫

富村 憲一

学術委員 望月 兵衛

練馬区学校保健会

副会長 西連寺 愛憲

理 事 穂坂 正典

齋藤 尊

日本学校保健会

顧 問 関口 龍雄

監 事 西連寺 愛憲

評議員、保健教育実践の方途研究委員

齋藤 尊

むし歯予防啓発推進事業委員 石川 實

東京都学校歯科医会

副会長 西連寺 愛憲

監 事 石川 實

広報出版委員 梶取 卓治

文部省保健体育審議会

委 員 西連寺 愛憲

平成5年～平成6年

会 長 西連寺 愛憲

副会長 穂坂 正典 石川 實

専務理事 西辻 良三

理 事 富村 憲一（庶務）

望月 兵衛（会計）

大町 邦夫（会計）

大森 伸彦（会計）

金藤 博義（学術）

榎本 龍夫（学術）

中田 郁平（学術）

竹谷 幹夫（学術）

田中 志朗（渉外）

宮越 秀男（渉外）

監 事 中村 順一 川島 健次郎

学術委員 森永 太悟 岸 守男

外川 滋 小川 信昭
清水 勇 清水 徹
関口 幸治

平成5年 会員数 114名
平成6年 // 114名

平成5年 第64回定時総会 3月25日
第65回臨時総会 9月30日
平成6年 第66回定時総会 3月31日
第67回臨時総会 9月29日

日本学校歯科医会

副会長・専務理事 西連寺 愛憲
顧問 関口 龍雄
常務理事 石川 實
会史編集委員長 梶 卓治
代表会員 梶取 卓治 望月 兵衛
制度研究委員長 穂坂 正典
参 与 斎藤 尊
代表会員 梶取 卓治 望月 兵衛
制度研究委員長 穂坂 正典
参 与 斎藤 尊

東京都学校歯科医会

会 長 西連寺 愛憲
顧 問 関口 龍雄
理 事 梶取 卓治 生田 博康
監 事 石川 實
評議員 穂坂 正典 西辻 良三
金藤 博義
予備評議員 富村 憲一 竹谷 幹夫
大町 邦夫
学術委員 望月 兵衛

日本学校保健会

顧 問 関口 龍雄
理 事 西連寺 愛憲
監 事 石川 實
児童生徒等歯、口の健康づくり
推進委員会委員長 西連寺 愛憲
同 委員 石川 實

口腔機能発達委員会委員 望月 兵衛

東京都学校保健会

副会長 西連寺 愛憲
監 事 石川 實
広報出版委員 梶取 卓治

文部省保健体育審議会

委 員 西連寺 愛憲

練馬区学校保健会

副会長 西連寺 愛憲
理 事 穂坂 正典
西辻 良三

東京都教育委員会保健審議会

委 員 西連寺 愛憲

平成7年～平成8年

会 長 穂坂 正典
副会長 金藤 博義 田中 志朗
専務理事 西辻 良三
理 事 富村 憲一（庶務）
望月 兵衛（会計）
大森 伸彦（会計）
大町 邦夫（学術）
宮越 秀男（学術）
中田 郁平（渉外）
監 事 川島 健次郎 榎本 龍夫
顧 問 西連寺 愛憲
学術委員 森永 太悟 外川 滋
関口 幸治 山内 史央
郷家 英二 浅田 博之

平成7年 会員数 116名
平成8年 // 116名

平成7年 第68回定時総会 3月30日
第69回臨時総会 9月28日
平成8年 第70回定時総会 3月28日
第71回臨時総会 9月26日

日本学校歯科医会

会 長 西連寺 愛憲

常務理事 石川 實 中田 郁平
 顧問 関口 龍雄
 代表会員 望月 兵衛
 制度研究第二委員会委員 穂坂 正典
 会誌・広報編集委員会委員長 佐藤 貞彦
 参 与 斎藤 尊

東京都学校歯科医会

会 長 西連寺 愛憲
 理 事 中田 郁平 生田 博康
 顧 問 関口 龍雄
 参 事 穂坂 正典
 評議員 金藤 博義 田中 志朗
 西辻 良三
 予備評議員 大町 邦夫 宮越 秀男
 富村 憲一
 学術委員 望月 兵衛

(財)日本学校保健会

副会長 西連寺 愛憲
 口腔機能発達委員会委員 望月 兵衛
 保健教育・実践の方途研究委員会委員
 斎藤 尊

(財)東京都学校保健会

副会長 西連寺 愛憲
 常務理事 中田 郁平

練馬区学校保健会

副会長 穂坂 正典
 理 事 西辻 良三 田中 志朗

文部省保健体育審議会

委 員 西連寺 愛憲

東京都教育委員会保健体育審議会

委 員 西連寺 愛憲

平成9年～平成10年

会 長 穂坂 正典
 副会長 金藤 博義 田中 志朗
 専務理事 西辻 良三
 理 事 富村 憲一（庶務）
 望月 兵衛（会計）
 大森 伸彦（会計）
 大町 邦夫（学術）

宮越 秀男（学術）

中田 郁平（渉外）

監 事 川島 健次郎 榎本 龍夫

顧 問 西連寺 愛憲

学術委員 森永 太悟 関口 幸治

山内 史央 郷家 英二

手塚 通夫 河奈 文彦

平成9年 会員数 116名

平成10年 会員数 118名

平成9年 第72回定時総会 3月27日

第73回臨時総会 9月25日

平成10年 第74回定時総会 3月26日

第75回臨時総会 9月24日

日本学校歯科医会

会 長 西連寺 愛憲

常務理事 中田 郁平

顧 問 関口 龍雄 石川 實

代表会員 生田 博康 望月 兵衛

学術第一委員会委員 穂坂 正典

会誌・広報編集委員会委員長 佐藤 貞彦

参 与 斎藤 尊

東京都学校歯科医会

会 長 西連寺 愛憲

理 事 生田 博康 中田 郁平

顧 問 関口 龍雄

参 事 穂坂 正典

評議員 穂坂 正典 金藤 博義

西辻 良三

予備評議員 大町 邦夫 宮越 秀男

富村 憲一

学術委員 望月 兵衛

(財)日本学校保健会

副会長 西連寺 愛憲

常務理事 中田 郁平

口腔機能発達委員会委員 望月 兵衛

(財)東京都学校保健会

副会長 西連寺 愛憲

練馬区学校保健会

副会長 穂坂 正典
理 事 田中 志朗 西辻 良三

文部省保健体育審議会

委 員 西連寺 愛憲

東京都教育委員会保健体育審議会

委 員 西連寺 愛憲

専務理事 生田 博康
理 事 中田 郁平
参 事 穂坂 正典
評議員 穂坂 正典 望月 兵衛
市川 泰右
予備評議員 大町 邦夫 宮越 秀男
富村 憲一

(財)日本学校保健会

副会長 西連寺 愛憲
常務理事 中田 郁平

(財)東京都学校保健会

副会長 西連寺 愛憲
常務理事 生田 博康

練馬区学校保健会

副会長 穂坂 正典
理 事 榎本 龍夫 市川 泰右

東京都教育委員会保健体育審議会

委 員 西連寺 愛憲

平成11年～平成12年

会 長 穂坂 正典
副会長 榎本 龍夫 望月 兵衛
専務理事 市川 泰右
理 事 富村 憲一（庶務）
大森 伸彦（会計）
大町 邦夫（学術）
宮越 秀男（学術）
中田 郁平（渉外）
監 事 高見 幸男 西辻 良三
顧 問 西連寺 愛憲
学術委員 関口 幸治 山内 史央
郷家 英二 手塚 通夫
河奈 文彦

平成11年 会員数 118名
平成12年 会員数 118名

平成11年 第76回定時総会 3月25日
第77回臨時総会 9月30日
平成12年 第78回定時総会 3月30日
第79回臨時総会 9月28日

日本学校歯科医会

会 長 西連寺 愛憲
常務理事 中田 郁平
理 事 望月 兵衛
顧 問 石川 實
代表会員 生田 博康
会誌・広報編集委員会委員長 佐藤 貞彦

東京都学校歯科医会

会 長 西連寺 愛憲

平成13年～平成14年

会 長 望月 兵衛
副会長 大町 邦夫（学術）
宮越 秀男（学術）
専務理事 市川 泰右
理 事 富村 憲一（庶務）
大森 伸彦（会計）
中田 郁平
（渉外・広報・会員研修）
関口 龍夫（学術）
渡辺 亨（庶務・学術）
監 事 西連寺 愛憲 高見 幸男
顧 問 穂坂 正典
学術委員 手塚 通夫 杉田 廣
河奈 文彦 角田 不二彦
沼口 隆二

平成13年 会員数 120名
平成14年 会員数 120名

平成13年 第80回定時総会 3月22日

第81回臨時総会 9月27日
平成14年 第82回定時総会 3月28日
第83回臨時総会 9月26日

○練馬だより第1号発刊

日本学校歯科医会

会 長 西連寺 愛憲
常務理事 望月 兵衛 中田 郁平
顧 問 石川 實
代表会員 生田 博康
会誌・広報編集委員会委員長 佐藤 貞彦

東京都学校歯科医会

会 長 西連寺 愛憲
専務理事 生田 博康
参 事 望月 兵衛
評議員 望月 兵衛 大町 邦夫
市川 泰右
予備評議員 宮越 秀男 富村 憲一
関口 幸治
学術委員 望月 兵衛
学術研究委員 大森 伸彦

(財)日本学校保健会

副会長 西連寺 愛憲
評議員 中田 郁平

(財)東京都学校保健会

副会長 西連寺 愛憲
部会幹事 生田 博康

練馬区学校保健会

副会長 望月 兵衛
理 事 宮越 秀男 市川 泰右

東京都教育委員会関係

学校保健審議会委員 西連寺 愛憲

平成15年～平成16年

会 長 望月 兵衛
副会長 宮越 秀男 (学術)
大森 伸彦 (会計)
専務理事 市川 泰右
理 事 渡辺 亨 (庶務)
富村 滋 (会計)

中田 郁平 (渉外・広報)

関口 龍夫 (学術)

杉田 廣 (庶務・学術)

監 事 西連寺 愛憲 田中 英道
学術委員 角田 不二彦 河奈 文彦
手塚 通夫 木村 昭彦
石塚 亨

平成15年 会員数 120名

平成16年 " 122名

平成15年 第84回定時総会 3月27日

第85回臨時総会 9月25日

平成16年 第86回定時総会 3月25日

第87回臨時総会 9月30日

日本学校歯科医会

会 長 西連寺 愛憲
常務理事 望月 兵衛 中田 郁平
代表会員 生田 博康
会誌・広報編集委員会委員長 佐藤 貞彦

東京都学校歯科医会

会 長 西連寺 愛憲
専務理事 生田 博康
理 事 中田 郁平
参 事 望月 兵衛
評議員 望月 兵衛 宮越 秀男
市川 泰右
予備評議員 関口 幸治 大森 伸彦
渡辺 亨
学術研究委員 大森 伸彦

(財)日本学校保健会

副会長 西連寺 愛憲
評議員 中田 郁平

(財)東京都学校保健会

副会長 西連寺 愛憲
常務理事 生田 博康

練馬区学校保健会

副会長 望月 兵衛
理 事 宮越 秀男 市川 泰右

練馬区学校保健会

副会長 望月 兵衛
理 事 宮越 秀男 市川 泰右

東京都教育委員会保健体育審議会

委 員 西連寺 愛憲

平成17年～平成18年

会 長 望月 兵衛
副会長 佐藤 貞彦（学術）
関口 龍夫（学術）
専務理事 市川 泰右
理 事 杉田 廣（庶務）
渡辺 亨（会計）
富村 滋（学術）
加藤 さつき（学術・広報）
角田 不二彦（学術・会員研修）
監 事 西連寺 愛憲 田中 英道
顧 問 大森 伸彦
学術委員 手塚 通夫（委員長）
高梨 登（副委員長）
河奈 文彦 坂井 俊弘
名古谷 昌宏

平成17年 会員数 123名
平成18年 " 123名

平成17年 第88回定時総会 3月21日
 第89回臨時総会 9月29日
平成18年 第90回定時総会 3月30日
 第91回臨時総会 9月28日

日本学校歯科医会

専務理事 中田 郁平
代表会員 西連寺 愛憲 望月 兵衛

東京都学校歯科医会

会 長 西連寺 愛憲
顧 問 生田 博康
参 事 望月 兵衛
評議員 望月 兵衛 関口 幸治
市川 泰右

予備評議員 渡辺 亨 杉田 廣
富村 滋
学術委員 杉田 廣

(財)東京都学校保健会

常務理事 中田 郁平

練馬区学校保健会

副会長 望月 兵衛
理 事 関口 幸治 市川 泰右

東京都教育委員会保健体育審議会

委 員 西連寺 愛憲

平成19年～平成20年

会 長 佐藤 貞彦
副会長 杉田 廣（学術）
加藤 さつき（会計）
専務理事 市川 泰右
理 事 富村 滋（庶務）
渡辺 亨（会計）
金田 和彦（学術）
小澤 達（学術・会員研修）
金澤 正彦（渉外・広報）
監 事 西連寺 愛憲 田中 英道
顧 問 望月 兵衛
学術委員 高梨 登（委員長）
手塚 通夫（副委員長）
河奈 文彦 名古谷 昌宏
石井 伸行

平成19年 会員数 123名
平成20年 " 123名

平成19年 第92回定時総会 3月29日
 第93回臨時総会 9月27日
平成20年 第94回定時総会 3月27日
 第95回臨時総会 9月25日

日本学校歯科医会

名誉会長 西連寺 愛憲
参 事 中田 郁平
代表会員 望月 兵衛

参 与 望月 兵衛

東京都学校歯科医会

監 事 西連寺 愛憲

参 事 佐藤 貞彦

評議員 佐藤 貞彦 望月 兵衛

市川 泰右

予備評議員 杉田 廣 加藤 さつき

富村 滋

学術委員 杉田 廣

(財)日本学校保健会

副会長 中田 郁平

練馬区学校保健会

副会長 佐藤 貞彦

理 事 加藤 さつき 市川 泰右

平成21年～平成22年

会 長 佐藤 貞彦

副会長 杉田 廣 (学術)

加藤 さつき (会計)

専務理事 金田 和彦

理 事 草柳 英二 (庶務)

渡辺 亨 (会計)

河奈 文彦 (学術)

小澤 達 (学術・会員研修)

金澤 正彦 (渉外・広報)

監 事 望月 兵衛 市川 泰右

顧 問 西連寺 愛憲

学術委員 高梨 登 (委員長)

浅田 博之 (副委員長)

鎗木 秀昭 名古谷 昌宏

石井 伸行

平成21年 会員数 123名

平成22年 " 123名

平成21年 第96回定時総会 3月26日

第97回臨時総会 9月27日

平成22年 第98回定時総会 3月25日

第99回臨時総会 9月30日

第100回臨時総会 10月18日

日本学校歯科医会

名誉会長 西連寺 愛憲

会 長 中田 郁平

代表会員 望月 兵衛

会誌広報委員 草柳 英二

学術委員 小杉 京子

東京都学校歯科医会

名誉会長 西連寺 愛憲

参 事 佐藤 貞彦

評議員 佐藤 貞彦 望月 兵衛

金田 和彦

予備評議員 杉田 廣 加藤 さつき

渡辺 亨

学術委員 杉田 廣

広報委員 草柳 英二

(財)日本学校保健会

顧 問 西連寺 愛憲 中田 郁平

練馬区学校保健会

副会長 佐藤 貞彦

理 事 加藤 さつき 金田 和彦

平成23年～平成24年

会 長 佐藤 貞彦

副会長 加藤 さつき (会計)

金田 和彦 (学術)

専務理事 河奈 文彦

理 事 南 誠二 (総務)

箭本 治 (会計)

草柳 英二 (学術)

小杉 京子 (学術・会員研修)

金澤 正彦 (渉外・広報)

監 事 望月 兵衛 渡辺 亨

学術委員 郷家 英二 (委員長)

瓦井 徹 (副委員長)

西村 滋美 西 克昌

生田 剛史

平成23年 会員数 116名

平成24年 会員数 116名

平成23年 第101回定時総会 3月31日
第102回臨時総会 9月29日
平成24年 第103回定時総会 3月29日
第104回臨時総会 9月27日

○学校医定年制の認定

日本学校歯科医会

名誉会長 西連寺 愛憲
会 長 中田 郁平
代表会員 望月 兵衛
広報委員長 草柳 英二

東京都学校歯科医会

名誉会長 西連寺 愛憲
参 事 佐藤 貞彦
評議員 佐藤 貞彦 望月 兵衛
河奈 文彦
予備評議員 加藤 さつき 金田 和彦
箭本 治
予算決算特別委員 佐藤 貞彦
学術委員 金田 和彦
学術研究委員 山本 智彦
会誌・広報委員 草柳 英二
新法人制度・定款諸規則検討臨時委員
箭本 治

(財)日本学校保健会

顧 問 中田 郁平

練馬区学校保健会

副会長 佐藤 貞彦
理 事 加藤 さつき 河奈 文彦

平成25年～平成26年

会 長 望月 兵衛
副会長 金田 和彦（学術）
河奈 文彦（事業）
専務理事 箭本 治
理 事 小杉 京子（総務）
金川 修（会計）
南 誠二（学術・会員研修）
金澤 正彦（広報）
監 事 佐藤 貞彦 渡辺 亨

顧 問 草柳 英二
学術委員 瓦井 徹（委員長）
西 克昌（副委員長）
西村 滋美 郷家 英二
生田 剛史
名誉会長 西連寺 愛憲

平成25年 会員数 117名

平成26年 " 117名

○区歯科衛生士による歯科健康巡回指導始まる

平成25年 第105回定時総会 3月28日
第106回臨時総会 9月26日
平成26年 第107回定時総会 3月27日
第108回臨時総会 9月25日

一般社団法人日本学校歯科医会

名誉会長 西連寺 愛憲
代表会員 望月 兵衛
広報委員長 草柳 英二

一般社団法人東京都学校歯科医会

顧 問 西連寺 愛憲
参 事 望月 兵衛
代議員会議長 望月 兵衛
代議員 望月 兵衛 河奈 文彦
箭本 治
予備代議員 金田 和彦 南 誠二
金澤 正彦

選挙管理予備委員 角田 不二彦
予算決算特別委員 箭本 治
学術委員 金田 和彦
会誌・広報委員 草柳 英二

練馬区学校保健会

副会長 望月 兵衛
理 事 金田 和彦 箭本 治

平成27年～平成28年

会 長 草柳 英二
副会長 金田 和彦（学術）
河奈 文彦（事業）

専務理事 箭本 治
理 事 小杉 京子（総務）
金川 修（会計）
南 誠二（学術・ホームページ）
郷家 英二（学術）
名古屋 昌宏（広報）
監 事 望月 兵衛
渡辺 亨
名誉会長 西連寺 愛憲
学術委員 西 克昌（委員長）
西村 滋美（副委員長）
生田 剛史（書記）
瓦井 徹 石塚 亨
宮本 一世

平成27年 会員数 117名
平成28年 " 115名

平成27年 第109回定時総会 3月26日
第110回臨時総会 9月24日
平成28年 第111回定時総会 3月31日
第112回臨時総会 9月29日

一般社団法人日本学校歯科医会

名誉会長 西連寺 愛憲
代表会員 望月 兵衛
予備代表会員 箭本 治
広報委員副委員長 草柳 英二

一般社団法人東京都学校歯科医会

名誉会員 西連寺 愛憲
参 事 草柳 英二
理 事 箭本 治
代議員会議長 望月 兵衛
代議員 草柳 英二 望月 兵衛
河奈 文彦
予備代議員 金田 和彦 南 誠二
予算決算特別委員 河奈 文彦
選挙管理予備委員 角田 不二彦
会誌・広報委員 河奈 文彦
学術委員 金田 和彦

練馬区学校保健会

副会長 草柳 英二
理 事 金田 和彦 箭本 治

平成29年～平成30年

会 長 草柳 英二
副会長 河奈 文彦（事業）
名古屋 昌宏（学術）
専務理事 南 誠二
理 事 石井 伸行（総務）
樋口 和彦（会計）
西 克昌（学術・ホームページ）
古田 裕司（学術・ホームページ）
佐藤 和典（広報）
監 事 中田 郁平 渡辺 亨
学術委員 郷家 英二（委員長）
西村 滋美（副委員長）
生田 剛史（書記）
瓦井 徹 石塚 亨 宮本 一世
ホームページ委員 浅見 律（委員長）
山室 直子（副委員長）
大塩 かおり（書記）

平成29年 会員数 115名
平成30年 " 115名

平成29年 第113回定時総会 3月30日
第114回臨時総会 9月28日
平成30年 第115回定時総会 3月29日
第116回臨時総会 9月27日

一般社団法人日本学校歯科医会

代表会員 箭本 治
予備代表会員 山室 直子
将来施設検討臨時委員会委員
中田 郁平（副委員長）
会長表彰審査委員会委員
草柳 英二（委員長）
学術第1（調査研究）・学術委員会委員
郷家 英二

公益法人対応臨時委員会委員

箭本 治

広報委員会アドバイザー

草柳 英二

一般社団法人東京都学校歯科医会

参 事 草柳 英二

理 事 箭本 治 (総務)

山室 直子 (学術)

代議員 草柳 英二 中田 郁平

南 誠二

予備代議員 河奈 文彦

名古屋 昌宏

石井 伸行

広報委員会委員

草柳 英二 (委員長)

河奈 文彦

選挙管理委員会委員 角田 不二彦

学術研究委員会委員 金田 和彦

学術委員 名古屋 昌宏

南 誠二

練馬区学校保健会

副会長 草柳 英二

理 事 名古屋 昌宏

南 誠二

平成31年～令和2年

会 長 草柳 英二

副会長 名古屋 昌宏 (学術)

金澤 正彦 (事業)

専務理事 石井 伸行

理 事 西 克昌 (総務)

樋口 和彦 (会計)

古田 裕司 (学術・ホームページ)

浅見 律 (学術・ホームページ)

佐藤 和典 (広報)

監 事 中田 郁平 渡辺 亨

学術委員 西村 滋美 (委員長)

生田 剛史 (副委員長)

宮本 一世 (書記)

瓦井 徹 石塚 亨

佐藤 公男

郷家 英二 (特別顧問)

ホームページ委員 浅見 律

(委員長・理事兼任)

山室 直子 (副委員長)

大塩 かおり (書記)

平成31年 会員数 114名

平成31年 第117回定時総会 3月28日

令和元年 第118回臨時総会 9月26日

令和2年 第119回定時総会 3月26日

※「新型コロナウイルス」に係る書面方式による議決権行使における総会

第120回臨時総会 9月24日

※「新型コロナウイルス」に係るWEBによる 総会

公益社団法人日本学校歯科医会

代表会員 箭本 治

予備代表会員 山室 直子

広報委員会アドバイザー 草柳 英二

会長表彰審査委員会委員 中田 郁平

国際渉外委員会委員 山室 直子

周年事業委員会委員副委員長 草柳 英二

規則改正臨時委員会委員 箭本 治

公益社団法人東京都学校歯科医会

参 事 草柳 英二

理 事 箭本 治 (会計)

山室 直子 (学術チーフ)

代議員 草柳 英二 中田 郁平

石井 伸行

予備代議員 金澤 正彦 名古屋 昌宏

西 克昌

会誌・広報委員会委員

草柳 英二 (委員長)

学術研究委員会委員 金田 和彦 (委員長)

地区学術委員 名古屋 昌宏

練馬区学校保健会

副会長 草柳 英二

理 事 名古屋 昌宏 石井 伸行

団体の規模及び事業概況調査

平成27年4月1日現在

団体の名称	法的根拠	規模				事業内容	備考
		会員数	活動範囲	役員構成	年予算額		
練馬区学校歯科医学会 (昭和30年4月1日 設立)		115名	東京都練馬区	役員 会長 草柳 英二 1名 副会長 1名 専務理事 2名 総務理事 1名 理事 1名 監事 4名 名誉会長 2名 1名 事務局職員 0名 職員	4,700千円	1 児童生徒の歯と口の健康推進 2 学校保健安全活動 3 口腔衛生向上のための啓発活動	昭和30年練馬区歯科医師会の部会より独立。

※社団法人、財団法人、審議会、学会等において役員歴がある際は提出してください。
事務局職員がいない場合でも省略せず、0名と記載してください。

小学校校長・中学校校長と学校歯科医との研修協議会



練学歯会員名簿（令和2年現在）

氏 名	就任校	住 所	電話番号
	就任年月日	就任校住所	就任校電話
相 田 孝 彦	田 柄 小	179-0073 田柄2-51-7	(3939)0631
	H12. 4. 1	179-0073 田柄2-19-19	(3939)0351
浅 田 博 之	谷 原 小	177-0032 谷原2-10-17	(3996)8522
	H 5. 4. 1	177-0032 谷原2-9-26	(3997)3271
浅 見 律	開進第一小	179-0084 氷川台2-12-3-101	(3559)9777
	H28. 4. 1	179-0085 早宮2-1-31	(3932)3170
荒 川 桂 一	小 竹 小	176-0012 豊玉北5-15-1アルファビル 2F	(3991)4105
	H10.11. 1	176-0004 小竹町2-6-7	(3956)8391
有 福 章 徳	大泉第六小	178-0064 南大泉1-44-28	(3867)3202
	H18. 6. 1	178-0064 南大泉5-25-29	(3925)2471
安 斎 ち あ き	大泉第二中	178-0063 東大泉4-1-10	(3922)0081
	H27. 4. 1	178-0063 東大泉6-21-1	(3922)0165
安 藤 泰 敬	大泉学園中	178-0063 東大泉1-30-4-401	(3923)6500
	H27. 4. 1	178-0061 大泉学園町4-17-32	(3925)4492
石 井 伸 行	石 神 井 高	177-0051 関町北2-27-13	(3929)8122
	H16. 4. 1	177-0051 関町北4-32-48	(3929)0831
井 川 淳 一	大 泉 北 中	178-0061 大泉学園町7-14-16	(3922)7417
	H16. 4. 1	178-0062 大泉町5-4-32	(3925)9230
池 田 頼 宣	関 中	177-0051 関町北4-2-12	(3920)4180
	H16. 4. 1	177-0051 関町北4-34-23	(3929)0048
生 田 剛 史	橋 戸 小	178-0062 大泉町1-1-29	(3924)5070
	H13. 4. 1	178-0062 大泉町2-11-25	(3925)8620
石 塚 亨	石 神 井 小	177-0041 石神井町2-31-29-2 F	(3996)2882
	H14. 4. 1	177-0045 石神井台1-1-25	(3997)3277
磯 田 千 恵	練 馬 小	179-0074 春日町6-2-2アーバンヒルズ101	(5971)6480
	H26. 4. 1	179-0074 春日町6-11-36	(3990)4244

氏 名	就任校	住 所	電話番号
	就任年月日	就任校住所	就任校電話
伊 藤 伸 介	北 町 西 小	179-0084 氷川台4-38-9	(3933)8686
	H17. 4. 1	179-0081 北町7-3-8	(3932)7234
岩 田 隆 嗣	光 和 小	177-0041 石神井町3-24-7	(3996)0269
	H25. 4. 1	177-0041 石神井町2-16-34	(3997)3261
上 田 和 也	上石神井中	177-0045 石神井台2-1-11	(3997)9988
	H28. 4. 1	177-0044 上石神井4-15-27	(3920)1126
上 原 正 美	南 町 小	176-0012 豊玉北6-16-17- 2F	(3557)1180
	H17. 4. 1 (大泉高定時→)	176-0001 練馬2-7-5	(3993)2438
梅 田 博 幸	開進第二中	179-0085 早宮1-34-6	(5999)4182
	H24. 4. 1	176-0001 練馬2-27-28	(3993)1348
梅 津 雅 人	石神井台小	177-0045 石神井台6-18-4富士サンハイツ101号	(5387)6018
	H26. 7. 1	177-0045 石神井台8-6-33	(3928)7124
央 慶 子	練馬特別支援	179-0076 土支田1-6-11	(3921)8826
	H24. 4. 1	179-0075 高松6-17-1	(5393)3524
大 川 内 誠	関 町 小	177-0045 石神井台3-24-20	(3997)2535
	H31. 4. 1	177-0051 関町北3-23-34	(3929)1290
大 塩 か お り	大泉特別支援	179-0074 春日町6-2-16	(3999)6848
	H16.10. 1	178-0061 大泉学園町9-3-1	(3921)1381
大 島 一 夫	練 馬 中	179-0075 高松3-13-9	(3998)8118
	H23. 4. 1	179-0075 高松1-24-1	(3990)5451
大 野 タ ロ ウ	井 草 高	177-0044 上石神井2-23-17アイランズステーション1F	(5991)8002
	H13. 7. 1	177-0044 上石神井2-2-43	(3920)0319
大 橋 一 朗	旭 丘 中	176-0005 旭丘1-65-17小坂ビル 2F	(3565)1182
	H28. 9. 1	176-0005 旭丘2-40-1	(3957)3133
尾 崎 守	大 泉 中	178-0063 東大泉3-3-14	(3922)1451
	H23. 7. 1	178-0063 東大泉4-27-35	(3924)0771
押 尾 武	練馬第三小	176-0021 貫井2-2-10	(3999)7599
	H29. 1. 1	176-0021 貫井1-36-15	(3970)5641
織 井 康 互	高 松 小	179-0075 高松6-25-2	(3997)2655
	H22. 4. 1	179-0075 高松3-16-1	(3999)3376

氏 名	就任校	住 所	電話番号
	就任年月日	就任校住所	就任校電話
金 澤 正 彦	練馬工業高	176-0001 練馬1-2-9-1F	(3948)6766
	H 9. 6. 1	179-0085 早宮2-9-18	(3932)9251
金 川 修	中 村 西 小	176-0023 中村北4-20-16	(3999)2230
	H21. 4. 1	176-0023 中村北4-17-1	(3990)4237
金 田 和 彦	泉 新 小	178-0062 大泉町4-38-13フォンテーヌ横山101	(5387)6480
	H11. 3. 1	177-0031 三原台3-18-30	(3925)4343
鎗 木 秀 昭	南 が 丘 小	177-0033 高野台3-7-8	(5372)1182
	H17. 4. 1	177-0035 南田中2-13-1	(3904)1282
河 奈 文 彦	田 柄 中	176-0012 豊玉北6-4-5新谷ビル2F	(3948)8251
	H 7. 4. 1	179-0073 田柄3-3-1	(3990)4403
川 端 明 美	光が丘むらさき幼	179-0083 平和台4-23-5	(3550)2122
	H23. 4. 1	179-0072 光が丘3-3-5-101	(3976)7221
瓦 井 徹	大 泉 西 小	178-0061 大泉学園町5-6-5	(3922)3239
	H20. 8. 1	178-0065 西大泉4-25-1	(3925)5832
関 東 英 雄	光が丘春の風小	179-0074 春日町6-16-21Make・Hill 172・2F	(3990)6487
	H22. 4. 1	179-0072 光が丘7-2-1	(3976)5861
木 村 昭 彦	大 泉 小	178-0063 東大泉6-2-26	(3923)8148
	H10. 4. 1	178-0063 東大泉4-25-1	(3924)0144
草 柳 英 二	石神井西小	177-0051 関町北1-25-14	(3928)1080
	H14. 4. 1	177-0051 関町北1-1-5	(3920)0382
栗 田 知 之	練馬東中	179-0074 春日町3-31-17	(3825)4182
	H17. 4. 1	179-0074 春日町2-14-22	(3998)0231
栗 田 正 明	南 が 丘 中	176-0021 貫井3-6-5	(3998)6241
	H13. 4. 1	177-0035 南田中4-8-23	(3904)5782
黒田耕太郎	貫 井 中	176-0001 練馬4-24-15	(5999)5588
	H30. 4. 1	176-0021 貫井2-14-13	(3990)6412
小 池 泉	都立大泉高校附属中	178-0063 東大泉5-38-23	(3921)8143
	H22. 4. 1	178-0063 東大泉5-3-1	(3923)4107
小 池 修	旭 町 小	179-0081 北町2-41-14	(3931)8244
	H18. 4. 1	179-0071 旭町2-29-1	(3939)0362

氏 名	就任校 就任年月日	住 所 就任校住所	電話番号 就任校電話
小 杉 京 子	田柄第二小	179-0073 田柄2-6-21	(3930)8888
	H17. 4. 1	179-0073 田柄1-5-27	(3938)8826
小 林 力	豊 溪 小	178-0062 大泉町1-22-1	(3922)2339
	H15. 4. 1	179-0076 土支田2-26-28	(3925)2444
小 宮 城 治	中 村 小	176-0023 中村北2-24-15	(3998)8041
	H26. 5. 1	176-0024 中村2-8-1	(3990)4241
郷 家 英 二	大 泉 西 中	178-0063 東大泉5-41-17	(3978)7764
	H 6. 4. 1	178-0065 西大泉3-19-27	(3921)7101
斎 坂 俊 夫	春 日 小	179-0074 春日町5-2-17	(3990)4184
	H25. 4. 1	179-0074 春日町5-12-1	(3926)7102
斉 藤 良 造	大 泉 高	176-0012 豊玉北2-20-11	(3948)2700
	H 7. 4. 1 (豊玉中→)	178-0063 東大泉5-3-1	(3924)0318
西 條 且 津	開進第二小	176-0002 桜台1-4-15エルミタージュ桜台2F	(3992)4141
	H22. 4. 1	176-0002 桜台5-10-5	(3993)2425
阪 本 栄 一	豊 玉 南 小	176-0014 豊玉南2-5-1アーバンクレスト1F	(3991)5523
	H27. 4. 1	176-0014 豊玉南2-14-1	(3993)6425
佐 久 間 栄	光が丘第八小	179-0073 田柄5-20-19	(5241)6480
	H25. 4. 1~H30. 3. 31 (光が丘第四中)R2. 4. 1	179-0072 光が丘1-4-1	(5997)4828
笹 川 洋 一	開進第一中	179-0074 春日町3-31-9	(3999)7887
	H 1.10. 1	179-0085 早宮1-16-50	(3993)2417
佐 藤 和 典	光が丘第二中	179-0074 春日町6-16-11フォーチュン光が丘2F	(3998)6414
	H20. 4. 1	179-0072 光が丘7-1-1	(3976)9202
佐 藤 公 男	大泉第一小	178-0061 大泉学園町7-11-13	(3921)8848
	H30. 4. 1	178-0062 大泉町3-16-23	(3925)2455
志 賀 正 彦	石神井東中	177-0041 石神井町2-12-4	(3995)2588
	H25. 4. 1	177-0033 高野台1-8-34	(3996)2157
須 賀 勉	上石神井北小	177-0041 石神井町6-6-17	(3996)0592
	H11. 4. 1	177-0045 石神井台5-1-32	(3920)1011
杉 江 哲 也	光が丘さくら幼	179-0085 早宮2-17-37-203	(3931)5400
	H26.11. 1	179-0072 光が丘2-4-8-101	(3976)2562

氏 名	就任校	住 所	電話番号
	就任年月日	就任校住所	就任校電話
杉 田 廣	下石神井小	177-0042 下石神井1-7-9	(3995)0733
	H 6. 4. 1	177-0042 下石神井2-20-18	(3997)5241
高 木 裕 明	南 田 中 小	177-0041 石神井町5-1-9ハイライフ石神井203	(3996)4499
	H25. 4. 1	177-0035 南田中5-15-37	(3997)1145
高 梨 登	光が丘四季の香小	179-0072 光が丘3-7-1-103	(5998)8211
	H13. 4. 1 (光が丘第三小→)	179-0075 高松5-24-1	(3977)2711
竹 治 昌 則	練 馬 高	179-0085 早宮3-2-3	(3994)6207
	H23. 4. 1	179-0074 春日町4-28-25	(3990)8643
竹之内大助	谷 原 中	177-0041 石神井町2-15-8グリーンフォレストⅡ2F	(6913)4618
	H27. 4. 1	177-0032 谷原4-10-5	(3995)8036
田 中 俊 三	大 泉 北 小	178-0063 東大泉1-19-35-202	(3923)5248
	H27. 4. 1	178-0062 大泉町4-28-22	(3925)5912
角 田 不 二 彦	第四商業高	176-0021 貫井3-8-17内田ビル2F	(3998)7298
	H 9. 4. 1 (第四商業定時→)	176-0021 貫井3-45-19	(3990)4221
泊 昌 人	豊 玉 小	176-0012 豊玉北6-14-3エムエフビル2F	(3557)1818
	H23. 4. 1	176-0013 豊玉中4-2-20	(3993)4286
鳥 越 博 貴	大 泉 桜 高	178-0063 東大泉2-40-8	(3867)8018
	H26. 4. 1	178-0062 大泉町3-5-7	(3978)1180
中 島 保 明	開進第三小	176-0002 桜台2-1-2	(5999)3278
	H20. 4. 1	176-0002 桜台2-18-1	(3993)4263
中 田 郁 平	北 町 小	179-0081 北町1-28-11	(3933)2745
	S60. 4. 1 (北町西小→)	179-0081 北町1-14-11	(3932)3296
中 村 直 己	豊 溪 中	179-0071 旭町3-11-1	(3979)1182
	H16. 4. 1	179-0071 旭町3-5-10	(3939)0245
中 村 雅 史	開進第三中	176-0011 豊玉上1-10-6-2Fシャトウ中村ビル	(3993)8823
	H13.11.14	176-0002 桜台3-28-1	(3993)4265
中 山 庸 成	八 坂 中	178-0062 大泉町3-2-13-1F	(3923)0030
	H21. 4. 1	179-0074 土支田4-47-21	(3924)0399
名 古 谷 昌 宏	豊玉第二中	176-0002 桜台4-1-3第2田中ビル1F	(3994)3900
	H14. 4. 1	176-0012 豊玉北2-24-5	(3993)4212

氏 名	就任校	住 所	電話番号
	就任年月日	就任校住所	就任校電話
成 田 俊 英	練馬東小	179-0074 春日町3-35-12	(3999)8031
	H22. 4. 1	179-0074 春日町1-30-11	(3990)9142
新 野 幹 樹	大泉第二小	178-0064 南大泉5-10-18	(3922)5278
	H28. 9. 1	178-0064 南大泉4-29-11	(3924)2127
西 克 昌	早 宮 小	179-0085 早宮4-39-14 芹澤ビル2A	(5999)9870
	H21. 4. 1	179-0085 早宮4-10-17	(3993)5165
西 村 滋 美	石神井特別支援	178-0063 東大泉1-36-3ベルグ大泉4F	(3923)0418
	H13. 4. 1	177-0045 石神井台8-20-35	(3929)0012
沼 口 隆 二	旭 丘 小	176-0004 小竹町1-36-5	(5995)0804
	H 4. 4. 1 (開進第三中→)	176-0005 旭丘2-21-1	(3957)2151
野 坂 祐 介	立 野 小	177-0052 関町東1-3-19	(3929)6480
	H24. 4. 1	177-0054 立野町17-13	(3920)9101
橋 本 八 千 代	練馬第二小	176-0021 貫井5-17-22	(3999)6710
	H22. 4. 1	176-0021 貫井2-31-13	(3990)4247
蓮 池 敏 明	富士見台小	177-0034 富士見台4-44-2-2 F	(3990)1188
	H16. 4. 1	177-0034 富士見台4-16-10	(3998)6351
浜 田 一 彦	石神井南中	177-0044 上石神井2-30-21	(3594)1281
	R 2. 4. 1	177-0042 下石神井2-7-23	(3997)3315
治 田 晶 彦	豊玉東小	179-0085 早宮2-16-31-203	(3933)1513
	H 5. 4. 1	176-0012 豊玉北1-16-1	(3993)4217
樋 口 和 彦	北 原 小	177-0041 石神井町3-25-21-211	(5393)8880
	H24. 4. 1	177-0032 谷原4-9-1	(3904)5172
日 比 輝 彦	大泉第四小	178-0065 西大泉4-10-36	(3921)8841
	H 7. 4. 1	178-0065 西大泉1-24-1	(3925)2478
日 向 邦 彦	光 丘 高	177-0035 南田中5-2-1 南田中ビル2F	(5393)0708
	H13. 4. 1	179-0071 旭町2-1-35	(3977)1501
古 田 裕 司	豊玉第二小	176-0022 向山4-12-8	(3825)8455
	H10. 4. 1	176-0011 豊玉上2-16-1	(3993)0421
穂 坂 康 朗	開進第四小	176-0004 小竹町1-2-3	(3955)8143
	H30. 4. 1	176-0003 羽沢2-33-1	(3993)6153

氏 名	就任校	住 所	電話番号
	就任年月日	就任校住所	就任校電話
堀 正 裕	中 村 中	176-0023 中村北3-22-14	(3577)6696
	H24. 4. 1	176-0025 中村南1-32-21	(3990)4436
本 田 美 知 子	光が丘夏の雲小	177-0041 石神井町4-6-15	(3997)6651
	H27. 6. 1	179-0072 光が丘3-6-1	(5998)0501
槇 本 し の ぶ	光が丘第三中	179-0073 田柄5-5-21	(3825)0414
	H22. 4. 1	179-0072 光が丘3-2-1	(3977)3521
正 木 研 朗	大 泉 東 小	178-0063 東大泉2-5-9	(3923)4114
	H 1. 4. 1	178-0063 東大泉1-22-1	(3922)1355
松 本 大 輔	八 坂 小	178-0063 東大泉2-8-1パレスフォンテーン1F C号	(3922)3748
	H27. 4. 1	179-0076 土支田4-48-1	(3922)7625
水 野 重 美	田 柄 高	179-0073 田柄3-6-20-101	(5241)6487
	H25. 4. 1	179-0072 光が丘2-3-1	(3977)2155
南 誠 二	大泉学園小	178-0063 東大泉3-29-5	(3922)3366
	H20. 4. 1	178-0061 大泉学園町4-7-1	(3923)0006
宮 本 一 世	石 神 井 中	177-0045 石神井台7-22-3	(3594)4618
	H27. 4. 1	177-0045 石神井台1-32-1	(3997)3131
村 上 順 二	関 町 北 小	177-0051 関町北3-42-6	(3929)8241
	H 1. 6. 1	177-0051 関町北5-13-40	(3920)1027
森 田 修 司	開進第四中	176-0002 桜台2-23-2	(3991)7694
	H20. 4. 1	176-0003 羽沢3-24-1	(3993)1481
森 山 憲 一	大泉学園桜小	178-0061 大泉学園町7-8-30	(3925)5825
	S55. 4. 1	178-0061 大泉学園町9-2-2	(3924)1126
安 田 智 恵 子	北 大 泉 幼	178-0061 大泉学園町6-1-37	(3924)2590
	H27. 4. 1	178-0062 大泉町2-46-6	(3925)6092
谷 内 文 夫	三 原 台 中	178-0063 東大泉2-4-7	(3978)6480
	H18. 4. 1	177-0031 三原台3-13-41	(3925)9564
柳 下 道 郎	石神井東小	177-0033 高野台1-3-7NFプラザⅡ301	(3996)8082
	H23. 4. 1	177-0035 南田中3-9-1	(3997)3312
蒔 本 治	光が丘秋の陽小	179-0073 田柄5-27-11ハートビル2F	(3999)8818
	H18. 4. 1 (田柄第三小→)	179-0072 光が丘2-1-1	(3976)6331

氏 名	就任校	住 所	電話番号
	就任年月日	就任校住所	就任校電話
山 崎 武 雄	上石神井小	177-0044 上石神井1-13-4	(3920)2821
	H11. 4. 1	177-0044 上石神井4-10-9	(3920)0805
山 田 茂 幸	北 町 中	179-0081 北町2-41-3シャトー北町1F	(3559)2362
	H11. 4. 1	179-0081 北町3-1-34	(3932)7231
山 中 宏 三	大泉学園桜中	178-0063 東大泉1-27-21アーバンデント2F	(3921)6480
	S56. 4. 1	178-0061 大泉学園町9-2-1	(3924)1126
山 室 直 子	豊 玉 中	176-0013 豊玉中2-5-15	(5912)7734
	H25. 4. 1	176-0014 豊玉南2-1-20	(3994)1451
山 本 智 彦	仲 町 小	179-0081 北町1-5-17	(3937)1322
	H 4. 4. 1	179-0084 氷川台2-18-24	(3932)5360
結 城 洋 仁	向 山 小	179-0075 高松2-3-15	(3970)4123
	H27. 4. 1	176-0022 向山2-14-11	(3999)9145
吉 川 剛 太	大 泉 南 小	178-0063 東大泉1-33-6大泉セントラルビル203	(3924)0101
	H30.11. 1	178-0063 東大泉6-28-1	(3922)1371
吉 積 宏 祐	光が丘第一中	179-0075 高松5-8 J・CITYタワー1F	(5372)4444
	H20. 4. 1	179-0072 光が丘6-5-1	(3976)5871
羅 均	石神井西中	177-0044 上石神井2-25-5-2F	(3594)3811
	H27. 4. 1	177-0053 関町南3-10-3	(3920)1034
脇 田 あ き	大泉学園緑小	178-0061 大泉学園町7-19-5-1F	(3923)2846
	H29. 4. 1	178-0061 大泉学園町5-11-47	(3925)7233
渡 辺 亨	大泉第三小	178-0061 大泉学園町1-1-5タカジンヤシャトー1F	(3923)0024
	S60. 4. 1 (光が丘第三小→)	178-0061 大泉学園町3-22-1	(3925)2466

練馬区学校歯科医会会則

第一章 総 則

- 第 一 条 この会は練馬区学校歯科医会と称し、事務所を東京都練馬区豊玉北六の五の十三練馬区歯科医師会館内におく。
- 第 二 条 この会は、練馬区歯科医師会の会員であり、練馬区内の学校歯科医並びに学校歯科衛生の振興に積極熱意を有するものを以て組織する。
- 第 三 条 この会は、練馬区学校保健会の学校歯科医部会とする。
- 第 四 条 この会は練馬区歯科医師会並びに東京都学校歯科医会と緊密に連携して事業を行う。

第二章 目 的

- 第 五 条 この会は、学校保健の普及発達につとめ、且つ会員相互の親睦を図ることを目的とする。
- 第 六 条 この会は、学校保健会の主旨にのっとり、前条の目的を達成するため次の事業を行う。
- 一、学校保健行政並びに関係団体への協力
 - 二、保健教育の実践並びに学校保健事業の推進
 - 三、学校保健に関する調査研究
 - 四、その他この会の目的達成に必要な事項

第三章 役員及び会務

- 第 七 条 この会に次の役員を置く。
- 一、会長 1 名
 - 二、副会長 2 名
 - 三、理事若干名
 - 四、監事 2 名
2. 前項第一号から第三号を理事とし、前項第三号の理事より一名を専務理事とする。専務理事は理事の互選により決める。
3. 役員の任期は 2 年とする、但し再任はさしつかえない。
4. 補欠役員の任期は前任者の残任期間とする。
- 第 八 条 この会に顧問、委員を置くことができる。
- 第 九 条 会長、監事は総会において選出する。但し副会長及び第七条第 1 項第三号の理事は会長の指名とし、理事及び監事は相互に兼ねることはできない。
- 第 十 条 会長は会を代表し会務を統括する。
2. 副会長は会長を補佐し、会長に事故あるときは、これを代行する。

3. 理事は会務を分担し執行する。
4. 監事は会計並びに会務を監査する。
5. 顧問は会長の諮問に応じ会議に臨み意見を述べることができる。但し票決には加わらない。
6. 委員は委員会を構成し会長より委託された事柄を審議する。

第四章 理事会

- 第 十 一 条 この会に理事会を置く。
2. 理事会はすべての理事をもって構成する。
 3. 理事会は会長が招集する。
- 第 十 二 条 理事会は、次の職務を行う。
- 一、この会の業務執行の決定
 - 二、理事の職務の執行の監督
 - 三、専務理事の選定および解職
 - 四、学校歯科医の推薦
2. 前項四号に係らず、緊急の場合、学校歯科医の推薦は会長、副会長、専務理事の協議により決定し、次の理事会に報告し承認を得る。
 3. 学校歯科医の推薦は別途定める基準に沿って公正に行う。
- 第 十 三 条 理事会の決議は、決議について特別の利害関係を有する理事を除く理事の過半数が出席し、その過半数をもって行う。

第五章 総 会

- 第 十 四 条 総会は、会長が招集する。
- 第 十 五 条 定時総会は毎年三月に開催し、会務および諸般の報告をなし、承認を得るものとする。
2. 会長が必要と認めたときは臨時に開くことができる。
 3. 会員の5分の1以上からまたは監事から会議の目的とその理由を示して請求があったとき、会長は1か月以内に臨時総会を招集しなければならない。
- 第 十 六 条 総会の議長はその都度決めるものとする。議決はすべて出席者の過半数の賛成によって決める。
2. やむを得ない理由のために総会に出席できない会員はあらかじめ通知された事項について、総会召集通知に指定された書面をもって議決権を行使し、または他の会員を代理人として議決権の行使を委任することができる。
 3. 前項の場合、第1項の規定の適用については出席したもののみなす。
- 第 十 七 条 総会は、理事会の提案に基づき次の事項について決議する。
- 一、会長及び監事の選任又は解任
 - 二、事業計画、収支予算書の承認
 - 三、事業報告、決算書の承認
 - 四、入会金、会費及び負担金の額
 - 五、会則の変更

- 六、解散及び残余財産の処分
- 七、東京都学校歯科医会代議員の選任
- 八、会員の除名
- 九、理事会より委託された事項

第六章 会 計

- 第 十 八 条 この会の会計年度は毎年四月一日に始まり、翌年の三月三十一日に終る。
- 第 十 九 条 この会の経理は、会費、入会金、及び寄付金等を以てする。
- 第 二 十 条 会員は入会金、会費及び負担金を納入しなければならない。
2. 入会金、会費、及び負担金の額は総会で決める。

第七章 学校歯科医の退職及び退会

- 第二十一条 学校歯科医である会員がその職を辞すことを希望する場合は、当該会員は速やかに理由を添えてその旨を理事会に申し出を行い、学校歯科保健活動に支障が生じないように努めなければならない。
2. 学校歯科医である会員が、別に定める年齢に達した際は、理事会は当該会員に対し、当該年度末での学校歯科医の退職を勧告し、次年度からの学校歯科医の推薦を行わない。
3. 前項とは別に、下記の事項に該当する場合、理事会は学校歯科医の退職を勧告し、学校歯科医の推薦を取り消すことができる。
- 一、日常において、歯科診療行為を行っていないもの
 - 二、担当する学校などの園児・児童・生徒の歯科診療が不可能なもの
 - 三、第二十五条に該当するもの
4. 学校歯科医を退職した会員は退会したものとみなす。
5. 前項に係わらず、会員が学校歯科医退職後も会員資格継続を希望する場合、理事会に会員資格継続の申し出を行い、理事会の承認を得ることにより、当該会員は学校歯科医退職後も会員資格を継続することができる。
- 第二十二条 会員は、理事会において別に定める退会届を提出することにより、退会することができる。
- 第二十三条 会員が1年分に相当する会費若しくは負担金が未納の時は催促し、尚その後も未納の時は退会したものとみなす。
- 第二十四条 練馬区歯科医師会を退会したものは退会とする。
- 第二十五条 会員が次のいずれかに該当するに至ったときは総会の決議によって除名、譴責、戒告、又は役員の被選挙権・選挙権の停止処分とすることができる。
- 一、業務上不正行為があった者。
 - 二、学校歯科医としての職務を怠った者。
 - 三、この会の名誉又は体面を汚した者。
 - 四、本会則並びにこの会の諸規則の規定に反する行為をした者。
 - 五、会員としての義務を怠った者。
 - 六、東京都学校歯科医会又は日本学校歯科医会から除名された者。

七、その他除名すべき正当な理由があるとき。

第二十六条 会員が退会或いは除名された場合、東京都学校歯科医会及び教育委員会等関連団体にその旨を通知し、学校歯科医である場合は、その推薦を取り消す。

第八章 補 則

第二十七条 本会則に定めるもののほか、この会の運営に必要な事項は、理事会の決議により、別に定める。

付 則

1. 本会則の改廃は総会の議決による。
2. 本会則は平成十三年九月二十七日から効力を生ずる。
3. 本会則は平成二十四年十月一日に改定し施行する。

練馬区学校歯科医会会則施行規則

第一章 会 員

(構成員)

- 第 一 条 この会は会則第二条の規定により以下の者を会員とする。
- 一、練馬区内の幼稚園・小学校・中学校・高校の学校歯科医
 - 二、学校歯科衛生の振興に積極熱意を有するもの

(会員の資格の取得)

- 第 二 条 この会の会員になろうとする者は理事会の承認を受けなければならない。

(会員の適格者)

- 第 三 条 次の各号に該当する者をもって会員の適格者とする。
- 一、会則、諸規則及び議決を遵守し、この会の伝統を尊重するもの。
 - 二、この会の目的達成に寄与するため、東京都学校歯科医会及び日本学校歯科医会の会員となるもの。

(名誉会長)

- 第 四 条 この会に対して著しく貢献をなした学校保健事業の功労者を名誉会長とすることができる。
- 2. 名誉会長は理事会が推薦し、総会で決議され、この会の申し出を本人が受託したことにより成立する。
 - 3. 名誉会長はこの会における最高の栄誉の敬称とする。

(学校歯科医の推薦)

- 第 五 条 会則第十二条第3項の学校歯科医の推薦基準は以下の通りとする。
- 一、学校歯科保健に対する熱意のあるもの
 - 二、人柄、協調性が優良なもの
 - 三、当該学校に診療所が出来るだけ近いもの
 - 四、練馬区歯科医師会入会後3年以上たっているもの
 - 五、原則として区立保育園歯科医との兼任をしていないもの
 - 六、新規任用時に満65歳以下のもの

第二章 選 挙

(選挙権)

- 第 六 条 会則第二条の会員は会長、監事の選挙に関する選挙権を有する。但し会則その他の規則により選挙権及び被選挙権に制限を加えられた者は、この限りでない。

(被選挙権)

- 第 七 条 前条の選挙権を有し且つ入会後5年以上の会員は会長並びに監事の選挙に関する被選挙権を有する。但し会則若しくはその他の規則により選挙権及び被選挙権に制限を加えられた者は、この限りでない。

(選挙期日)

第 八 条 会則第九条により会長並びに監事選挙は定時総会にて行う。但し、再選挙の場合はこの限りではない。

(選挙公示)

第 九 条 会長並びに監事選挙の期日をその期日前 1 か月前までに公示しなければならない。但し、再選挙の場合はこの限りではない。

(候補者の届出)

第 十 条 前条の候補者の届出は選挙公示において指定された理事会に立候補又は推薦候補の届出をしなければならない。

(立候補の届出書に記載する事項等)

第 十 一 条 前条の候補者の届出書には、候補者になろうとする者の氏名、生年月日、住所、診療所の所在地及び名称並びに担当する学校を記載し、かつ、候補者の趣意書を添えなければならない。

2. 推薦候補者の場合、前項に加え、推薦者 2 名以上の署名捺印のある推薦書と本人の承諾書を添えなければならない。

(候補者の資格審査)

第 十 二 条 第十二条 前条の候補者の届出書を受けた理事会は会則並びに本規則に基づき候補者の資格審査を行い、候補者を決定する。但し、資格を有する候補者の届出がない場合は当該理事会で候補者を選定する。

(選挙方法)

第 十 三 条 選挙は以下の方法で投票により行う。

一、当該候補者及び推薦者を除く選挙立会人 2 名を議長が選定する。

二、投票は 1 人 1 票とする。

三、前項の投票は、定数が 1 名の場合単記無記名とし、複数定数の場合は定数記載し無記名とする。

四、会則十六条により委任された投票権も有効とする。

五、投票による上位者を当選とする。但し、定数 1 名の場合で過半数の得票者がいない場合、上位 2 名で再度投票し、過半数の得票者を当選とする。

2. 候補者が定数以内の場合は前項に係らず候補者を当選とする。

(東京都学校歯科医会代議員及び予備代議員の選挙)

第 十 四 条 東京都学校歯科医会代議員及び予備代議員の選挙は東京都学校歯科医会の定款並びに規定に従い行う。

(当選の無効)

第 十 五 条 不正の方法又は行為により当選した者は、当選を無効とする。

第三章 顧問並びに委員

(顧問)

第 十 六 条 会則第十条第 5 項の顧問は見識豊かで学校歯科衛生に精通している者に会長が委嘱する。

(委員)

第 十 七 条 会則第十条第 6 項の委員は会長が委嘱し委員会を構成する。

2. 委員は互選により、委員長、副委員長を選出する。
3. 委員は会長または議長より諮問された事項を審議、答申する。

第四章 会 計

(会費)

- 第 十 八 条 会則二十条の入会金は20,000円とする。
2. 会則二十条の会費は年額20,000円とする。
 3. 第四条の名誉会長であり、且つ学校歯科医でないものは前項の会費を免除することができる。
 4. 前2項とは別にこの会の事業に必要な場合は特別会費を徴収することができる。

(報酬と費用弁償)

- 第 十 九 条 役員には報酬を支給することができる。
2. 役員及び委員並びにこれに準ずる者が会務執行のために要した費用は、これを弁償することができる。

第五章 学校歯科医の退職

(年齢)

- 第 二 十 条 会則第二十一条第2項の年齢は満75歳とする。

第六章 慶 弔

(慶弔)

- 第 二 十 一 条 この会は表敬弔意を行うことができる。なお、この基準は理事会の議を経て定める。

- 第 二 十 二 条 本規則の改定は理事会の決議を経て、総会に報告するものとする。

1. 本規則は平成二十四年十月一日から施行する。
2. 本規則は平成二十六年四月一日から施行する。
3. 前項に係らず、第二十条は平成二十七年度における再任用の推薦時から施行する。

思い出の一言

大泉学園緑小学校初代歯科校医として

練馬区立大泉学園緑小学校 前歯科校医 近藤 勝洪

大泉学園緑小学校は昭和53年4月1日に開校され、初代歯科校医として任命されました。その当時の多くの事が、思い出として浮かびます。平成28年まで40数年にわたり学校歯科保健活動を行ってきましたが、最近では歯科校医時代の児童が元気で立派な大人に成長した姿を見てうれしく、昔を思い出します。また、今なお大泉学園緑小学校から式典等の案内状が届き懐かしく感じます。

練学歯六十五周年に寄せて

練馬区立豊玉小学校 前歯科校医 市川 泰右

練学歯には日学歯に三名の会長を輩出しているように、学校歯科保健活動に熱心な先生方が数多くいます。春秋の歯科健康診断や、練馬区独自の小中学校校長との研修懇談会、学校巡回指導講演のほか、各種学校歯科保健大会への参加など事業活動が充実しています。私の幼少の頃は、ランパントカリエスの児童は多数いましたが、昨今のDMFT指数は、0.65本以下と隔世の感があります。

ウイズコロナの時代を迎え、事業活動にも大きな影響を受けるかと思いますが、今後の先生方のご活躍を祈念しています。

学校歯科医時代の思い出

練馬区立上石神井中学校 前歯科校医 清水 澈

練馬区立上石神井中学校の学校歯科医を拝命し歯科健康診断を通し、学校と地域の繋がる大切さを改めて知りました。入学式、卒業式、運動会の祝祭に参加しました。生徒たちの成長を目の当たりにし、頼もしく、微笑えましく思いました。先生方とお話をさせて頂き良い思い出となっています。

練馬区学校歯科医会

会 長 草柳 英二
副 会 長 名古屋 昌宏
金澤 正彦
専務理事 石井 伸行
理 事 西 克昌
樋口 和彦
浅見 律
西村 滋美
佐藤 和典
監 事 中田 郁平
渡辺 享

練馬区学校歯科医会65年記録誌編集委員会

草柳 英二 名古屋 昌宏 金澤 正彦 石井 伸行 西 克昌 佐藤 和典 浅見 律

練馬区学校歯科医会65年記録誌

印 刷 令和 4 年 8 月 30 日
発 行 令和 4 年 9 月 1 日
発行人 練馬区学校歯科医会 草柳 英二
〒176-0012 練馬区豊玉北 6-5-13
練馬区歯科医師会館内
TEL03 (3557) 0045 (代)
FAX03 (3557) 3553
HP. <https://www.nerigakushi.tokyo>
印刷所 **有限会社 かどや印刷**
東京都練馬区下石神井 5-1-37
TEL03 (3997) 0370
FAX03 (3995) 0594



練馬区学校歯科医会